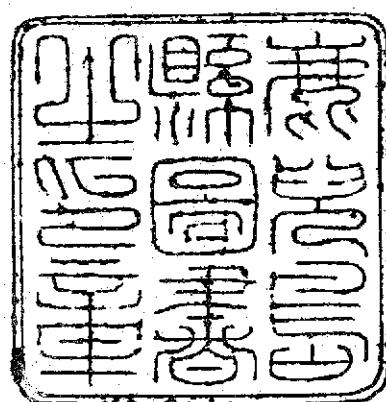


鹿兒島縣史料集（第十六輯）

鹿兒島縣地誌

上



刊行のことば

鹿児島県史料第十六集として、ここに「鹿児島県地誌上」を発刊いたします。

本書は明治十七年県から政府に提出された行政資料であり、底本として用いたものは本館所蔵で、当時控えとして作成された原稿本です。当時各県から同種のものが政府に提出されたわけですが、それはすべて大正十二年の関東大震災で焼失してしまい、各县控えのものも今日まで保存しているところは少いといわれる貴重本です。ただ本県でも薩摩国だけで大隅国が無いのは残念です。しかし薩摩国だけでも全十八巻ありますので、上下二巻に分けて刊行することにし、今年は第一巻鹿児島郡から第九巻阿多郡までを収録いたしました。内容が大量なためなるべく安価にするという見地から、原本をそのまま写真版にして印刷するという方法をとりました。原本に虫くいや墨が薄くて読みにくい文字等がありましたので、鹿児島女子短期大学桐野利彦助教授にお願いして、補正ならびに解説を加えていただきました。大量のものをていねいに補正していただいた桐野先生に、心からお礼申し上げます。

県史料の刊行は県立図書館の事業の一つとして進められ、資料の保存ならびに研究者の利用に供しようとするものであります。特に本集は薩摩国各郡村の状況を刻明に記しています。研究者はもちろん、行政関係者や一般県民の方々の御参考になれば幸甚至極と考える次第であります。

昭和五十一年三月

鹿児島県立図書館長

芳即

正

解題

鹿児島県には、藩政末期から明治初期にかけて、三国名勝図絵、名勝誌、薩隅日地理纂考、地誌備考等の地誌類が多く編さんされ、その数はけつして少なくない。

しかし、これらは各郡村の沿革や神社寺院、佛堂、古跡古戦場、墳墓、旧跡、高山嶺岳、河川等の記述が主となっていて、当時の社会や庶民の実態等は、あまり具体的に示されていない。

ところが、明治十五年から明治十七年にかけて編成された「鹿児島県地誌」には、各郡村の沿革や名所旧跡等歴史的なものはもとより、郡村単位に、自然環境、庶民生活の全般に亘って、きわめて具体的に、とくに戸口、性别人口、族籍別人口、耕地、生産等、数字で表わせるものは、みな細い数字で示されている。当時の社会、庶民、生産等の実態が、きわめて具体的に示されている。

こういうわけで、地誌という観点からすれば、これ以前の三国名勝図絵や、薩隅日地理纂考等より、はるかにすぐれ、近代的総合的な地誌となっている。

「鹿児島県地誌」は、写本として県立図書館に所蔵され、十八巻から成るぼう大なものであるが、残念なことに、薩摩国（甑島郡欠）だけで大隅国がかけている。しかし、本県の旧日向地域すなわち南諸県郡（志布志、松山、大崎）は、後述するように、日向地誌で補うことができる。

「鹿児島県地誌」は、政府の要請により、政府へ提出した県撰の地誌で、第三巻等に政府への進達添書がついている。早稲田大学の村田英穂氏によれば、明治政府は明治八年、全国府県にその郡村誌提出を示達し、それをまとめて「皇國地誌」を編さんしている。「皇國地誌の原本は、大正十二年の関東大震災で、焼失したといわれているが、その副本（写

本）は、県によつてはその全部または一部が残存している。そして同氏からその一例として、県立図書館に寄せられた「武藏国郡村誌（刊本）」の「広ヶ谷戸村」の記述の項目をみると、疆域、管轄沿革、里程、地勢、地味、税地、字地、貢租、戸数、人口、牛馬、舟車、川、道路、神社、佛寺、古跡、物産、民業となつていて、「鹿児島県地誌、日向地誌」の記述項目と、その名称、順序がまったく同じで、また各項目の記述の体裁も、ほとんど変わらない。「鹿児島県地誌」、「日向地誌」が、「皇國地誌」の一部をなすものであることは、明らかである。政府は、細いところまで記述の形式を示して、「皇國地誌」の編さんをしたものとみえる。

明治政府は、新施策々定の基礎資料を得るため、全国各地にその精密な地誌の提出を、求めたのではなかろうか。

次に「鹿児島県地誌」の編さんについて日向地誌と関連して述べる。

「日向地誌」は、その敍言によつて、撰者、起稿年次がよくわかるが、「鹿児島県地誌」は撰者、起稿年次ともによくわからない。「日向地誌」の撰者平部崎南が記したその敍言によると、

「此書旧宮崎県庁ノ旨ヲ承ケ明治九年一月ヲ以テ業ヲ創ム同年八月宮崎県ヲ廢シ鹿児島縣ニ隸スルニ及テ更ニ本庁ノ命ヲ奉シ再ビ業ヲ興セシガ十六年七月鹿児島縣ヲ分ツテ再ビ宮崎県を置ニ及テ又復宮崎県庁ノ旨ヲ承ケ業ヲ卒フ其初メ稿ヲ起スヤ中心竊ニ自カラ滿六年ヲ以テ卒業ヲ期ス不幸ニシテ十年西南ノ亂ニ遭ヒ休業一年半十一年五月ニ至リ再ビ業ヲ興ス……」

とあつて、「日向地誌」が、明治九年に起稿されたことは明らかである。前述のとおり、政府の各府県への示達は、明治八年であるので、年次的にも合致している。これに対し、「鹿児島県地誌」は撰者も、起稿年次も明確でない。しかし、右記の「日向地誌」の敍言に、「同年八月宮崎県ヲ廢シ鹿児島縣ニ隸スルニ及テ更ニ本庁ノ命ヲ奉ジ再ビ業ヲ興セシガ……」とある。この本庁は、鹿児島県庁であることは明らかである。鹿

児島県は、当時新併入の日向地域の地誌の編さんを命じてあるのであるから、薩摩、大隅の地誌編さんには、当然取りかかっていたと見るのが自然であろう。「鹿児島県地誌」も「日向地誌」と前後して起稿されたものと考えたい。

地誌の編さんが終ったのは、「日向地誌」は巻初に明治十七年とあり、「鹿児島県地誌」は、郡によって異り、数巻の巻末に明治十五年、明治十七年とあるので、明治十五年ごろから全十七年の間に完成したものと思われる。したがって、起稿後七、八年もかかっているわけで、その理由のひとつに西南の役があることは、「日向地誌」の敍言に示されたとおりである。そして政府への提出は、「鹿児島県地誌」は、その数巻の巻初に記された進達添書によると、編成を終った郡から逐次提出しているので、その期間は、明治十五年から明治十七年の三か年に亘っている。日向地誌は、後掲の文書により、明治十八年に一括して、提出したものと思われる。

県立図書館には、南諸県郡だけの原本の「日向地誌」が所蔵されているが、これには面白い経緯がある。明治十六年、鹿児島県から分離して、宮崎県が設置されたが、その際諸県郡を南北に二分し、南諸県郡すなわち志布志、大崎、松山は、鹿児島県に属するようになつた。しかしこの地域は、当時の地誌編さんでは「日向地誌」の地域で、諸県郡として調査されていたことは、言うまでもない。ところが明治十六年、その南半の南諸県郡だけが、鹿児島県に編入されることになつたので、南諸県郡の地誌の問題で、鹿児島県と宮崎県の間に交渉があつた。それは、「日

向地誌」の巻末に載せられた両県の往復文書でよくわかるので、少しおがくなるがそれを引用しよう。

庶甲第三十四號

本月十三日往第一八號ヲ以御照会相成候日向國地誌之儀者已ニ編輯整頓ニ付不日進達之都合ニ有之候尤分縣前之調ニテ南諸縣郡モ全部ニ合シテ編輯候ニ付別ニ引分ケス其儘進達ノ積リニ有之候間此段及御回答候也

明治十八年一月二十日

鹿児島縣令 渡邊千秋殿 宮崎縣令 田邊輝實 印
往第八二號

御管内日向國地誌之儀ニ付及御照会候處本月廿日庶甲第三十四號ヲ以御回答之赴致了承候分縣前之調ニテ南諸縣郡モ全部ニ合シ編輯相成候ニ付テハ全部々誌同郡并南諸縣ニ相係ル村誌本府江モ相輔置度乍御手數謄写御回送有之候様致度尤紙代寫料等之儀者御申越次第可致通送候間此段及御依頼候也

明治十八年一月廿四日

鹿児島縣令 渡邊千秋 印

宮崎縣令 田邊輝實 殿

庶甲第二百五十八號

本年一月廿四日付第一八二號ヲ以御依頼相成候日向地誌ノ内南諸縣郡々村誌今般謄写出来候ニ付及御回送候間御落堂相成度尤筆工料左記ノ通り御回付相成候様致度此段御回答旁申進候也

明治十八年五月十二日

宮崎縣令 田邊輝實 印

鹿児島縣令 渡邊千秋殿

追而本書ハ別途郵便ニ差出候間此段申添候也

記

(筆工料の内訳を記載してあるが省略)

合計

紙數百七枚

筆工料金三圓七拾四錢五厘

但壹枚三錢五厘ヅ、

往第六三九號

先般及御依頼候日向地誌之内南諸縣郡々村誌今般謄写出来庶甲第二百五十八號ヲ以御回送相成候筆工料金三圓七拾四錢五厘者第百四十七国立銀行送金手形ヲ以及御回送候間領收證書御廻付相成候様致度此段御回答旁申進候也

明治十八年五月十八日

鹿児島縣令 渡邊千秋 印

宮崎縣令 田邊輝實殿

追而都圖ノ義モ精々御取急御廻送相成様致度此段モ申添候也

以上の往復文書によつて、南諸縣郡の郡村誌は、政府へは宮崎県から進達したことがわかり、鹿児島県もこれを了承している。しかし鹿児島県も南諸縣郡の郡村誌がほしく、宮崎県に筆工料三圓七十四錢五厘を支拂つて、その写本を入手している。このとき県が入手したものが、現在

県立図書所蔵の「日向地誌（南諸縣郡）」であると思われる（あるいはまたその写本であるかも知れないが）

今回、「鹿児島縣地誌」が刊行されることになつたが、この刊行は、県立図書館所蔵の写本をそのまま縮刷し、上下二巻とし、五十年度以上卷、五十一年度に下巻を刊行する予定である。そしてさきに述べた「日向地誌」の「南諸縣郡」を付録として、下巻に所載する予定になつている。

（桐野利彦）

凡例

一、本史料は、鹿児島県立図書館所蔵の鹿児島県地誌（写本）を、そのまま縮刷したものである。約二分の一に縮刷したので、本書の一ページに、原本の四ページが収録されている。

二、原本の文字には大小さまざまあり、縮刷のため小さい文字は、不明瞭になつたものもあると思われるが、止むを得なかつた。

三、原本には、欄外に本文の注がところどころしてある。本書ではスペースの関係で、欄外まで出せなかつたので、欄外の注はまとめて、巻尾に頭注として収載してある。

四、虫喰いや文字の不明瞭のか所は、そろ多くはないが、それらはいずれも、○印で示し、中の文字が明確に判読できるものは、補筆したところもあるが、大部分はそのままにした。

五、原本には、棒線で消し訂正したところが、かなりある。これには、原書写者が訂正したと思われるもの、本史料作成後、誰かが訂正したと思われるものがあるが、いずれもそのままとした。

六、原本には郡単位で図がついていたことは、政府への進達添書ではつきりするが、それが残存しているのは、鹿児島郡だけであるので、他郡にはその地図はない。

七、本書は、上巻に鹿児島郡、谿山郡、給黎郡、揖宿郡、穎娃郡、川辺郡、阿多郡を、下巻に日置郡、薩摩郡、高城郡、出水郡、伊佐郡と、日向地誌の南諸県郡を収録する。

八、本書の編成を主として担当したのは、鹿児島女子短期大学桐野利彦である。

鹿児島縣地誌・總目錄

上

卷一

鹿児島郡

上

卷二

鹿児島郡

下

卷三

谿山郡

一

卷四

給黎郡

一

卷五

揖宿郡

一

卷六

頴娃郡

一

卷七

川邊郡

上

卷八

川邊郡

下

卷九

阿多郡

一

卷十

日向郡

一

卷十一

日置郡

上

卷十二

日置郡

下

卷十三

薩摩郡

上

卷十四

薩摩郡

下

卷十五

高城郡

一

卷十六

出水郡

一

卷十七

伊佐郡

上

卷十八

伊佐郡

下

卷十九

南諸縣郡

付録

日向地誌

下

鹿兒島縣地誌目錄

阿多郡

卷一

薩摩國

鹿兒島郡上

卷二

鹿兒島郡下

卷三

谿山郡

卷四

給摯郡

卷五

揖宿郡

卷六

頴娃郡

卷七

川邊郡上

卷八

川邊郡下

卷十

日置郡上

卷十一

日置郡下

卷十二

薩摩郡上

卷十三

薩摩郡下

卷十四

高城郡

卷十五

出水郡

卷十六

伊佐郡上

卷十七

伊佐郡下

卷十八

甑島郡

鹿兒島縣地誌

目錄

薩摩國鹿兒島郡

坂元村

下田村

鹽屋村

荒田村

西田村

武村

上伊敷村

下伊敷村

小野村

永吉村

中村

郡元村

宇宿村

田上村

西別府村

犬迫村
小山田村

比志島村

岡ノ原村

川上村

吉野村

宮ノ浦村

木名村

西佐多浦村

東佐多浦村

鹿兒島縣地誌

薩摩國

鹿兒島郡

古鹿嶋ニ作レ享保中鹿兒島ト更ム本郡辛用

郷ハ古時大隅拾羅郡ニ屬ス○正十五年始テ

鹿兒島郡ニ隸ス

北ハ牟禮國ノ山脈其他ノ山川ヲ以テ大隅始
羅郡ニ属シ西北ハ矢嶽ノ山脈ヲ以テ薩摩郡
入水郡ニ属シ西北ハ花尾山ニ重嶽ノ頂及ヒ國
陵ヲ以テ日置郡ニ属シ南ハ谷山郡ト上陵及

ヒ平地ヲ界トシ東南ハ○ヲ隔テ、大隅郡櫻

島ニ對ス

幅員

東西貳里拾町四間南北四里貳拾貳町

管轄沿革古時伊佐平次貞時阿多郡ヲ領シ貞元ヲ經テ

李基ニ至ル李基ノ子川邊良道川邊郡ヲ領ス

良道六子アリ長子道房川邊郡ヲ領シ第二子

有道給梨郡ヲ領シ第三子忠永頼桂郡ヲ領シ

第四子忠明川邊郡加世田ヲ領シ第五子忠景

河内郡ヲ領シ第六子忠良本郡ヲ領シ鹿兒島

太郎ト稱ス忠景ノ後ノ繼ク以上古系四及ヒ

錚金ノ時島津忠久薩摩日三州ノ守護タリ尚

水郡木平種ニ居ル當時恭内聚次_{鹿兒島}文治中

六波羅ニ敗リ新田義貞錄金ニ克ツ貞久少貳
貞經大友貞宗ト興ニ探題北條英時ヲ博タニ
攻ム英時自殺ス建武中興久詔ヲ奉シテ大
隅ノ守護職ト為ル二年後醍醐天皇詔シテ尊
氏ヲ討ス二年正月貞久尊氏ニ屬シ官軍ト京
師ニ戰フ其後菊池武俊等既○敗レ九列ノ兵
風ヲ望シテ足利氏ニ属ス延元二年正月ニ降
侍従泰平地ノ薩摩ニ徇ス其後矢上盛純六世
ノ孫高純肝局兼重中村秀純等ト官軍ニ應シ
東福寺城及ヒ催馬樂城ニ據レ島津貞久ノヲ
攻メ東福寺催馬樂ノ西城ヲ抜ク貞久既ニ老
シ第一子師久ニ薩摩ノ守護職ヲ第二子大久
ニ大隅ノ守護職ヲ傳ノ師久ハ碇山城_{薩摩郡}ニ居リ氏久ハ東福寺城ニ居リ後大蛤民_{大隅郡}ニ遷リ又志布志_{諸縣}ニ遷リ後東福寺城ニ居
ル正平十一年_元代久_元代久南朝ニ應シ弘和元
年_{光朝}十入光朝ニ應シ氏久ノ子元久清木城
ヲ築キ之ニ告ル元久ノ半スルヤ伊集院城入
其子初代千代ヲ立ント謀ル元久弟久豈之ヲ
怒リ大ニ兵ヲ起シテ賴久ヲ擊ツ應永二十年

四月久豊義利氏ヲ擊フ領人其處ニ參シ清水
城ヲ襲ヒ之ヲ拔ク久豊兵ヲ返シ頼人ヲ擊フ
頼久原良ニ逃ク久豊率ス島津忠昌半護ヲ襲
ト元享四年反者三州ニ蜂起ス忠昌之ヲ計滅
スル能ハス其弟用久ヲシテ守護職ヲ攝シ反
者ヲ伐シメ忠昌大隅贈哈郡末吉ニ徒レ既ニ
シテ之ヲ悔ヒ若吉元子清水城ニ歸リ用久ヲ
逐フ用久谷山ニ據リ灰ス高木章家市来人家
等之ニ惑ス忠昌卒ス立久嗣ノ立人守護ヲ忠
昌ニ傳フ島津李入島津國人桂谷黨ノ擅權ヲ
惡ミ之ヲ擊シト請フ忠昌聽カス遂ニ叛ス文
明八年三月十八日李入鹿兒島ヲ侵ス忠昌伊
集院^{日里}内城ニ逃リ伊作久遠新納忠續ヲシ
テ鹿兒島ヲ守ラシム九年忠昌國人ノ田布施
門^那ニ攻ム永正十二月忠昌卒ス子忠治嗣
ク是時ニ當广國勢振ハズ強臣封内ニ政龜シ
三州大ニ亂ル忠治平シ弟忠隆嗣ク忠隆平シ
弟勝入嗣ノ大永六年島津實入又ス初ノ勝人
族島津實入ノ姉ヲ納レ夫人ト為シ實入ニ仕
スルニ因歎ヲ以テス實入擅權遂ニ守護ヲ李

ソコトヲ謀ル是ニ於テ勝人實入ノ仕ヲ解キ
夫人ヲ逐フ實入之ヲ恐ニ歎也愈甚シ勝入之
ノ患ヒ因政ヲ伊作ノ領主島津忠良ニ托ス勝
入子ナシ忠良ノ子實入ヲ以テ嗣ト爲ス實入
伊集院及ヒ谷山郡ヲ取リ其勢大ニ振フ貴人
ノ麾下亦實入ニ應ヘル者アリ是ニ於テ貴人
皆ク難ヲ田布施ニ避ケ重テテ兵ヲ半ヒ實入
ヲ鹿兒島ニ伐ツ實入谷山ニ奔ル貴人聰明矣
武積喪ノ餘ヲ承ケ喪礼ヲ喪ケ人民ヲ受撫シ
因政大ニ振フ天文土年貢人序城ニ遷レ永祿
六年大隅答羅郡吉田郷ヲ島津歲久ニ與エ河
多入鎮ヲ以テ地頭ト為シ後吉田郷ヲ木郡ニ
隸ス^{火ニ株ル}以上島津^日天正十五年壹臣秀吉大舉シ
テ島津氏ヲ討ス義人秀降レ秀吉義人ヲ薩摩
ニ封シ義弘ヲ大隅ニ義弘ノ第二子久保ヲ日
向諸縣郡ニ封ス義人義弘豐公征韓ノ軍ニ從
ヒ功アリ慶長土年間ケ厚役義弘西軍ニ属ス
義人之ヲ幽シテ以テ謝ス因テ義弘ノ子家人
舊封ヲ領スル故ノ如シ七年家人鶴丸城ヲ築
キ文ニ告ル十四年琉球ヲ伐テ之ヲ降シ其大

島等上島ヲ取ル徳川氏大政ヲ奉達セシ後島津忠義封土ヲ奉還シ明治四年七月鹿兒島縣

二屬入

里程

東 大隅大隅郡櫻島工海上九壹里
西 日置郡伊集院驛ニ四里三拾八間
南 谷山郡谷山驛ニ貳里貳拾町拾九間壹
北 大隅於羅郡童富驛ニ四里三町貳拾六
八 間貳八

地勢

東八海峽ニ瀕シ帆橋灣ニ湊ナ百貨市ニ列ル
西北群巒起伏スト難モ申宍川ノ下流其兩涯沃野平畴頗ル灌漑ニ便ナリ

氣候

郡ノ西北ハ山多キヲ以テ暑氣稍輕シ東南ハ海峽ニ西入氣候夏炎冬暖寒暖計極暑九月拾度極寒九月拾五度

風俗

其俗淳樸シテ勇敢武ノ好ム且ツ家産ノ如キハ古時島津氏ノ制農氏ノシテ土地ノ私有七シメザルヲ以テ農民ハ富厚ノ者少シ
郡ノ西南申宍川ノ両涯ハ其色赤黒ニシテ青波絶縁ニ至シ其質上ノ中西光ハ岡陵原野多

地味

鄉莊

ノ其色七分ハ赤ノ二分ハ黒シ雜較ニ過ス其質下ノ上

町村數

官用地

町四拾七村一
總計六拾九
鹿兒島縣領
薩摩大隅日向二州ノ管内本郡鹿兒島郡之領
六百八拾壹坪六合東西而可貳拾七間南北二
拾可貳拾七間光洋工拾壹度ニ拾五分所經九
度拾六分鹿兒島警察署ニ在牛面積四百四拾
九坪鹿兒島裁判所山下町三在牛面積千九百
二合鹿兒島警察試驗場鹿兒島山下町二在牛
面積一千四百二拾八坪同上

官有地

枕地

貴祖	地租	金二萬八百三拾人
	田賦	金一萬八千八百三拾人
	稅金	金一萬八千八百三拾人
	四厘	金一萬八千八百三拾人
	地方稅	金一萬八千八百三拾人
	四厘	金一萬八千八百三拾人
	地方稅	金一萬八千八百三拾人
	四厘	金一萬八千八百三拾人
戶數	總計	七萬五千四百五拾三圓五錢四毛
人口	本籍	貳萬三千八百拾貳戶
	百八拾	戶士族八十六百貳拾
	四戶	戶平民壹萬六千
	社八拾戶	官社主坐鄉社拾主村
	社八拾戶	社貳拾六戶無拾社四拾主
總計	貳萬四千貳百拾四戶	
男	三萬貳千八百七拾貳口	士族壹萬貳百八拾
	上下八文四萬五千百拾七口	平民貳萬一千
	萬九千九百八拾主口	士族壹萬五千一百
總計	七萬七千九百八拾九口	七口平民貳萬一千
	拾立口六四百八拾	士族壹萬五千一百
寄留	男四拾九口	七口平民貳萬一千
牛	六百貳拾八頭	士族壹萬五千一百
	牛三百四拾壹頭	七口平民貳萬一千
	馬一千五百	士族壹萬五千一百
尤拾	貳頭	七頭
	壯馬貳十百拾七頭	
總計	五千八百貳拾頭	
船	蒸氣船貳艘	百噸以上
花尾山	木船	及七日置郡二路七奇十八貳百七
	船六十六艘	大周四九主里四町山一束八木郡
舟	漁舟四	拾壹艘
遊船	貳	
總計	四拾五艘	

山川

地租	金二萬八百三十六十 圓貳拾元錢七厘四毛	營業稅	金一百一拾圓
四屋	地方稅	金二萬一千八百八十八 拾元錢九厘四毛	
總計	七萬五千四百五拾三圓五錢四毛		
木箱貳萬二千八百拾貳戶	士族八十六百貳拾 百八十八戶	人戶平民壹萬五十一 戶	
寄留三百貳拾貳戶	華族壹萬六百貳拾 戶	士族百萬八千八 戶	
社八拾戶	官社主坐縣社二坐 社武拾六戶無拾社四 拾主戶	平民貳百戶	
總計貳萬四千貳百拾四戶		拾主戶	
男三萬貳千八百七拾貳口	士族壹萬貳百八拾 七口	平民貳萬八百一 口	
上一百八文四萬五千百拾七口	士族壹萬五千百 口	平民貳萬八百一 口	
拾土口		拾壹口	
萬九千九百		平民貳萬八百一 口	
八拾壹口		拾壹口	
總計七萬七千九百八拾九口	士族壹萬貳百八拾 九口	平民貳萬八百一 口	
寄留男四拾九口	士族壹萬貳百八拾 九口	平民貳萬八百一 口	
總計百八口		拾壹口	
寄留男四拾九口	士族壹萬貳百八拾 九口	平民貳萬八百一 口	
半六百貳拾八頭	壯牛二百四拾壹頭 壯馬二十貳百八拾七頭	馬五千百 頭	
九拾貳頭	壯馬貳百七拾七頭		
九拾貳頭	壯馬貳百七拾七頭		
總計五千八百貳拾頭			
蒸氣船貳艘	百噸以上		
船			
總計四拾五艘			
花尾山	本郡又七月置郡二 跨七奇十八貳百七 丈周四十里四町山 水東八丈郡		

本名村ニ属シ西八日置郡厚見村ニ属ス山脉
東北矢嶽ニ連ル金山樹木翁幹淺淵出ノ印ナ
深ナリ矢嶽跡ル高ナガ四百四十丈嶺上
三里三分シ南ハ日置郡厚見村ニ属シ東八木
郡本石汁ニ属シ北ハ大隅給羅郡白毛村ニ属
八金山松樹聲茂山林東ハ中田郡ノ諧山ニ接
ナ光八大隅薄土郡ノ諧山ニ接シ南ハ花尾山
ニ達ニ重嶽木郡及ヒ日置郡ニ跨レ高十九三
ル郡北志与村本石村ニ属シ西北光ハ
置郡東保村ニ属ス樹木鮮シ年禮闈木郡
大隅給羅郡ニ跨ル高ナガ貳拾二丈周曰凡七里
間ノ東ハ重甯郡ニ属シ北ハ木郡音田郡ニ属
シ西南麓ハ古野村ニ属メ原野楓紅葉漢古之
寺寺跡ノ牧ト諧ノ金山樹木鮮ク唯青草ヲ生
す申宍川厚地村花尾山ニ属シ厚地村ノ東光
ノ流レ故月令七八甫流シテ松下月令七八入
南東保村ノ下伊敷村ノ裏ノ過ナ八東甫西田村
郡小山村ニ五丁郡山川ニ合シ又東甫北志
島川ノ合七犬村ト北志島村ノ界ノ過ナ八
東甫上伊敷村ト不野村ノ界ノ過ナ八東甫入
吉村ト下伊敷村ノ裏ノ過ナ八東甫西田村
經テ兔兒島市街ノ西ア過ナ陸屋村ノ南洲村
三里海ニ入ル木郡ニ保ルセノ長ナ久ニ里壹
町貳拾尤間廣十上流八八間中流ハ貳拾尤間
下流ハ二拾尤間深十壹尺五寸ヨリ貳尺一至
レ其深水深ヨリ小山田村ニ至ル迄ハ木山石
ニ激シ錯然聲ナリ大迫村北志島村ヨリ東甫入
ハ地新ク平力ニ共流
舒緩ニシテ沙タン太鼓橋申突川ノ上流大
ノ間ニ架ス郡山街道ニ属ス江橋申突川ノ
石造長枱立間廣ナ貳間半江橋申突川ノ
敷木ト永吉村ノ間ニ架ス新上橋申突川ノ
百達長貳拾尤間廣半四間江橋申突川ノ
西田橋申突川ノ高麗橋申突川ノ武ノ橋申突川ノ精木川申突川ノ
川卜隣シ下流ノ絶背岸ト呼ノ水深木郡ノ光
年禮固ノ西麓ヨリ出广宮ノ浦村ノ過ナ南川

道
路

港灣

局名谷山郡奉入降母宿等ヲ經テ山川等ニ至ル
久木郡鹿兒島山下町尤探ヨリ谷山郡ニ至ル
長サ貳里或拾町拾尤同壹尺谷山郡上福元村
ノ東ニ至ル長サ壹里二拾壹町五拾七間廣十
間貳

物產

一八 東佐多
市村二在
鹿兒島菜町二 在 明治十四年八月鹿兒島山
口馬場町二 頃又今鹿兒島郡曾山郡日置郡
熊毛郡琴張郡
五郎ノ管入

神社 寺 學校

鹿兒島灣東南ヨリ西北ニ至ル長サ九工可西
北度十拾町餘深十拾二尺ヨリ貳拾
分上松東經百三拾度二拾分貳拾壹
明治十二年四月十七日西賀千八百七拾九
第四月十五日ヨリ點燈影質八白色竿燈ニシ
テ基礎ヨリ燈火ニ至ル高半四丈水西ヨリ燈
火ニ至ル高半四丈火足尺燈光八不動赤色ニシ
テ射光ノ方位木慶光達ノ距離ハ六里建築
費ハ中村真土左衛
門等ノ私費ニ居ス
神社八拾座招魂社壇座繫社三座鄉社拾座村
社萬松六坐無松社四拾座

總計三拾三校

私立病院二	一八鹿兒島二木松馬場町ニ在リ
一八同竹小川町ニ在リ	一八同竹小川町ニ在リ
線路本部鹿兒島ヨリ東北ニ通ス鹿兒島電信局	線路本部鹿兒島ヨリ東北ニ通ス鹿兒島電信局
海大隅輪羅郡平松村ニ入ル長崎電信分局鹿兒	海大隅輪羅郡平松村ニ入ル長崎電信分局鹿兒
半武里貳拾七町口向路ニ傍ノ電信分局鹿兒	半武里貳拾七町口向路ニ傍ノ電信分局鹿兒
下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合	下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合
郵便局鹿兒島六日町ニ在リ同上設置一八零	郵便局鹿兒島六日町ニ在リ同上設置一八零
西糸九拾四坪貳合	西糸九拾四坪貳合
野村ニ在リ	野村ニ在リ

民業

動物一ヶ年奥荒ノ概額雜魚四處貳拾四萬千
百上拾尾鹽屋村三十九出ア小海老九拾石
宇宙村三十九出ア鱈大十頭數夏ノ間植物壹
甲夷川ニ產ス小山田村ニテ之ヲ獲植物干狀
獲高米壹萬三千六百上拾貳石上半貳斗二合
其質美ナラ不上伊敷村下伊敷村荒田村三十九
出ル者其質稍佳ナリ雖較立萬百九拾石八斗
六斗八合蕃麥八斗野村ヨリ出ル者其質最佳
ナリ粟八斗元村ヨリ出ル者其質佳ナリ甘諸
城百七拾八萬四千貳拾二斗吉野村ヨリ出ル
者其質佳ナリ油菜子三百七石二斗尤斗赤野
村大迫村小山田村ノ諸村ヨリ出ツ姫牌三百
斤以上村三十九出ア其質美ナラ不神質八百七
拾五介金柑貳石五斗下田村ヨリ出ツ高菜三
拾駄目上村飲食鹽四十六百貳拾上石鹽灰村
ヨリ出ア出ア出ア出ア出ア出ア出ア
鹿兒島ニ器用陶器一ヶ千製造ノ價額八千九
拾出ア
1類貳千三百九拾貳又帶地貳百七拾壹筋布
紙等竹糊ニ燒枝半拂挽米1類鹿兒島後庄
出ア

電線病院

私立病院二	一八鹿兒島二木松馬場町ニ在リ
一八同竹小川町ニ在リ	一八同竹小川町ニ在リ
線路本部鹿兒島ヨリ東北ニ通ス鹿兒島電信局	線路本部鹿兒島ヨリ東北ニ通ス鹿兒島電信局
海大隅輪羅郡平松村ニ入ル長崎電信分局鹿兒	海大隅輪羅郡平松村ニ入ル長崎電信分局鹿兒
半武里貳拾七町口向路ニ傍ノ電信分局鹿兒	半武里貳拾七町口向路ニ傍ノ電信分局鹿兒
下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合	下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合
郵便局鹿兒島六日町ニ在リ同上設置一八零	郵便局鹿兒島六日町ニ在リ同上設置一八零
西糸九拾四坪貳合	西糸九拾四坪貳合
野村ニ在リ	野村ニ在リ

郵便

私立病院二	一八鹿兒島二木松馬場町ニ在リ
一八同竹小川町ニ在リ	一八同竹小川町ニ在リ
線路本部鹿兒島ヨリ東北ニ通ス鹿兒島電信局	分守ヨリ鹿兒島御ノ北ヲ過キ吉野村
海大隅輪羅郡平松村ニ入ル長崎電信分局鹿兒	半里貳拾七町日向路ニ傍シ電信分局鹿兒
下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合	下可ニ在リ面積四百貳拾六坪七合
郵便局鹿兒島六日町ニ在リ面積一八零	面積九拾四坪貳合同上野村ニ在リ

本郡各村男女皆農ヲ業トスト雖モ郡ノ西北
西別府村大迫村小山田村比志島村木名村ノ
諸村ハタクハ山林ニ屬ス其氏農隙菜薪燒炭
ヲ業トス東南西田村武村荒田村上伊敷村下
伊敷村小野村永吉村郡元村中村ノ諸村ハ平
田多シ其氏專ラ農ヲ業トス郡ノ光吉野村ノ

一村ハ原野多ク土地狭隘ニシテ水利便ナラ
ズ雜穀ヲ植ニ其民皆農ヲ業トス

縣治

鹿兒島

從前市街郡村ノ經界明カナラナルヲ以テ明
治十二年十一月區域ヲ定ム

鹿兒島縣 薩摩大隅日向三洲ヲ管ス

縣廳鹿兒島郡鹿兒島山下町ニ在リ坪數壹萬
毫坪六合北緯三拾壹度三十五分西經九度拾六分東西貳町貳拾七間
南北三町貳拾七間町數四拾七
山下町 縣廳所在ノ地ニシテ城山ノ麓ノ統リ
町ニ通シ正東八中町ニ通シ東北ハ長田
日町易居町ニ接對ス

以上大綱シテ之ヲ下町ト云フ
小川町 縣廳ノ東ニ方山下町ニ通シ東北ハ
北和泉屋町南ハ易居町東ハ海岸ニ接對ス

易居町 縣廳ノ東ニ方リ西ハ山下町南ハ六日
生產町 縣廳ノ東ニ方リ南ハ野上橋ヲ跨テ小川町ニ接對ス

六日町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

築町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

沙見町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

泉町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

金生町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

中町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

吳服町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

大黒町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

堀江町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

住吉町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

船津町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

新町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

松原町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

延岡町 縣廳ノ東ニ方リ山下町ニ接對ス

キテ云ノ南阿蘇橋ヲ過
キテ生産町ニ通スル
和泉屋町縣廳ノ北ニ方ル長田町ヨリ東ニ折
云ノ町追テ
惠美須町縣廳ノ北ニ方ル和泉屋町ヨリ北ニ
折レ東ハ濱町北ハ紫町車町追テ云ノ
車町北ハ下龍尾町東ハ紫町追テ云ノ
榮町縣廳ノ北ニ方ル西ハ車町北ハ
下龍尾町東ハ柳町追テ云ノ
桿町縣廳ノ北ハ春日小路町追テ云ノ
濱町縣廳ノ東北ニ方ル東ハ海岸北ハ向江町
二通シ西面蒙テ隅ナハ和泉屋町小川町
桿町東ハ春日小路町追テ云ノ
以上大稱シテ之ヲ上町ト曰フ
向江町縣廳ノ東北ニ方ル南ハ濱町北ハ
新照院通町縣廳ノ西ニ方ル城山ノ麓ヨリ江
月川ニ傍ヒ南平ハ馬場町ニ至ル
迄テ云ノ
築師馬場町縣廳ノ西ニ方ル南ハ西田町ニ接
築師馬場町シ西ハ西田村東ハ鷹跡馬場町ニ
平ノ馬場町縣廳ノ西ニ方ル北ハ鷹跡馬場町ニ
南ハ千石町ニ接リ西ハ江月川
西田町縣廳ノ西ニ方ル東北ハ江月川西
鷹跡馬場町八築師馬場町帝ハ西田町ニ接
平ノ馬場町縣廳ノ西ニ方ル北ハ鷹跡馬場町ニ
南ハ千石町ニ接リ西ハ江月川

近ヲ云フ
東八山下町
西千石町 縣廳/加治屋町東八千石町近ヲ云フ
東千石町 縣廳/南ニシテ山下町ヨリ西ニ折
山口馬場町 口通町東八美服町松津町近ヲ云
櫛/口通町縣廳/南ニ方リ西ハ加治屋町山
町北ハ松津
町近ヲ云フ
新屋敷町 縣廳/南ニ方ル西南ハ江月川東八松原通
村ニ界シ北ハ櫛/口町ニ薈ル
下荒田町 縣廳/南ニ方ル新屋敷町武/櫛
西ハ上荒田町東八
天保山ニ對ス
上ノ園町 縣廳/南ニ方ル東南ハ荒田町十リ南八中村
長田町 縣廳/北ニ方ル西北ハ江月川ヲ帶ヒ
下町易居町ニ接シ北八下龍尾町西
和泉屋町 治屋町
冷水通町 縣廳/北ニ方ル西八下伊敷村東八
長田町 縣廳/二シテ城山ノ麓ニ接シ又
下町易居町ニ接シ北八下龍尾町西
下龍尾町 蔡ル
坂元村 北八上龍尾町東八車町惠美
川町
坂元村 北八上龍尾町東八車町惠美

城
地

浪町和泉屋
二對又

上龍尾町 案、北二方ル南八下龍尾町北八
、及元町 上町東八春日小路町ニ隣り西

池上町縣廳東北三方山西八福昌寺山

鼓川町 坂元村 東北二方ル西八
池 上町三齊小指本川ラ

猪荷馬塙町源巣ノ東北二方ル西八指木川

端町二段、東北
吉野村二段、入
赤瀬川、東北、西、也、上町

清水馬場町北八幡荷馬場町東八海岸南八番
日小路町

春日小路町 桜廬ノ東北ニ方ル西南ハ柳木川向
面テ、清水

馬場町二對ノ
鹿兒島舊藩城下鹿兒島ト稱スル地八慶長七年島

津忠義之奉還入

驛
東南海嶼ニ面シ西ハ西田村武村
吉村下伊敷村ニ接シ南ハ荒田村ニ

隣り北ハ丘陵ヲ以テ坂元村吉野村

東西三拾三町南北七里貳町拾間

地勢 東南海峽ニ面シ西北岡陵ヲ負ヒ甲

地味

宍川市街ノ西ヲ東南流シテ海ニ合
奥鹽鏡足シテ運輸便利

官用
地

赤壇皆大小麥及ヒ蕉諸豆宣
鹿兒嶺縣廳山下町ニアリ面積壹萬
警察本署山ノ口馬場町ニアリ面積六合
鹿兒嶺歲刊所司法省用地ニ屬又山

官右地

字地

税地

田後立町南西南町九武同北間町内	步校用地立山百下八町								
大門浦二縣町九二南属九九九拾拾南口三縣屬應拾北武入北入拾町立立間北岩ノ属縣通縣町處ス三二町リ九東町拾町間堅崎原ノ属縣町應四東東間ア南東拾西立城野ノ縣町縣東ノ二、拾東西北南リ北千町允間ケ尾山處ニ應西北属南間海九二北長之石三拾冷谷河處下ノ属ノ九二入海南淡三ア允田二町拾七水長岩ノ町北入北拾丁東省北ヲ町リ達町同ニ間町ニ城田崎属北ニ城東ニ至リ西ノ允云南稻町ニシ属拾アケ町ノスニ属山西丁可上龍尾云荷地荷土星ス中谷北東アスノ九リ南尾至ノ町東九馬拾不掘福冷属ニ西リ東麓武下北尾町松四西八場東良水東アスノ允下西ノ町龍允町西原若九町町間西面鹿縣通北東リ七龍允云南尾三	田地試拾百字百在武土七鶴六在江拾リ同拾六前坪七坪三合面積毛千武志合解剖場用地	宅地試拾百字百在武土七鶴六在江拾リ同拾六前坪七坪三合面積毛千武志合解剖場用地	總計四百三拾七步立地試拾三町四及五步	田地試拾三町四及五步	宅地試拾三町四及五步	畠地試拾三町四及五步	學校用地小春路日居易	中學校用地小春路日居易	女子師範
田地試拾百字百在武土七鶴六在江拾リ同拾六前坪七坪三合面積毛千武志合解剖場用地									
宅地試拾百字百在武土七鶴六在江拾リ同拾六前坪七坪三合面積毛千武志合解剖場用地									
總計四百三拾七步立地試拾三町四及五步									
田地試拾三町四及五步									
宅地試拾三町四及五步									
畠地試拾三町四及五步									
學校用地小春路日居易									
中學校用地小春路日居易									
女子師範									

人口

戸數

貢租

本籍壹萬三千九百四拾壹戶士族	地九拾地九縣四町九町立壹岬町ノ布東三南武北
拾六八千九百户平民七千拾户平民七千	祖地應間ニ武立間町ニ縣拾向北西拾北町九
社社百九七拾八拾百六拾九户平民七千	國金町南屬町拾拾屬應江九九三元中
社社三拾九無寺八戶祥宗三	九千四北北入拾立町ノスノ南屬町拾武入三間四洲
總計壹萬四千貳百立拾口	四厘三拾九東八間口東東九濱町町ノ南屬縣又應
本籍壹萬三千九百四拾壹戶士族	三拾九東八間口東東九濱町町ノ南屬縣又應
拾六八千九百户平民七千拾户平民七千	地三錢壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
社社百九七拾八拾百六拾九户平民七千	稅金壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
社社三拾九無寺八戶祥宗三	拾金壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
總計壹萬四千貳百立拾口	業稅金壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
本籍壹萬三千九百四拾壹戶士族	都墨壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
拾六八千九百户平民七千拾户平民七千	壹萬九千四北北川拾町ノ二町云三入間上縣元
社社百九七拾八拾百六拾九户平民七千	答北元春北路鶴見ノ北元春北路鶴見ノ
社社三拾九無寺八戶祥宗三	立六萬西臘上三日九町江云東スリ間
總計壹萬四千貳百立拾口	立六萬西臘上三日九町江云東スリ間

山

卷之三

牛馬

牛五拾四頭
馬貳百貳拾壹頭
總計貳百七拾五頭
蒸氣船六艘
帆船拾八艘
三百八艘
總計三百三拾貳艘
荷車百拾九輛
荷車百口
人馬車一百口
人馬車一百口
人馬車一百口

士族九千百九拾七口
平民壹萬四千八拾九口
總計三萬五千貳百立拾八口
他出資一百四十口

三

精、**武**別治同深ト四水八寸武ニ其ナリ兒入印シ東ヲ接寺以ハ燈北ラ、西下伊威村ニ出
木深田ノ街屋上ナノ門丸水新拾四流九海島リ突名アテ福得吉丸ス山鹿兒故ニ山津淨光明
川十町橋道町高間毛ソノ黒立大吉武ニ市數川クリ海寺ル野載全山拾五島人、墳墓アリ、
幹平ト三石ニト麗ニ又毛深院間橋シ拾入街村日幹枕ト光ト明寺山ニ、山脈寺山ニ、山
ト流水ノ間造属高橋架七天す通ハラテユルノヲ置郡花尾山ニ、江月川又神月川作ル
支源毛間三長八丈石ス寸平町凡架舒經下九三東南流ハラ村ノ聚ニ、諸山山
シラ尺ニ又ア水町廣造九千西ヨ廣又ス鹿兒島凡武流シテ湖崎ヨリ鹿上ナリ東ハ嶽嵐多賀山
東木立架武三ノトナ長州石田クリナ、山ノ名多賀山
福寺宮水薪九ナ間間三道場石師馬拾新上、三上、三上、三上、三上、三上、三上、
山浦ノ間可尺又土毛又西尺ナ町毛又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺又尺
山中

寸又架立湖ニ志濱長小注産滑ス少誠間ニモ尺尺ニ武七尺ナ廣長ノ島ハ拾海ヲシレ
廣長廣ス石ノ合三町鹿拾川ノ町川潤シ川四リ尺廣廣通間間八武サナ祭ニ武五ニ多鼓船
サナ才長橋時ニ間潤紀四町長ノ水草ナ大南鼓ハ春九サス走四寸間武八ニ六拾町注賀川荷
武四武サヲハ南走ナ島間トす間通流允兩流川廣日寸武長尺四間間石走上ノ山町馬場
間間五架水八尺最广生征ヨ町水ソ毎ニ町す小間間ナ廣サ一ツ寸大橋清野餘ア麓至可
山三四架水無奔立廣東寸產ナリ長源善ニテ字宇根河可葛原橋荷橋荷格水平允丸出テ鼓川ツ
寸尺武シ曲寸ノ北武町六海田城立孝行屋シ北處ニ間ト町ニ山半源木川穴尺通架木柱上
蛭子橋橋海指拾リ尺間蘋橋通蘋江都ト演患溺木立長壹ニ川出ノ町美ヲ川間寸ア流滑小リ
町間ト須通最允リニ川出ノトニ葉間町又下疾ソ板架ノ町チ間向架町ニト乾流ノ六橋ス下生令

森林道路

港灣

燈明臺

墳墓

社

例祭拾八十九二熊齋間照成ノ僧西歲上同死軍	寺建光四高色年二拾肆 ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	辨天波止竿燈	鹿兒鳴灣東南三町西北福拾町餘深サ若
祭山武門八月月耶柳面國ラ未月鄉官丁五賊軍	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	至山東南二里ヨリ武拾級ニ立	至山東南二里ヨリ西北福拾町餘深長九
二明坪南日二島ノラ後神社ス多照陸軍者墓盛	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	鹿兒山居村金光面テ立五武三	鹿兒山居村金光面テ立五武三
月治武北鶴洋神祭四社海年墓盛	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	病丁島又莫度ハ三基日日拾拾	病丁島又莫度ハ三基日日拾拾
立二合八嶺忠号ル百地縣二王八廣以欲軍戰死	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	立光不リ確ヨ西至武ル鳥	立光不リ確ヨ西至武ル鳥
月年六拾神義文九東社技事京兒下シ戰死	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	左邊動燈ヨリ唇分分立	左邊動燈ヨリ唇分分立
十十勾立社劇賜久拾西山シニ師島數載	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	街赤火立聚千ニ立	街赤火立聚千ニ立
一一島開丁縣建り三八四下テ勤ノ南十死墓同丑旅	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	門距色ニ燈燈八丁秒端辨	門距色ニ燈燈八丁秒端辨
月月津面リ社例元年坪拾町死勞僧林入セ山廢上園	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	蘇ニ至大形百リ東天	蘇ニ至大形百リ東天
中島氏積社平祭治零ニ武ノスレニ寺ヲシニ兒西森麥洲	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	ハシルニ貨七明經北砌	ハシルニ貨七明經北砌
一津祖三地ニ元支合間西事シニ善蓄ア島ニ兒陸ニ	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	六テ高至八十步百端臺	六テ高至八十步百端臺
辰志光千東馬目年明四南ニ遂アアル陸リ津ア島海ア	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾	里船サル白九十五北沙	里船サル白九十五北沙
日義六西場十甲彦勾北ア二意ノ軍丁光リ營軍	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾		
創靈百穴町一子神鳥拾リ川月大丑明事折正明	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾		
建ラ武拾二日十熟津造社氏興將寺由八治	ノ祭ノ文ナ半夷年度三拾		

火長ルニ立九月祭ル神積ア七院命千リ元入ヲ命六春創神百西六ニテニ十ラ拾拾八
 ナ八拾田例十坪間三十島根セリ月ヨリ九社諏例祭經間日建功立三丈附西類立祭八八坂
 之立八町缺六四面日一津田百社古リ祭百地訪祭レ津ニ神不皇坪拾貳クニスヨル坪間神
 例事間ニ六代合北松氏彦七地八連山八疊神十創主尺社山后武立尺周向肩社創七南社
 朱代面ノ月義立毫原九大柏東日坐島皆拾社一建命面地鄉變合間圓フノノ建久北馬鄉
 十主穂リ二人久町神代神三西例津四面ト月年月高北車素四端社
 一命百社十父島拾社忠大耳拾祭久夏年月二十詳天高北車素四端社
 月ノ七地三子津丸ノ郷國宮八七稿久立萬年月二十詳天高北車素四端社
 中祭拾東ヨテ氏間社社賣合間荷蓋合萬年月二十詳天高北車素四端社
 郡山四西祭十石地松創命九南神奉立水日テ命拾開路九ル天五ニ郷六ニラ船尺ノ社
 日ノ坪貳長土積東京建夕北社出久四馬南燈亮三町日島皇拾社尺尺石久田而社ト
 建五拾田代三西通入三辛拾馬鄉水南名ノ大早尺ニ津應胡リ池六八丁例娘持地称
 年合毫神貴千壹町山神迎毫端社郡ノ空神神武南丁臭仁面社寸寸ノ祭命八東ス
 月立間社人四町ニ处テ即開町猪山方面ニ社四懸北久元換地上尾頭形六一百西清
 詳多南社部○拾拾ア例祭現面ニ荷門ノ積在社鄉神旋各社ノ皇九東可地主易月神武三水

學校

辛

福昌寺	曹洞宗東西四拾間南北武格壹 西拾九坪壹合六勺松原通町ニアリ
相國寺	曹洞宗東西三坪六合 一坪武合六勺松原通町ニアリ
南林寺	曹洞宗東西各四間 南北拾四間面積百七十坪
最大衆院	真言宗東南北拾間南北武合立 夕松原通町ニアリ天文大慶久ノ創建又ル所慶惠中之
興正寺派別院	真宗東西拾八間三尺 南北拾七間三尺面積一百七
西本願寺派別院	真宗東西立拾武間三尺南北 南北拾七間三尺面積一百七
東本願寺派別院	真宗東西武拾三間南北 南北拾八間武尺立寸面積一百七
常樂院	天台宗東南北拾三間 南北拾三間面積一百四十五坪
乾學校	下町ニアリ生徒全附 男五百四拾六人女三百三拾七人
公立小學	易居町ニアリ生徒全附 男五百四拾六人女三百三拾七人

古跡
靈線
陶器製造
社

民
素

物產

名
勝

島津貞久創建興國寺廢寺跡鹿兒島東北ニ在
慶應中廢入在曹洞宗永正中鳥津本立寺廢寺
忠治創建慶應中廢入淨土宗文祿立年
跡鹿兒島東北ニ在リ時衆宗立道院上流又創建年月詳ナクス島津忠久ヨリ貞久ニ至ル五世
ノ石塔アリ慶應中廢入
田之浦磯ニ至ル近ノ海濱ヲ云フ前
二株島アリ西南連山ノ陰遙
二開聞窟ヲ瓊ル風景佳絕湧泉清
馬場町故大衆院二三門ノ刷ヨリ湧
キ出ツ酒造此水ヲ用ヒ酒ヲ謄ス俗
之テニ三堂近衛水鹿兒島冷水分通町
ノ水ト峰ノ水清利文祿慶長ノ間近衛信
信公鹿兒島來ラ此ニ住入故ニ近衛水ノ名
アリ都雲答臘今ノ篠川町ナリ鹿兒島
ノ北ニ在リ又轟ノ小路ト云
ト云鶴江崎鹿兒島東北猪木川海
ノ注ノ處ヲ云フ
萬萬織物四百三
百四十疋
武反帶地或百七
拂挽糸ノ織機產場
ノ餘ニ詳ナリ

戸船業ヲ業トスル者立拾九戸人力
車夫貳百立拾八戸

人物

鳴津氏久

鳴津氏久鳴津貞久第四子也母大友氏歷仕條理亮越後守陸奥守正平九年八月爲大隅守護居東福寺城是歲畠山直顯率兵來攻擊却之十四月下大隅人肥後種顯篤直顯據崎山城在水鄉海番村氏久將兵攻之拔其城十一年八月直顯屬足利義詮十月氏久應南朝與二條泰季俱攻直顯於加治木破之十二年正月補獲重種等攻榆井賴伸於胡麻崎城在郡飯當村十三年築池武光擊沈榮探題一色直氏敗之直氏與弟範光

奉京師武光勢威頗振筑紫城邑望風應之獨直顯據穆佐城不下武光攻之直顯與其子重隆逃走四月足利尊氏薨義詮任征夷大將軍十四年十月氏久帥兵擊相良貞範於日向貞範遁戰於國令即合在日向大隅我軍敗績注多忠直其弟參四郎戰死氏久收兵歸鹿兒島初相良代居肥後球摩郡至二世之孫貞賴拓境漸廣悉併莊內十六年攻畠山直顯餘黨陷大船良及末次城使島津忠經居末次城在蛤民郡下石村使本田重親居西保在大船十八年四月貞久卒二十二年遣兵攻菊池武光於肥後不克二十二年足利義詮薨二十三年十二月足利義滿任征夷大將軍建德二年今川貞世爲筑紫探題天授元年七月貞世屯肥後水島將擊菊池武光召氏久及大友親世少或冬資氏久如水島貞世大喜因使氏久召少貳冬資既而冬資至貞世飲之酒宴酣使山內某搏冬資殺之謂氏久曰冬資貳於南朝是以誅之氏久怒爲貞世所賣遂屬南朝二年二月鳴津師人半六月今川滿範來肥後八月足利氏以今川貞世爲薩摩大隅守護貞世遺書於補獲入清濱谷

重賴等使屬足利氏鴨津伊久始應足利氏既而
應南朝與氏人連和十二月滿範與相良前賴人
吉
主伊東祐重等來攻三州夷族威懾之滿範進屯

木原攻都城北鄉訊入禦之三年春氏久自志布
志帥兵救都城兵九八百新納實久將上軍氏久
將中軍本田重親將下軍渡平長谷在都城進擊滿

範於義原大敗之滿範走于下財部五年十一月
補寢久清攻西侯城大始良城弘和元年六月禰

寢久清攻佐多義氏佐多忠立之子於佐多城拔之是歲

氏久復屬北朝元中四年閏五月氏久卒於鹿兒

鴨年六十葬於大始良龍翔寺證齡翁氏久娶伊

集院忠圓丈生二子曰元久日久豐長子元久立

初氏久居鹿兒島後徙大始良又徙志布志復居

鹿兒島以東福寺城狹隘欲廣而大之會卒及元

久遷鹿兒島別築一城名曰本城亦稱清水城氏

久善騎射著騎射法十八條

鴨津元久

鴨津元久子稱久三郎氏久長子也元中四年襲封
唐東福寺城九年閏十月後小松天皇受神器於

龜山天皇至是南北朝合為一十年使高城在保

領主和田氏花木那山口領主高木氏守梶山城
在都城白應永元年二月今川貞興貞世第攻之北

鄉誼久遣其二子久秀忠通等救梶山城元久亦

引兵如莊內援之不克忠通久秀戰死和田氏高

木棄城而走各保其邑十二月足利義滿傳征夷

大將軍於長子義持是月元久創建福昌寺二年

七月元久率兵擊澁谷氏其族鶴田重成獨屬元

久菱刈氏牛屎氏遣兵救澁谷氏元久兵不利引

兵而還澁谷氏尾擊之元久乃踰入來山而還于

鹿兒島當時是謂山引合戰三年四月筑紫探題

澁川滿賴贈書元久及伊久會博多四年四月元

久使人豐代如博多四月元久親帥兵五千餘騎

擊澁谷氏於清敷伊久及伊集院賴久本田忠親

新納實久皆率兵來會圍清敷城拔之十月久豐

還自博多澁川滿賴至肥后復召元久元久乃遣

新納實久代澁谷氏菱刈氏牛屎氏和泉氏皆來

會初元久養角久之子生黑丸為已子賜名久照

七年八月與伊久有隙遂出夫人及久照氏久曾

臨終召本田忠親託以後事曰吾調護兒子母爲使

生忿爭至是忠親入而諫元久不聽八年三月伊

人等攻鶴田重成元人率兵救重成與伊久戰不克重成奔美州元人罷師而還十一年六月爲日向大隅守護是月伊作久義將擊二階堂行貞請援於元人十二年冬元人率兵攻田布施圍牟禮城十三年二月行貞棄城而走依市泰氏元人取田布施與伊作克入克久人義之子也九月使行貞領阿多郡觀音寺及十町北十四年四月鶴津伊人卒於平佐城是月攻忠朝忠朝棄城而走十五年五月足利義滿薨十月興種子島清時補襄清平脩好十六年春元人將以明年謁足利氏以留守事所老臣九月足利氏以元人烏薩摩守護於是元人滅谷山入道佛心取其所領谷山百八十町喜入四十十町宿四十十額桂四十使久豐居之又取海江田在郡金底二城使阿多加賀守成海江田城又取穆佐及池尾在會同自承上細江正宮等地使久豐成之以備伊東氏土持氏於是久豐從居穆佐高城九月元人歸自京師初澁谷四族聞元人之如京師也朱其隙謀襲之當是時忠朝入世居澁谷城與澁谷氏合元人之歸也將擊澁谷氏久

豐及伊集院賴久率兵未會元人忽清教別遣一千餘騎以備于忠朝久世元人有病歸鹿兒島軍中傳言元人病篤久豐與木田忠親謀收兵歸移佐諸軍皆罷澁谷氏復清教八月元人卒於清水城年四十九葬福昌寺謚恕翁弟久豐嗣鶴津久豐

鶴津久豐號次郎三郎鶴津氏久第二子也母佐多忠光女歷脩理亮仕陸奥守初元人有一子曰梅壽僧真梁說元人反梅壽入佛於是梅壽削髮爲僧住福昌寺元人之卒也伊集院賴久率遣命謀立其子犬千代丸爲嗣使奉元人木主以從葬人豐聞喪自豫佐馳至鹿兒島會葬前揆犬千代先遂終葬犬千代怒馳歸伊集院當是時賴久居伊集院鶴津守久居山門院島津忠朝居隈城島津久世居隈山城賴桂知覽山田別府阿多田布施伊作市來澁谷諸氏皆應賴久應永十九年九月伊東祐安攻曾井城在日向高岡曾井某者久豐之城也擇山教宗北鄉知人等援之不克久豐乃將兵擊之陣高城在佐野祐安以精兵夜襲我營縱火燒之諸將力戰擊退之教宗等言久豐曰今

雖敵兵既退大舉未侵未可知也公且不如避鋒

以謀再舉人豐從之遂知末吉於是祐安取川南

川北舊欽北自八重川以南稱川北

初賴人之作亂也

蜀筆元與賴人鹿屋忠等舊稱忠等爲鹿屋系

屬人豐是歲

兼元未攻鹿屋城人豐持兵援忠兼兼元兵大敗

遂降於是人豐遂取高隈大船良下大隅二十年

冬賴人夜火東福寺城人豐聞變蹶起持還兵攻

之吉田清正蒲生清寬等止之人豐不聽跨馬而

南馳清正清寬等騎能屬者七十餘人至清水城

佐多親人大寺美作等迎入東福寺城未幾大隅

兵至既而副田重長率兵數百至曰重長方在菱

刈陣家凡衰老值此苦寒不能上道且遣臣未入

豈大喜賴人特免原良人豊率兵攻之賴人敗大破

因吉田清正蒲生清寬許和人豐不聽清正等固

請不已久豊乃免之初賴人之將襲鹿兒島也其

臣野田道意既老諫曰縱取清水城將如後圖何

賴人不聽果敗二十一年正月賴人攻小山田範

清於小山田城範清擊却之賴人退于伊集院六

月賴人使中村但馬等守給黎城人豐率兵圍之

數日賴人請援於伊作人義島津久世人豐軍平

等守賴人以精兵一千未攻人豐敗走八月人豐

擊賴人取給黎二十二年十二月島津久世自殺

于千手坊二十三年九月久世遺臣天矩玄德等

奉世子久林據川邊城二十四年久世遣兵攻川

邊城今給黎久俊伊集院賴人援久林合兵未攻

我軍退入松尾城賴人攻之益急吉田清正請成

於賴人賴人不許清正曰原羅之役吾與蒲生清

寬俱請於公君得不死今日何負我也賴人乃曰

若與鹿兒島給黎谷山則解圍清正請命於人豐

人豐許之賴人乃解圍諸將皆歸鹿兒島賴人既

得谷山給黎於是據谷山城請受鹿兒島如約諸

將議曰既敗於川邊又使吾君喪給黎谷山此人

臣之耻也今復喪鹿兒島何面目事君哉願死戰

以雪耻且賴人乘勝怠備機不可失也衆咸曰諾

乃告人豐久豐死之役我軍戰死者多矣

其子弟欲奮戰而報仇者三千人皆請擊賴人久

豐乃跨馬麾軍而進我軍奮戰一莫不奮百賴人

大敗因吉田清政乞降久豐不許乃請獻侵地久

豐許之賴人歸于伊集院二十五午伊作勝人與

阿多人清構兵勝人請援於久豐久豐遣兵援勝

久會穎娃母宿知覽川邊兵奉様阿多氏勝入大
敗十二月入米院重長市夫家親攻鳴津忠朝於
永利城二十六年正月忠朝敗重長家親於山田
重長請援入豐不聽重長復贈書請曰今君幸出
兵援之臣請委質事君無有貳心入豐遂許之八

月久豐親率兵助重長攻永利城忠朝出降二十
七年小牧某以穎娃叛擊取其地至擊別府氏其
老臣田中周防官原兵庫以城降既而今給黎人
俊如覽島津人林川達
領主鶴島氏阿多氏公以其邑
降於是南方定二十九年攻島津守人於山門院
守人棄城走肥前是歲久豐與伊作勝人有隙發
兵擊之取伊作三十年久豐親將攻伊東祐安敗
之先是久豐與祐安戰于日向不利喪地數十里
欲報之以南方未定不果八月持攻祐安祐安聞
之乃遣兵分戍海江田^城畔城人豐既抵油津分兵
爲二海陸並進圍海江田城伊東安藝守堅城固
守祐安發兵二千攻海江田城人豐乃使佐多親
久當城親當援軍隔川而挑戰既夜援軍乃退親
久攻城益急城兵力盡請降於是久豐遂取川南
川北二十二年正月久豐卒年五十一謚義天久

豐娶伊東祐安女生六男長子忠國襲宇護第二
子用久領出水稱薩摩守第三子季久稱壹後守
領帖佐第四子有人稱出羽守領梅北屬^向第五
子豈久稱伯耆守領平泉後遷三俣

鳴津忠國

鳴津忠國初名賈久入三郎歷仕條理大夫陞
真牛應永三十二年正月鳴津久豐率忠國襲三
州守護永享元年三月足利義教為征夷大將軍
二年十一月殺鳴津久林於真幸院四年三州久
者蜂起稱國一於忠國不能計乃使弟薩摩守用
人攝守護擊久著自鹿兒島徒永吉嘉吉元年二
月將軍義教使忠國教其弟義昭初義昭削髮為
僧稱尊有居嵯峨大覺寺親近於小金宮因陰進
討義教之策募兵於大和河內筑紫奉覺義昭遁
於日向匿柳間既義教使忠國擊之忠國乃率肝
屬義忠捧山奉久新納忠續木田重恒北鄉持久
等至柳間既義昭知不免自殺忠國送首於義教
四月義教賜琉球於忠國賞擊義昭之功也上月
赤松滿祐杖將軍義教是月忠國逐其弟用久初
忠國徙木守使弟用久攝守護鹿兒島既而悔

之復還鹿兒島遂用久用久奔谷山遂以城級高
木章家高木政家
家孫子市未久人家親等處之九月用久
興津山菴人和田正存高木殖家盟二年十一月
是利義勝為征夷大將軍文安五年忠國如二侯
誅和田正存正存廢之因興之謀先攻高木殖家
及其父是家又與曾於郡人稅所眾謀逐大隅守
護代木田重經遂欲攻用久於谷山城新納忠臣

諫曰兄弟魚肉國不亡者未有之也君請再恩忠
固乃止十月與用久平用久黨與皆降獨伊東氏
土持氏未降寶德元年四月足利義政為征夷大
將軍二年二月攻伊集院照久於伊集院照久奉
肥後初照久救石谷高久取石谷村高久子賴木
訟於忠國忠國於是攻照久康正二年三月伊東
氏祐祐子安興北原貴義合兵入大隅忠國擊却之
長祿二年忠國與新納忠續於欽配使居之以備
伊東氏而領救仁院知故寛正三年市未久家叛
世子立久率兵攻之遂拔市未城應仁元年細川

勝元興山名持豐山名宗全戰于京師文明二年
正月忠國卒薩摩別府年六十八忠國有十子弟
二子立久襲子護母新納忠臣文日文久曰久遠
曰克人曰忠經曰忠弘曰賴久其二子為僧丈人
以下皆非正夫人出友人稱相摸守領田布施門
多高橋世稱相州家人逸稱河內守為伊作氏嗣
克人稱遠江守為桂氏祖忠經稱伊豫守為追水
氏祖忠弘稱若狭守為喜入氏祖賴久稱攝津守
為兄忠弘嗣

鳴津立久

鳴津立久幼名安房丸稱入三郎鳴津忠圓子也
叙脩理亮仕陸奥守文明五年四月幕府議征夷
大將軍於足利義尚初立人娶島津用久女無子
以其子薩摩守國人為嗣既而梶原二郎太郎文
得幸於立人生男夫人嫉妒立久使梶原忠範養
之夫人使忠範殺之忠範不肯送龍雲寺為僧名
曰源鑒立久病國人請於立久曰願令源鑒還俗
弗聽固請乃召之六年正月源鑒加元服稱入三
郎四月立久卒年四十三葬龍雲寺誠節山久三
郎嗣是為忠昌

鳴津忠昌

鳴津忠昌幼名武久稱又三郎母梶原氏生於寛
正四年癸未年甫十二襲封歷脩理亮仕陸奥守

文明七年六月召山田聖榮賜宴聖榮許忠尚晚
號聖榮所著有聖榮自記錄其所見聞始島津忠
人述忠昌九四卷歲十家初北原氏領真奉院伊
善俊弟尤原義幸領日川真奉院居飯野城
生父貞宗貞生玄蕃玄蕃生玄蕃生玄蕃生玄蕃
玄蕃生入安人安生安與安
與生入安人安生貴安
良祐賴與北原某有隙聞而死由此北原相良交
惡相良氏遣兵擊北原氏北原氏求援於鳴津尤
久元久遣兵擊相良氏相良氏引去不復為難北
原氏世保其邑比至貴安併有吉松野尾栗野等
諸城而祁答院氏亦為張宗博至重慶會北境傳
言相良為續且攻真幸鳴津國人與鳴津李人謀
使謂執政村田經安平田善宗等曰請助相良氏
經安等不可二人復請擊祁答院氏又不可曰先
君大祥未終而擅動干戈於邦內其子爲死君乎當是
之時主少執功用事而國人李人皆貴戚大臣也
所請輒沮由是國人李人內懷不服遂有反謀為
績寶長玄孫也山本正誼曰按是時北原氏祁答
院氏未聞有可討之罪也而國人李人請擊之豈
欲別私邑以張公室乎然執政不可云云亦未為
非而國人李人恣之遂生反謀然則初非真心為

國謀者也可知矣八年二月清水人木田兼親卿
唯郡人祝所某黨國人李人鳴津豐人及菱川氏
平山氏亦應之既而國人悔矣請龍雲寺雜髮求
降然猶未見諒也乃逃之天神長崎間北至出水
家臣越道止之歸加世田光鄉牧入樺山長久平
田善宗等攻鳴津伯耆守久豐次郎三郎忠德於
三保人忠義同氏祖忠德人里是時久豐人繼等皆黨
之如耕馬日守後改忠清禰襄重清肝脣兼
忠清生宜清頸桂兼心等攻丸郎右衛門尉入繩
於樺宿城鳴津一名忠東是時久豐人繼等皆黨
國人十八日鳴津李人將兵侵鹿兒島戰於松尾
坂二十二日禰襄重清等復攻樺宿城群臣奉忠
昌遣伊集院伊作人逃新納忠續守鹿兒島鳴津
丈久國鳴津國人於加世田城數日國人乞降且
割川邊二城平山城以獻遣其子菊千代入見上
月友人以田布施叛忠昌遣伊集院伊作兵擊之
九月櫻島發火岸崩石裂雨灰數十里九年正月
忠昌復遣兵攻田布施燒忠昌遣伊集院伊作兵擊之
軍攻北志島義重二月遣兵救北志島城四月國
人降遂如帖佐勒島津李人歸順李人從之興國
人俱入忠昌於鹿兒島十九日丈久國人伊作人

逸島津忠廢佐多忠山島津忠德新納忠續加治
木満久樺山長久光鄉歎入等相謀俱轉翼島津
氏十二年八月琉球貢松至十五年八月飲肥領
主新納忠續樺間領主伊作久逸因事生怨動至
交兵十六年新納忠續訟忠昌曰請徒久逸於他
邑不然臣將不能成飲肥矣忠昌使人逸復伊作
久逸不受命復遣平田義宗村田經安諭之不肯
入逸舉兵擊飲肥忠昌使北鄉歎入樺山長久平
田義宗村田經安補窩忠清肝屬義連等將兵三
千擊樺間以救飲肥歎入等向樺間一軍也熊田
原一軍也郡本是月祁答院重慶北原立義舉一
人來院重慶東鄉重理吉田泰清美川氏重等應
之十一月北原立義如美川遂與氏重如帖佐誘
島津忠廢使叛忠廢不應立義氏重等不悅乃謀
助久逸以擊忠續忠廢乃詐應之立義氏重等悅
而去十四日北鄉歎入等攻樺間城不克十七日
久逸擊熊田原郡本之軍聞伊東氏久逸薩摩
大隅久者蜂起引兵而還二十八日伊東祐國將
數十騎擊新納忠續一軍營於鶴戶一軍營於安
國寺忠續禦諸甯嶺一作不利退保新山城伊東

軍陷之忠續保本城祐國營於富嶽新山以逼之
十二月二日伊東久逸復擊飲肥抜南鄉城將攻
本城於是和泉氏久守酒谷城北鄉歎入樺山長
久村田經安等將兵自莊內來入酒谷城以為飲
肥外援洞谷村在飲肥莊內之間二十日平和泉領主島津重
久將手下三百餘人救飲肥軍錢歲伊作久逸伊
東祐國將二十餘騎擊之豐久力戰而死伊作伊
東軍亦多死傷乃引去十七年正月久來院重慶
祁答院重慶等如帖佐勸島津忠廢使反忠廢不
從忠廢以為我家與新納氏世緒盟主者忠續數
為伊作久逸所擊伏安得坐視其難而不拯乎哉
乃如樺間將說久逸休兵行至木吉忠續弟忠明
逸路不得行乃又于都城二月祁答院重慶與東
鄉高城共俱攻水引城下久來院重慶攻破山
城守將棄城走忠廢之如樺間也鹿兒島譙言忠
廢謀反忠廢既還乃欲自明而無由遂舉兵攻川
田城川田立昌豐城固守不能救會村田經安將
兵八百餘龜郡山忠廢擊敗之二十日忠廢將吉
田久來院兵攻重慶自西道入拔蘭牟田城加治
木忠敏自東道入東鄉重慶自西北道入共攻重

度不克皆引去忠廢還帖佐三月上日島津忠廢
攻隅州上井城守將棄城去島津國人島津忠福
北鄉敵人擇山長人平田兼宗等令引其兵救上
井城行至救根開城已陷而還十七日島津軍入
自出水引兵而西明日下湯田城二十日下水引
城聞二月湖忠廢遁菱川求援於菱川氏重氏重
許焉八日伊東祐國復圍鈴肥丸日忠廢相良長
輔遇於國見在伊佐郡^大四月島津國人如肥後水
俣與相良爲續謀欲說忠廢使歸順十五日與爲
續如牛屎先遣人說忠廢忠廢惠日且與同謀
焉而後次之十六日爲續徑詣菱川勸解忠廢從
之五月湖忠廢與爲續等至鹿兒島見於忠昌飲
肥爲伊東氏所圍累月城中飢困六月忠昌自將
救鈴肥次於末吉先遣北鄉敵人擇山長人村田
經安等將一千餘騎軍于酒谷又遣國人忠廢等
將二十八百餘騎與敵人等會真幸進至鈴肥軍
蔣田與伊作伊東軍相距六町伊作人遠新納是
人北原立善與伊東祐國合兵軍捕原伊東二郎
軍野原伊東二郎五郎軍大龍寺伊東次郎太郎
等率田間伊作伊東六合四十餘騎北鄉敵人島

津國人島津忠廢新納忠明和泉人氏等各揮其
軍並進國人自擊人逸不勝敵人進擊人逸破之
人逃走田間陣敵人又與忠廢合兵陷捕原陣斬
伊東祐國北原立善長倉修理進等數十人伊東
軍敗績斬敵八百人獲首一百三十級人逸逃歸
擇間敵人國人忠廢等圍擇間二十九日忠昌如
謝罪請去擇間忠昌慰撫之乃復入逸於伊作是
月祁答院重慶復反九月遣島津忠廢村田經安
將兵擊之忠廢等至人來與入來院重慶東鄉右
京亮等謀軍事前至山崎忠廢于島津忠廢島津
國人島津友人等引兵來會兵合三千餘騎燔黑
木中津川等焚落重慶將兵八百軍鋒尾兩軍交
射日匿美作守引橫川兵入長野燔聚落祁答院
兵擊之美作守退二十一日國人忠廢退反人來
休兵兩日復攻祁答院會鶴田兵據紫毛大願寺
班師十八年忠昌使新納忠續去鈴肥復志布志
別以末吉財部教仁鄉賜之十月以島津忠廢爲
擇間鈴肥領主延德元年三月征夷大將軍足利

義照毫七月足利義材任征夷大將軍二年四月
細川政元廢足利義村立義詔為主十二月足利
義詔任征夷大將軍四年六月加治木人平叛引

兵取幡佐城七月忠昌將兵攻之人平述永正三

年肝屬兼人據高山城抗于島津氏兼人兼連之
子也八月忠昌自將擊兼人新納忠武率志命志

兵救之我軍不利五年二月忠昌卒年四十六謚

圓室當是時國勢不振強臣政尾忠昌志在靖難
不能遂其志居常邑色不樂於是卒忠昌娶大丈
政親女生三子長為忠治次為忠隆次為勝人

島津忠治

島津忠治幼名安房丸改又三郎島津忠昌第一
子七生於延徳元年己酉年二十襲封永正四年
七月將軍足利義詔罷足利義尹即義竹復征夷大
將軍十二年八月卒年二十七謚蘭念

島津忠隆

島津忠隆幼名百房丸改又六郎島津忠治弟也
生於明應六年丁巳年十九襲封永正十二年三
月備中人三宅國秀欲取琉球率舟師泊坊津忠
隆欲擊之請於幕府許之四月琉球使來六月

擊三宅國秀殺之十四年二月攻吉田位清於吉
田城位清以城降十六年四月忠隆卒年二十二
謚興寄功勝人為賴桂氏嗣至是入湖忠隆後

島津勝人

島津勝人幼名宮房丸稱入八郎諱忠兼後攻勝
人又改義忠島津忠隆弟也生於文龜二年癸亥
年十七襲封永正十六年十一月伊集院尾張守
舉兵又據曾於郡城十二月新納忠武遣兵助之
勝人遣肝屬兼演等擊尾張守兼演兼光之孫也
是歲三州大亂十七年六月任修理大夫是月島
津忠朝使平山近人牛串良城八月朝肝屬兼興
攻之近人擊破之十一月勝人攻曾於郡伊集院
尾張守以城降大永元年八月島津忠朝將兵攻
鹿屋城戰勝而還肝屬兼興要諸鹿屋原忠朝與
戰大敗之十二月將軍足利義植即義義罷義晴島
征夷大將軍二十四月北鄉忠相使族人尚火爭
野野美谷城十一月伊東尹祐與北原氏攻之尚
人戰死伊東氏取野野美谷城十二月勝人遣伊
地知重周等攻槐野新納氏也新納忠勝擊敗之
四年九月肝屬兼興復攻串良城陷之殺島津忠

吉忠吉鳴津秀人庶孫也初勝人以島津實人補
為夫人仕實人以國政實人權橫謀奪守護職勝
人惡之追夫人實人怨恨跋扈益甚勝人患之乃
遣本田親尚委國事於伊作領主島津忠良以其
子虎壽丸為嗣六年十一月召虎壽丸於伊作加
首服賜名貴人傳守護職勝人為人冥頑不靈不
善古道遠賢臣近佞人荒謬無度是以政刑失道
三州大亂停守護於貴人之後髡髮逃居伊作其
後轉移無常天文五年適真幸恩北原某告較若
寺著有年後尚奔豐後卒於沖濱年七十一謚大
翁勝人有四男二女曰忠良生於鹿兒島曰久孝
生於敘若寺日又四郎曰宗俊生於豐後忠良有
三子曰良久曰秀久曰忠辰良久秀久為僧忠辰故
為龜山氏其後秀久還俗為藤野氏久孝入四郎
宗俊並無後

島津貴人見于阿多郡

島津義人

島津義人初名忠良又改義辰後攻義人又號龍
伯島津貴人之長子也幼字虎壽丸稱人二郎又
稱二郎左衛門尉任修理太夫敘從四位下天文

中蒲生範清與祁答院氏入來院氏光原
氏等作亂義人與義弘歲久從貴人連戰皆勝率
詳于貴人記永祿四年六月貴人將兵擊肝屬兼
續補寢重長伊地知重與等右馬頭中將貴人之弟貴人之
與兼續等之軍大戰於竹原山屬大隅郡敗死貴人
進擊走之義人從而有功七年三月任修理太夫
是歲伊東義裕城三山屬日向諸縣郡與相良氏合謀將
襲飯野同上貴人聞之使義人義弘裁人攻三山不
利義弘身被數創遂班軍當是時三山以東屬伊
東氏飯野以西屬我初貴人宥美川重征之罪與
之橫川重征忘恩黨相良氏十一年十一月貴人自
將兵八千發栗野屬大隅桑原郡到湯尾屬大隅安川郡義人義
弘從之進至諏訪山分兵為四軍義弘將第一軍
攻馬越喜入李久比志島義基將第二軍當湯尾
軍第三軍攻橫川第四軍當大口及球磨八代軍
義弘先登陷馬越城斬首二百餘級橫川守將中
務少輔棄城而奔其餘諸城望風而下獨重征之。
隆秋在大口豐城自守求救於相良氏十一年正
月伊東義祐將兵二萬包築嶽在筑肥與肝屬兼
續合兵攻島津忠親於欽肥北鄉時人將兵數十

軍於酒谷以爲外援義人與貴人義弘陣於馬越既而大口軍屯堂崎舊羽月郡義久義弘擊之下勝退保曾木是月北鄉特人與島津忠親約期夾擊伊東軍大破之二月特人達兵送糧於飲肥城伊東義祐邀擊敗之衆勝固酒谷壘三月菱刈氏相良氏與澁谷氏合兵攻曾木城城將固守敵兵引去又襲市山城新絆忠元遣兵擊走之五月以山野與相良氏以和島津忠良之謀也是月伊東義祐圍酒谷壘太急北鄉特人僅能自守不能救飲肥飲肥被圍數月糧食不至氣困益甚島津忠親遂脫圍奔梯間伊東氏肝屬氏追而攻之七月忠親奔莊內伊東氏攻飲肥肝屬氏取梯間八月相良氏菱刈氏變約陣於堂崎伊東義祐應之屯比良拂北
南一里
舊原田村將攻飲野加久藤十一月義弘設伏於本地原在飲野鄉出兵數人爲捕鷹者以誘伊東軍伊東軍逐之至本地原伏起突擊敗之是月忠良有病貴人罷師之加世田留義人守馬越十二月十三日忠良卒於加世田十二年正月相良氏菱刈氏求和義人許之三月蒲地越中守至大口相良氏臣深水賴兼救之由是和議復

敗菱刈軍攻羽月島津義虎懼請代義人達肝屬兼盛新納忠元代之使又七郎家久守市山五月兼盛忠元擊菱刈氏大敗之是月諸將攻祁答院長野城陷之伊東軍懼棄桶比良壘而去八月義人與貴人攻大口城相良氏請以大口而降且使菱刈氏領平城義人許之乃賜菱刈鶴千代本城曾木鶴千代童征之子也九月貴人義人入大口城以新納忠元爲大口地頭仗鎮牛屎菱刈兩院元龜元年正月澁谷氏降獻隈城百次平佐碇山元龜元年正月澁谷氏降獻隈城百次平佐碇山高江高城水引中鄉西方湯田官里京泊清敷之地義久宥其罪仍賜入來院加賀守重嗣清敷大和守重尚東鄉二月遣書於琉球王修障好二年六月二十三日貴人卒十一月肝屬氏補寢氏伊地頭平田昌宗等御之敵軍引去二年肝屬氏舟師襲隔州小村守者禦之斬敵二十四人二月爲伏於廻市城之界廻市或肝殺肝屬越後等二年五月伊東加賀等義祐之弟將兵三千夜襲加入藤燒夷村落擗山常陸等禦之加入藤城亦尙兵擊之伊東軍引去義人親帥麾下四十騎向加入藤

開伊東軍引去向木崎原在飯野城西南一里伊東軍來攻我兵殊死戰義人獲伊東新次郎等數十人伊東軍敗走義人將輕騎策馬追亡逐北至貝餅田而還貝餅田在小林鄉伊東之地義人使左衛門督敵入擊下大隅九月歲久屯早崎屬牛根鄉平祇村遂襲小濱壘屬金水鄉海潟甘船之斬守將伊地知美作遂取其地是月義人遣北鄉時人攻肝付氏天正元年正月肝屬氏卒兵侵木吉木吉色北鄉時人與二子相入忠虎邀諸住吉原擊敗之是月義人遣使勸禰襄童長使絕肝屬氏童長聽命三月秋兵與禰襄氏共伐肝屬氏義人次拵宿以爲營授我師擊肝付氏抄掠高洲肝付姓李舟而還進至西侯肝屬氏兵來攻島津右馬頭征人島津忠長等擊破之七月肝付氏兵襲早崎營中務大輔家人力戰却之十月島津勝人率於豐後冲濱肝屬氏家臣安樂備前守牛根城十二月諸將進屯平常固以逼之肝付加賀兵於佐土原二年正月肝屬軍叔牛根將取茶園毛在牛根村島津忠長川上久信爭之共錄甚銳肝屬軍退忠長久信遂據茶園尾緣岸爲道屬牛根城二日而成安樂備前乞降許之死而伊東大

遣伊東權頃將兵會肝屬氏伊地知氏救牛根城行開我軍已得利地而還轉攻補農燔村落喜入李久禦之斬殺百餘人伊東軍引去是歲伊地知重興爭獻下大隅上所肝屬兼亮亦降獻廻市歲三年十二月近寄前人至出水館於專修寺四年三月前人到鹿兒島六月伊東勘解由據高原城在高家原八月義人伐高原至飯野與義弘會軍耳附尾在高家原既而伊東軍救高原城義人遣中務大輔家人島津忠長屯鎮守尾在高家原城西勘解由遣使依家人求和獻城而去義人入高家原城二山須木等望風而下乃使鎌田政年守三山使宮原景種守須木立年三月相良修理大夫義陽遺書於義人賀邊境平定且請修隣好是月義弘攻伊東氏兵於野毛成兵三百餘人棄城而走遂取野毛越後迎降進向甯田城守將湯池出雲迎降義弘衆勝而進勢如破竹義弘奔豐後於是盡取日向之地使梓山忠知戍佐土原六年二月以山田有信爲高城地頭川上忠智爲財部地頭三月伊東氏臣長倉勘解由左衛門牧散卒得數百人據

日州石城四月大友義鎮帥兵拔縣土持親成奔
豐後戰死其子源正忠奔長門秋大友義鎮屯縣
七月島津忠長伊集院忠棟攻石城濟水而進不
克退屯佐土原伊集院人信山田有信有戰功允
月先是將軍足利義昭在備後毛利元與吉川
元春小早川隆景謀納義昭遣士戒坊求助於義
人義昭乃書於士戒坊告義人曰方與輝元等
圖恢復諸國士卒望風響應惟恐大友氏歸狀後
也尤欲以明牛春遣坊長兵伐豐筑願君助之是
月義人使島津征久伊集院忠棟平田光宗上井
覺恭等攻石城忠棟伐大木為橋梁諸軍並進晝
夜攻圍既而義弘自飲野來會義人於野尾石城
被圍十餘日糧食已盡汲道又絕於是城主長倉
勘解由左衛門棄城奔豐後十月大友義鎮將納
伊東義祐於佐土原先攻高城地頭山田有信等
令軍一千餘人閉城固守大友軍徇伊東氏舊邑
霧島社祈戰至紙屋先遣伊集院忠棟上牛覺恭
戊佐土原六日欲擊大友軍俄而大雨平地水深
數尺乃止九日義弘與島津征久伊集院忠棟上

牛覺恭等進至財部分四十人為三伏先遣輕卒
挑大友軍逐之伏兵並與大破之會義人自佐土
原至龜根自坂夜放火箭射之大友軍驚駛十二
日黎明大友軍縱兵擊我義弘勒兵待之諸將以
士萬人橫擊之義人將士萬人下坂自坂邀擊之
家人有信自城中出帥兵應接大破之追至耳川
而還義人遣島津征久以下諸將濟耳川累日知
屋塙見門阿山毛坪屋田代等地高城之役義弘
家入戰功居多義人賜義弘及義人書以褒嘉之
又封家人為佐土原領主大友義鎮屯縣自秋涉
冬及高城之敗罷歸而去義弘既去縣人請吏于
我遂召土持源正忠於長門使居之義人既還鹿
兒島與一色昭秀真木島昭光書曰幕府因輝元
使僧來等賜內書使伐大友氏謹聞命矣當與龍
達寺誅之抑前日與大友氏戰於日州殺五萬餘
人豐筑軍士氣奪膽落不能復振安為過慮又復
輝元元春隆景書亦如之七年初大友氏滅菊池
氏取肥後自高城之敗以後威名稍損四人離叛
於是伯耆守顯孝據宇土城越前守親賢據眾本
略飽田訖麻河尾等地而親賢請鎮將於我秋義

人使佐多久政川上忠智成隈本城八年高城之被圍也相良義陽聞之而侵大口知地頭新納忠元有備也而止尋聞豐後軍敗而還遂與阿蘇氏合忠元將攻水俣而寶川內城爲之扞蔽正興大口相當欲先取之義人又遣平田又次郎趣之立月忠元攻寶川內城陷之八月織田信長遣義人書使與大友氏講和且言以明年伐蟻州願君助我共立天下之功九月中村一大夫英矢崎城中村二大夫捷綱田城皆阿蘇氏之黨也義人使新納忠元鎌田政年伊集院人治攻矢崎及綱田佐多久政等自限本會之十五日下矢崎明日下綱田城諸將還限本十一月佐多久政率新納忠元等攻合志親重於肥後親重將四千騎禦之伊集院人治大呼自名臨陣斬敵將大津山源左衛門衆還限本是月封左衛門督歲入爲御答院領主九十八月義人遣島津義虎率兵入上原尚近等攻水俣城軍井川比良義人至小川內遣義弘康人家人軍錢龜毛島津征入川上入隅新納忠元軍熊半禮義人至蘆北督諸將攻水俣城日夜

攻擊城中益密相良義陽遣使請割水俣津奉水佐敷湯浦四城以和弗許益以革尤七浦且以二子爲質乃許之使比志島國貞受水俣城義陽已降欲擊阿蘇氏以示其信十二月將兵燒甲佐堅志由御松隈莊御船城主甲斐宗連潛師出相良軍後掩擊之殺義陽味麻八代聞之將潰義人遣新納忠元丸八代以鎮撫之十六年六月明智光秀弑織田信長十一月足利義昭遣義人書曰織田氏滅宜乘此際復京師願君助之隈木鎮將吉利忠澄新納忠元伊集院人宜及中務大輔家入伊集院忠棟川上人隅上井覺兼等會義弘於八代謀攻肥後會肥前有馬城主有馬鎮貴爲龍造寺軍所攻求助於八代達島原肥前守峯左近將監其舟迎之諸將皆言不若先救有馬乃遣川上人瑞將諸軍戊有馬是月肥前龍造寺隆信遣軍攻筑後田尾城主田尾鑑種鑑種求助於八代十二月川上人隅攻千千岩壘破之斬敵三百餘人是月新納忠元伊集院久宣吉利忠澄拔日比良城主小森田氏承下安樂寺壘既而肥前兵三千人挾安樂寺故壘城親賢擊敗之十一年正月二

日以前年宇土隈本令志御松隈莊皆應義弘諸將遣佐多宮內請罷肥後師中務大輔家人還佐土原義弘還真幸上井覺兼還宮崎島津義充還出水三月義久使北鄉忠虎代島津忠永成隈本城七月義久使平田光宗成八代十月島津忠長伊集院忠棟上井覺兼督衆築花山壘以逼堅志田十一月諸將罷師而還留兵守花山壘十二年三月義久次於肥後佐敷義弘自真幸至佐敷是歲義久使中務大輔家人攻島原城以救有馬家久率島津彰人島津忠長平田光宗新納忠元川上人隅川上忠智川上忠堅等兵九千五百餘騎向島原有馬鎮貴遣十五百餘騎與家人會十四日與攻島原龍造寺隆信將兵六萬餘騎救島原家人將戰謂其子豐久曰國之大事正在今日爾死之豊久時十五歲家人入謂軍士曰卿曹努力今日勇士效死留名之秋也衆皆踊躍爭先進與肥前軍戰自辰至午川上忠堅單騎衝其中堅索隆信隆信見之以為肥人退者叱曰隆信在斯汝將焉道忠堅直前刺之忠堅從兵斬其首有一人揭首於鋒馳入我軍呼曰獻捷忽出家人之右而

撃之未至半家人斬之乃隆信麾下之士也遂與島津彰入島津忠長川上人隅平田光宗新納忠元山田有信鍊田政近等乘勝而進呼聲動天地大破肥前軍斬首三十餘級平田牧島原城有馬圍解四月島津忠長伊集院忠棟上井覺兼下神代牛福森山西鄉等數城義久在八代二十餘日而還留義弘及伊集院忠平田光宗等成之是月參山坐主舜育為龍造寺政家獻義久書曰曩者秋月擅實鶴龍造寺令與公和隆信不從平為大國之禽其子政家引恩謝罪復因擅實乞和惟執事者圖之五月甲斐宗運未咸許之義久不納龍造寺氏降遂與諸將謀伐肥後會義久有病使義弘率諸將伐之龍造寺政家復因秋月種實求和義久欲許之使町田人倍等告義弘令與諸將議諸將會於馬越成日卯年與隆信講和猶欲使獻肥後况今政家弓折矢盡屈膝乞降雖日獻肥筑可也而曾無一言及此恐其挾詐請必擊之義弘從之進龜八代遣僧與種實使者偕詣問龍造寺政家仗僧還自肥前又命白政家請獻肥后以降初大友氏雖與我和親然以高城之敗為耻又隆信

死於島原以為其子政家當有復讐之志遣使請
共代薩摩政家不許遂降於我義弘進屯筑後高
瀬大友義統遣其將戶次蓮靈高橋紹運等屯坂
東寺以逼梁川開義弘在高瀬遣使請修舊好且
勸攻龍造寺義弘不聽戶次蓮靈高橋紹運等擊
筑後黑木某黑木某降既而竊告義弘使攻道靈
紹運龍造寺政家亦勸之義弘與諸將謀諸將皆
言今者軍糧且盡別無調度深入敵國曠日謂人
非計也且公與大友氏和親以來未嘗有違言也
今乃專命伐之其可乎哉義弘遂自高瀬還十三
年閏八月義弘與伯耆顯孝及島津忠長伊集院
忠棟上井覺兼等擊破莊獲其有司甲斐治部甲
斐帶刀斬首二百餘級阿蘇大宮司懼而降肥後
平十月聞白秀吉遣義久書曰方今關東悉定而
鎮西未寧薩之與豈日尋干戈以爭土地天子聞
之乃詔秀吉使靖鎮西之亂止豈薩之戰因特遣
使告諭宣恩兵以順聖意若不用命且討乃罪
十四年初大友義統奉皇後南郡人入田宗和色
宋和怒之而降於我豐後人志賀道益亦獲罪於
義統亦因宗和求降六月入田宗和擊大友軍勝

之新納忠元毛野尾眾以為聲援七月義久將畧
二筑次八代達島津忠長伊集院忠棟等擊破紫
廣門諸將屯高良山進陷鷹取城曰當山城過勝
山城廣門請降許之諸城皆下獨高橋紹運據岩
屋城高橋直次據寶滿城不降二十七日諸將攻
岩屋城紹運不能禦登井樓自刎死麾下死者一
千餘人高橋直次開岩屋城陷即日以寶滿城降
諸將既下岩屋寶滿二城遣僧招降立花城主立
花左近將監統虎日不下且屠汝城立花統虎者
高橋紹運之子也答曰先人自刎城上以著勇士
之節統虎豈容棄城圖存以羞先人城中有為內
應者曰多與吾邑半哉我當殺城主以降諸將皆
欲許之義久不可曰使人臣弑其君而賣之以邑
何以勸事君者十月義久使義弘中務大輔家人
伐大友氏分兵為二道義弘將三萬七百餘騎從
阿蘇郡白南郡家人將一萬餘騎從梓山向三重
家人進取松尾城使平田宗應新納人時成之伊
集院人治木田親貞等攻諸方城家人進屯盤東
寺分兵略地義弘至阿蘇毛野尾攻高城下之諸
城望風而降入田宗和志賀道益以千餘人來迎

開神原城、綱之諸將與入田宗和志賀道益引兵攻津加半禮城^城將戶次統貞降中務大輔家人攻丹生島城陷之又攻利浦城破其外郭十二月秀吉遣仙石秀久小寺孝高正九州封因大友義統往會秀久孝高於豐前聞家人已入國中大驚即叱還豐後與仙石秀久長曾我部信親^{信親土佐入}十河政泰尾藤甚右衛門等合兵擊家人軍於利浦城下家人設伏兵大破之仙石長曾我部軍敗走鹽川溺死者無數斬長曾我部信親十河政泰大友義統仙石秀久尾藤甚右衛門僅以身免家人進鬼延岡大友義統奔高崎家人入府內^{大友氏}_{國城}義統又奔豐前龍王義弘入志賀道益之城於是白仁城主志賀道運降義弘又移軍狩編初豐後鶴崎城主吉岡掃部死其妻妙林尼爲城主妙林駒勇善戰是歲伊集院久宣白濱重政攻之不克誅城中人爲內應遂拔之妙林乃降十五年正月諸將已入豐後邀賓求封莫有聞志家人以爲將驕卒情難與成功乃議班師因使擇山忠助還守松尾城初義弘在津加半禮聞家人既入府內召諸將會議或言如府內與家人合勢或言今棄

南郡而去不可會秋月種實遣使勸取玖珠郡日非特我敵邑之半即高崎氏亦將免於難矣玖珠人亦請之者屢義弘乃遣川上人隅町田人倍新綱忠元將兵入玖珠郡於是岐部惠良切加布小國北等皆降尋攻下莊降之初義入之在府內也關白遣僧興山議知義入不肯是月一色招秀及僧惠瓊等復勸義入使講和義入乃從之以伊集院忠棟爲質高城被圍數日山田有信固守不下義入乃遣使令有信降不肯入遣町田人充諭之乃降關白秀吉衆舟從佐敷至出水領主島津忠永迎降舟至川內從流而上次泰平寺五月湖義人與義弘發都於郡義人還鹿兒島義弘還真幸關白之至川內也高城水引諸城望風而下獨平佐城主桂神祇忠助閉城固守關白遣小西脛坂九鬼等攻之不能克義人使人諭忠助乃降八日義人至水引因佐佐成政堀秀政見關白於太平寺關白自脫佩刀二枚賜義人明日關白下花押書使義人領薩摩如故關白發泰平寺宿平佐北鄉一雲據其邑赤下義人趣一雲使下一雲及其子忠虎乃降中務少輔家人自振自拔還佐土原

羽柴秀長遷兵圍之家人娶城堅守藤堂高虎說
家人曰今以孤城當大軍終必敗矣不如降也家
人從之乃以城授高虎關白嘉之使鎮佐土原如
故十五日義人如京師關自行至筑前持多留數
日親定九列封域使大友義統領豐後如故入使
小寺高孝領豐前小早川隆景領筑前筑紫賤門
領山下筑蒲地主計助領三池筑立花統虎領梁
川筑伊東祐兵領鈴肥曾井清武白高橋元桂領
縣三城宮崎白秋月撞實領高城財部福島日相
良忠房領球麻革北肥佐佐成政領隈木筑二十
五日義人見關白於博多七月至京師見關白於
聚樂城關白賜義人長刀鞍馬十六年九月義人
發京師至大坂十月十四日還鹿兒島十八年正
月義人如大坂見關白十九年正月還鹿兒島是
歲開白秀吉謀關白於奉子秀次奉旨攻燒太閣
慶長十六年正月二十一日義人薨於國分新城
年七十九卒於福昌寺從死者十人義人娶島
津忠良女生一女嫁島津義虎入娶種子島時堯
文生二女長嫁島津彰久次為家人婦人

島津義弘

島津義弘初名忠平又改義珍後改義弘人號惟
新島津貴人之次子也任兵庫頭歷叙從五位下
侍從四位下宰相自天文至永祿從貴人與都
答院氏入來院氏菱刈氏北原氏肝屬氏伊東氏
相良氏等戰有功元龜二年六月貴人薨天正五
年攻伊東義祐於日向諸城望風而降義祐奔皇
後六年十月大友義鎮謀納母東義祐於佐土原
先攻高城義弘與島津征入伊集院忠棟上井覺
兼等進至財部設三伏先達輕卒挑大友軍大友
軍遂之伏興大破之既而大友軍縱兵擊殺義弘
勒兵待之義人將士萬人下拔自拔邀擊之中務
大輔家人山田有信自城中出帥兵應接大破之
追至耳川而還十二年二月從義人攻龍達寺降
信於肥後義人在八代留義弘戍之還兵五月龍
達寺政家降義弘進入筑後十三年義人以義弘
為守護代使居八代領雙肥二筑兩豐之事聞八
月擊限莊獲其有司甲斐帶刀阿蘇大宮司懼而
降肥後平十月義人使義弘及中務大輔家人擊
大友氏家人鬼盤東寺義弘進鬼野尾攻高城下
之諸城望風而降十五年正月義弘遣川上人禡

町田人倍新納忠元將兵入玖珠郡三月關白秀吉親帥大軍討筑紫至赤馬關勢振遠近初義弘與家人分道擊大友氏所至報克己入豐後國中響唐城邑皆降及關白自將救大友氏皆叛義弘聞關白先鋒羽柴秀長已至豐前也從野上還分軍為二自將一軍遁府內使島津征入町田人倍新納忠元等將一軍從日田過秋月曲上筑後義弘宿健軍明日前鋒已至湯獻與小寺氏道間兵令兵來攻義弘擊敗之乃至都於郡會義人四月羽柴秀長至日列軍於財部高城之間精兵二十萬騎為營至十一竹高城地頭山田有信將三百餘騎守高城秀長遣兵圍之又遣官部中務法伊善祥房木下平太夫等帥一萬五十騎屯根白坂義弘與義人家人將二萬餘騎擊抜自坂營不克士卒死者三百餘人五月朔義弘與義人發都於郡義人還鹿兒島義弘還真幸人日義人降關自於奉平寺明日義弘往見羽柴秀長於野尻二十五日聞白朱記書賜義弘大隅又賜義弘次子人保日向諸縣郡初義弘封於真幸城飲野而居至是徙封於大隅關白以為去飲野非其所好也

乃使義弘飲野如故十六年十一月義弘如京師六月見關白於大坂城十八年十二月如大坂先關自九月至自京師是歲關白秀吉謀關白於養子秀次秀吉攻號太閤文祿元年豐太閤將伏朝鮮命諸將會於名護屋義弘與人保恭兵發栗野至大口四月豐太閤至名護屋義弘與諸將俱發名護屋如朝鮮五月義人如名護屋是月小西行長陷忠烈朝鮮王李恠奔義州王妃太子元良給行長先入王城諸將各半要害之處義弘居普天城奉使永平城太閤聞朝鮮已敗也日明之大兵且至矣六月遣石田三成增田長盛大谷吉隆帥軍如朝鮮號為朝鮮二奉行是月梅北國兼田尾但馬將如朝鮮後義弘而發行至肥前平戶而反國兼攻佐敷城陷之又攻八代城田尾但馬與其二子荒次郎荒五郎燒夷松波瀨攻小川松浦筑前守攻絞田尾父子而國兼據佐敷城佐敷人境善左衛門使婦人飲之酒醉而殺之太閤遣淺野彈正父子伊藤長門等討國兼至則已死矣初太閤聞國兼之叛也以為義人與知焉欲加之罪東照公諫之以為不宜有此乃赦之而罷公之因達細

川幽晉共治海北餘黨七月島津歲入平十一月
三奉行聞明人發大兵救朝鮮也命諸將於王城
停築城以爲之備南日廣丹北日麻田東日春川
曰金化遣戶田氏部少輔守廣丹長曾我部元親
守麻田島津忠豐守春川而金化當咸鏡江原慶
尚三道之衝諸將莫利居之乃請義弘守之會明
兵六萬餘人圍春川城城中兵僅三百餘人島津
忠豐告急於義弘義弘遣兵救之明兵退救兵乃
還既而明兵復至忠豐擊敗之斬首七十餘級獻
馘於名護屋太閤賜忠豐書褒嘉之十二月義弘
自永平徒金化二年正月小西行長之入王城也
加藤清正逐王妃及太子至兀良哈悉生捕之仍
留未還而諸將會王城閉朝鮮將牧司明將李如
松令引大軍來攻乃謀合諸軍以禦之浮田李家
及石田三成大谷吉隆增田長盛等相議作書召
加藤清正於兀良哈託義弘致之義弘命救根賴
豐猿渡信豐將軍健三百人齋書之兀良哈李如
松已至閏城將攻王城三奉行令諸將悉會城中
曰有殿下命不許城外戰而小早川隆景立花宗
茂以爲軍事應變若命有所不受序與毛利元康

小早川秀包等軍於城外義弘遣有馬重紀將軍
徒百人助立花宗茂宗茂辭焉日金化介居三道
之間不宜分兵令重紀還重紀不肯二十七日李
如松濟開城川至碧蹄館小早川隆景毛利元康
小早川秀包禦之不勝立花宗茂毛利元康挾擊
之遂敗李如松如松退保閑城二月加藤清正至
自兀良哈是月普州收司遣兵犯金山浦與王城
之道於是義弘從京畿道之龍仁城以禦之明司
馬石星達沈惟敬講和議三奉行許之惟敬與約
曰明兵退至鶴綠江日本兵退至金山浦四月諸
將引兵犯金山浦而義弘居唐島城唐島屬慶尚道本謀臣濟日唐島耳明遣徐一貴謝用持之名護屋董成
而李如松尚在閑城太閤聞之以爲大國難測上
月太閤命義弘及諸將築壁壘置炮戍以備不虞
六月義弘與諸將攻晉州七月七日陷晉州城殺
牧司獻首名護屋李如松聞之召惟敬而謹焉曰
汝言和議成兩日本兵復攻晉州殺牧司者何耶
惟敬不能答如金山浦苦行長行長亦曰汝言和
議成而李如松尚在閑城者何耶惟敬亦不能答
乃死於明光月久保病卒于唐島人係爲人精悍

嘗出獵野調騎射明兵數十騎來搜我羌堅人保
怒單騎追明兵折二騎而還又嘗射獵遇猛虎負嵎
將向人保從者皆怖入保發銳箭之義弘聞之代
久保禁田獵及卒深悼惜以次子忠恆爲嗣三年
忠恆請太閤從父於朝鮮以十月晦至唐島四年
太閤檢葺塹大隅島向地召義弘義弘留忠恆發
唐島忠恆奉使加德島六月義弘歸自朝鮮謁太
閤於伏見八月歸鹿兒島慶長元年十二月初沈惟
敬之歸也復陳和親之策明人從之揚方寧爲誦
和使沈惟敬爲副齎金印諾命封太閤爲日本國
王朝鮮王李松亦使黃慎朴弘長與明使偕行六
月明使及朝鮮使發金山浦太閤聞和議已成召
還朝鮮諸將是時諸將自唐島還至加德島加藤
清正小西行長乘舟已與二使俱發八月明使及
朝鮮使至伏見太閤怒朝鮮王不遣王子謝恩使
柳川調信數其使者使者大懼因小西行長謝罪
弗許九月朔明使見太閤於伏見城明日召明使
賜宴宴罷太閤使僧承允讀誥命讀至封爾爲日
本國王太閤勃然而怒曰吾以我武報答六十餘
州既爲日本主矣何以異國封舜爲前日行長言

明帝許以我爲大明國王矣吾是以罷師而今乃
如此是行長欺吾也將斬之行長大懼自訟於大
閤曰前日三奉竹令臣自歿下如此臣何敢欺歛
下因為三奉行書教通爲證乃免之命遣明使及
朝鮮使使寺澤正成謂明使者曰我與大明業已
講解今不取背但朝鮮王不遣王子謝恩無禮甚
失失當發兵以討其罪耳揚方寧等惶懼而去十
月義弘還薩摩二年太閤復伐朝鮮以二月爲師
期小西行長加藤清正先期而發二月義弘如朝
鮮六月會家人於加德島七月義弘與家人軍於
唐島是時明人出哨船數百艘以犯海道師不能
進諸將夜率舟師衝突哨船義弘在岸上發大鉛
粗擊哨船哨船潰散截纜棄碇而逃藤堂高虎加
藤嘉明等逐之殺明兵數十人島津忠豐跳上二
號船突入船中斬人如常遂獲其船河野勝哨船入
至高虎嘉明等又擊破之前後焚船者一百六十
餘艘八月義弘與家人進至南原諸將將攻南原
而遊擊陳恩表三十餘人守全列城諸將恐恩
表與南原爲掎角欲分兵以資之義弘與家人引
兵犯於北嶺諸將圍南原城不克師退城中榜辭

小西行長夜攻南門破之李福男死楊元亨奔城中兵潰家人要而擊之斬首四百二十餘級諸將遂取南原向全州城陳愚衷遁去人取全州諸將已下南原全州勢振遠近全羅道慶尚道望風而降十月太閤命宇喜田秀家城順天蔚山毛利秀元城梁山長曾我部盛親島津忠豐壇見一直高橋主膳正池田秀雄中川秀成等城泗川使小西行長守順天城使加藤清正守蔚山城使黒田孝高守梁山城使義弘及家人守泗川城泗川城三面臨江一面通陸引海爲濠明人所謂新寨者也義弘又修築四寨曰永春望津晉州故館使諸將分兵守之義弘時時出兵畧陝川空軍咸陽高靈等地明將楊鎬圍加藤清正於蔚山城絕其饑道城中大困三年正月小西行長毛利秀元羽柴秀秋黑田長政鍋島直茂等引兵救清正島津忠豐從諸將救蔚山義弘遣木田助左衛門敦根賴豈領軍健士十人助之揚鎗大驚狼狽奔去既而明兵十六騎至晉州城下我兵捕得一人言明兵百萬餘騎且屠日本城壘已至余州南原尤造鄉導視路所由義弘聞之曰以單兵撫孤城恐爲大

敵所擒乃令三原重權去首州坂泗川六月明將董一元進取晉州寺山久兼守望津寨與一元隔晉江人兼六僅三百人益張紙旗山谷中又燔柴舉烟往往放鎗擊如雨雷夜則點火繩數十百根燭如聚星一元畏之不敢濟初南京人張昂來薩摩窩賴桂郡民家構孫次郎後還南京明將召爲日本通事將攻新寨問孫次郎曰汝在薩摩見石曼子之用兵乎明音呼島半對曰然曰如何曰攻無不取戰無不勝明將聞之懼乃遣二使講和議且窺虛實其一人孫次郎也八月前關自大政大臣從一位豐臣秀吉毫於伏見遣命秘喪罷朝鮮役明將董一元畏寺山久兼自六月至九月不敢濟晉江義人欲誘致以擊之會明捕虜郭國安在望津逼欽明裨將茅國器國器說一元攻望津使國安爲內應舉火爲信至期望津火於是一元濟江取望津寨明日入陷永春見陽我守兵走新寨十月朔日明軍大將董一元裨將茅國器率麻貴張榜鄧子龍等將百萬騎攻新寨進逼城下島津天明軍擾亂義弘與家人閉門而不出乘勢擊之明

兵敗走遂與伊集院忠真光鄉三人糧子島入待
伊勢貞昌平田宗位等分兵為三路追北逐亡趨
晃陽望津故館茅國器葉邦榮以兵一萬而止上
新秦島津忠長以百騎擊之義弘遣麾下數百人
橫擊明兵茅國器葉邦榮敗走大破明軍斬首三
萬八千七百餘級董一元達參謀史龍溼及孫次
郎詣義弘乞和且請納質義弘與小西行長寺澤
正成謀焉而許之茅國器弟國科為質十一月義
弘去新秦至釜山小西行長有馬修理等五將在
順天明水軍將陳璘副總兵陳欽鄧子龍李金等
將水陸軍八十與朝鮮將李舜臣沈理合兵犯順
天海口行長等不得出城求救於義弘義弘與立
花宗茂商擣主膳正小早川秀包等合軍救之進
舟至南海峽子龍以輕舸迎我兵拔火發大砲摧
其舸獲子龍舜臣來救入擊破之既而陳欽李金
沈理齊進義弘勦士卒弓銃亂發燐以火器投我
艦船燒多溺死義弘奮戰奪虜艦六艘行長宗茂
等俱奮戰郤之順天圍解行長等自南海退義弘
與宗茂等至唐島我臣樺山忠征等艦為敵所燒
乃率兵上南海島義弘又舟迎取行長等亦令以

船赴救我軍立達對馬十二月義弘與諸將俱至
伏見見秀吉嗣子秀賴大老奉行慰勞之義弘從
外征之役前後七年我得全兵而還者新秦之捷
也四年正月五大老召義弘於伏見城賜刀賞酒
川之戰功也九月東照公至大坂增田長盛長束
正家勸公留大坂輔相秀賴公許之遂居西城以
子參河守秀康守伏見城是歲義弘任宰相祝髮
曰惟新土年月初石田三成誇上杉景勝令舉兵日
內府聞公之叛必與師東征吾當亂同志共與大
軍以乘其後則天下可圖也景勝然之東照公遣
伊奈圖音頭召景勝不至復令僧承允為書諭之
竟不聽命公怒自將討景勝發大坂至伏見使烏
谷元忠內藤家長松平近正松平家忠等守伏見
城義弘送公至山科而還石田三成在佐和山聞
東照公討會津乃移書遍告關西諸將曰內府將
不利於嗣君請與諸公共討之諸公不忘殿之下之
恩空盡忠於秀賴公諸將多應之者七月三成如
大坂與增田長盛長束正家等糾合共黨諸將會
者四十人共推樺尤為盟主唯義弘不應長束正
家增田長盛德善院玄以遺書義弘曰內府將不

利於嗣君故與諸將共圖之公儻不忘歟下之德
宣盡節於秀賴公先是東照公從容謂公曰景勝
不庭會當東征請以伏見城為託至是義弘使詣
鳥居元忠求共守城元忠弗許復遣新納族菴閉
門不納乃欲固壘自守而兵未集麾下止有二百
餘人恐為大兵所禽而長盛正家等者類至於是
義弘不得已而應之與毛利秀元宗義智浮田秀
家豊臣秀秋鍋島勝茂等共圍伏見城陷之鳥井
元忠內藤家長松平家忠松平近正死之義弘發
伏見至佐和山石田三成浮田秀家小西行長熊
水直盛垣見一直秋月種長等人告美濃大垣城
岐阜中納言豊臣秀信捷岐阜城以為之外援義
弘至大垣東照公東征往至野州小山聞石田三
成作亂而還先遣福島正則等攻岐阜城陷之擒
豐臣秀信石田三成達兵千人守江渡在大又請
義弘守州俟義弘即將兵而往濟佐渡川宿州侯
義弘聞岐阜城陷率新納族菴本多親商矢野弓
次等數人以行留島津豊久木脇祐秀松岡千熊
等守洲侯豊久等相謂曰公已去失守此無為也
追而及之義弘至佐渡軍川上以待東師至暮不

見動靜乃還大垣本營九月山田有榮將兵至自
大坂長壽院盛淳將兵至自薩摩伊勢貞成等前
後至者若干人共衆漸集既而東照公至赤坂陳
岡山白旗敵空東去大垣城一里有餘石田三成
等大懼與諸將會議諸將乃曰懸軍遠征使敵人
掎我之後非計也不如還屯關原以逆擊之衆皆
然之三成遂留福原右馬助等守城而夜與諸將
發大垣道經牧田其間四里餘值天大雨塗泥沒
胫卒行甚苦既至關原諸將布陣義弘陳道北島
津豊久陳干道南相去一町許十一日西師與東
師戰于關原義弘與東師血戰數十合士卒死亡
無算島津豊久平田宗應長壽院盛淳毛利元房
等死義弘乃趨伊勢路至近江水口新置一關吏
吏半守之從者惶惑咸日將奈之何義弘曰唯當
叩關請出不可當擊破之乃使賴姓彌一郎請開
吏許之將隨京師行聞東照公已入京師遂問道
歷伊勢伊賀至伏見毛利輝元在大坂義弘使人
謂曰聞原事雖不成公與我合力守城猶足以有
為公豈有意乎輝元不應義弘怒曰怯夫不足與
謀至大坂奪毛利氏船歸大隅先義久於富隈候

起居然後還帖佐初義弘家人夫人爲質在伏見
鄉義弘之至伏見也先遣賴桂彌市郎桂忠詮山
田有榮等四十餘人衛二夫人於鄉使仙秀坊詐
告大老曰兵庫頭死於關原矣何用質爲請取不
報仙秀坊哀訴甚苦朝晡不食猶在城中乃許婦
義弘夫人家入夫人猶在伏見鄉其侍女大田氏
日妾請許爲夫人則夫人免於是平田增宗奉二
夫人乘舟留相良日向守右松安右衛門等十人
使衛大田氏曰過三四日然後去之義弘之至堺
浦也遣人與二夫人約會於大坂港口不見二夫
人乃召平田增宗於大坂而問則曰二夫人昨
夜乘舟在河中矣但潮退川淺舟不得行耳乃命
進舟比至西宮二夫人舟及之義弘召二夫人同
載既而伊集院人朝有川助兵衛比志島涼右衛
門等雙太田氏逃伏見城乘舟至豐后森江夜望
黑田氏所置哨船火以爲義弘舟懸燈即入港口
人日本外史神音義弘夫人焚死者誤也義弘舟至日列細島登岸
先送二夫人於八代十月小西行長使小西美作
守守宇土城熊本城主加藤清正聞行長之敗也

達之攻之美作守求救於我達島津忠長教宇土
城與加藤軍戰於佐敷浦關原之敗西師皆走伊
吹山獨義弘徑牧田向伊勢路川上忠兄本田親
貞新納旅卷等不知義弘處皆奔京師川上忠兄
匿於近衛信尹之家本田親貞新納旅卷發於鞍
馬峯頭之山口直丈等帥吏平捕新納旅卷本田
親貞等執諸大坂直久召旅卷親貞於奉行所而
問焉曰關原之師兵庫頭殿爲謀首半二子對曰
非也不得已也逃歸半曰關原之敗臣等與寨君
相失遂不復知其處義人家人知兵庫頭殿叛半
曰不然也然則胡鳥半達兵助之曰赤霄送一年
也二子應答如響加以事理詳悉左驗明白以白
東照公曰然則義人若家人來謝可也乃免親貞
而歸之使諭義人家人義人家人以書謝寺澤正
成曰關原之師義弘本非與謀但緣奉行衆以監
書之辭來責故僅勉應之非敢負內府也矧某二
人素荷內府大德豈敢背之惟公爲我善謝焉六
年三月義弘自囚於櫻島數月東照公赦之六月
浮田秀家來奔於山川鄉義弘遣伊勢貞成等迎
之置諸牛抵政名休復七牛七月家人將往拜東

照公會伊集院忠真之亂而止北志島國貞錄田政近等誅於義弘義弘曰家人已受禪於義久矣宜往成日可也八月家人如京師十月東照公如江戶家人已至大坂福島正則遣使自於東照公家人使市來家繁與正則使者偕行二使至江戶因木夕正信致命十二月東照公入伏見城石家久於大坂二十八日家人見恩禮尤厚賜之馬及鷹各二八年家人歸于薩摩元和五年七月廿一日義弘薨于加治木年八十證松齡

島津家人

島津家人初名忠恒後改家人島津義弘之第二子也幼字未菊尤稱入八郎仕陸奥守薩摩守大隅守歷叙正四位下少將中將宰相至從三位中納言文祿元年豐太閤大典征韓之師島津義弘從之二年九月島津人保平于朝鮮義弘乃以家人爲嗣三年家人請太閤從父於朝鮮以十月晦日至唐島奉使加德島慶長二年太閤復伐朝鮮七月義弘與家人請於唐島八月進至南原明將陳愚袁將三十餘人守全州城義弘家人引兵犯北嶺諸將圍南原城不克師退城中稍懈小西行

長夜攻南門破之城中火潰家人突而擊之斬首四百二十餘級十月義弘與家人守新寨三月明將董一元裨將茅國器等將百萬騎攻新寨進逼城下家人令伊勢貞昌等發銳擊之明軍喪亂義弘與家人閑門而出乘勢擊之明兵大敗四年正月立大老召家人於伏見城以家人仕少將賜刀及祿立萬石賞泗川之戰功也初左衛門督裁人惡伊集院忠棟之爲人也曰此子必爲國難使憎天海勸義人除之天海將告義人未果而天海祖父某嘗奉忠棟祖父忠朝於北後以爲舊恩不可負以告忠棟忠棟嘆之無何聞白征薩摩義人與之成以忠棟爲質忠棟由是得幸於關白歲久之死蓋忠棟與知焉又因石田三成求葬內地關白與之忠棟既得大邑強僭無上遂謀反逆三月家人召忠棟於下鄉爲茶席之會即於座半又之仁禮小吉佐之與叔忠棟伊集院忠真聞忠棟遭害遂以邑叛石田三成素與忠棟善謂家人曰忠棟嘗承恩下寵命猶公朝之臣也今不先請而誅之宜避舍以待罪於是家人自囚於高尾寺閑三月上大老敕家人以爲國君誅其叛臣不得以

擅殺之法論之家久乃還伏光邸是月東照公從
否伏見城伊集院忠真修都城深隍高壘復築十
二寨義人聞之部署諸將使戍要害之地四月東
照公遣家人就國使靖伊集院忠真之亂六月島
津忠豈引佐土原兵至與新納忠元入來院重時
村尾松清共攻小山城陷之置兵戍之七月伊集
院忠真遣日高靜鎮等偽將攻松山城志布志地
頭棒山人高達兵救松山而靜鎮等反趨志布志
襲月野破之又攻松山城地頭相原周防守禦之
忠真引去五年三月伊集院忠真降獻都城及赤
吉海北財部四城家人與之頼娃一萬石開原之
役義弘屬西軍戰敗逃歸川上忠兄木田親良新
納旅卷等不知義弘處皆奔京師既而為史平所
捕山口直人石旅卷親良於奉行所詰義弘之事
族菴親良應答如流以辨義弘之憲西軍勢出于
不得已三奉行以白東照公公曰然則義人若家
人來謝則可也乃免親良而歸之使諭義人家人
六年八月家人如京師十月東照公如江戶家人
已至大坂福島正則遣使自於東照公家人使市
來家繁與正則使者偕行二使至江戶因本多王

信政命十二月東照公入伏見城召家人於大坂
二十八日家人見恩禮尤厚賜之馬及鷹各二是
月幕上山城八年十月東照公封島津以久於佐
土原以久島津豈入從祖父十三年十二月琉球
王漸廢貢職東照公使家久召琉球王尚寧不至
乃命討之十四年春家人遣棒山人高平田增宗
率三十餘人伐琉球三月入尚增宗發山川港至
大島大島逆服連下德島永良部島進至運天港
尚寧弟具志頭等乘舟而至使西來院乞降不許
既而尚寧來降久高使欽牛禮紀伊久光家貴島
米女賴張報捷五月入高增宗以琉球王尚寧及
按司三司官等至七日東照公賜家久於琉球十
六年正月義人卒十八年七月家人為耶蘇之難
故遣本田親政戍長崎初天文中蠻舶至擅子島
其後弘治水祿之間至薩摩及兩肥西豐者屢矣
其人皆係耶蘇宗門名曰丘市賣唱其法扇誘人
民天正初織田信長立耶蘇寺於京師既而猶覺
其為邪教特致之會信長明智光秀所害其議竟
寢至於關日秀吉遂燒耶蘇寺在京師者捕伴天
連歸諸長崎至是遣大人保忠隣大索畿內中國

西國捕耶蘇黨而囚之又遣山口直友至長崎以
其寺於是燒夷耶蘇寺十一所毀其佛像道具十
月秀賴移書州郡招聚石田餘黨修城壘運米粟
為城守計東照公伐大坂於是家人為書告絕于
大坂十二月東照公與秀賴成元和元年三月秀
賴募兵衆復為城守計四月本多正純遣書家
人使率兵會於大坂八月東照公攻大坂城城陷秀
賴逃遁自投家人出于鹿兒島舟至肥前平戶聞
大坂既陷六月五日見東照公於伏見二年正月
東照公不豫二月家人發鹿兒島三月至駿府見
東照公四月八日家人發鹿兒島十七日東照公殂
家人在京師致書於本多正純安藤重信以吊東
照公之喪六月二日子虎壽先生三年正月家人
至大坂遂如京師因近衛信尹候天子起居
天子賜琴及杏七月如日光山謁東照公廟六月
二日吉徳公享家賜之太刀及馬七月吉徳公朝
天子家人從十月還國五年正月吉徳公將以今
年夏如京師使閏西諸侯會京師二月家人以次
子忠平如京師六月明家人召吉徳公於伏見城
忠平亦見忠平生四年矣進退容止殆如成人見

著搏之七月義弘卒於加治木六年琉球王尚寧
卒尚豐嗣位寃永七年十月夫人龜壽卒于國分
八年九月封于忠平為加治木領主領一萬石九
年正月吉徳公殂家人如江戶九月為袖判書使
布國中其大要言母弛武備母慈邪教母昵市人
母以私意斷訟母舉農民為士凡事可以利國家
若盡言無隱不空阿意苟從與聞國政亦宜飭弗
謹行以副國人之望十年十一月明戶科左給事
杜三策為正使正揚倫為副使齋詔及儀物至琉
球封尚豐為琉球國中山王高津忠榮早死無後
十一年六月以安葬乎人雄續忠榮後賜永吉人
雄家人第九子也十四年七月肥前島原兵賊復
與於肥後天草皆耶蘇之黨也賊勢漸熾國人討
之不克家人以天草為隣國故欲救之請於豐後
日附牧野傳載成林吉政因達山田有榮新納忠
清平由宗弘等率三百次于獅子島又使三原重
廣如島原賊據島原城立天草時貞為大將凡男
女二萬七十餘口十二月上使松倉重政等至于
島原細川光利率師救天草山田有榮等乃還十
五年正月達島津久賀喜入忠政北鄉人加入來

院重高新納忠清山田有榮成天草二月二十三

日家久堯年六十三卒於福昌寺謚慈眠遺言禁

從光猶從光尤人家人生十六男長兵庫頭次光

人次忠朝次人直次忠慶次忠尚次忠紀次重永

次久雄次正勝次人國次忠心次久朝次貞昭次

人尚光人生於元和二年娶島津忠清之女是年

二十三襲封兵庫頭大忠朝稱兵庫是為加治木

領主島津兵庫祖人直稱式部大輔出為北鄉氏

嗣忠廣稱市正是為島津助之丞祖忠尚稱出羽

出島町田氏嗣忠紀稱玄蕃頭出為島津人敏嗣

重永稱右近出為補寢氏嗣人雄稱安藝出為島

津忠榮嗣正勝稱裁人出為鎌田氏嗣久國稱右

衛門出為伊集院氏嗣忠心稱三郎右衛門出為

島津常人嗣人朝稱十右衛門出為伊集院氏嗣

貞昭稱典部出為伊勢氏嗣人尚稱又九郎出為

樺山氏嗣一男大島津光人

島津光人初名忠元後改光人島津家人之次子

也幼字虎壽光稱人二郎任薩摩守隅守歷敘從

四位下侍從少將至從四位上中將寃永十五年

二月襲封平二十三十六年二月琉球王尚豐達使獻太刀及馬賀嗣位也七月下條書諭國人守

公法脩武備戒酒色等事凡數條十月伊勢貞昌

上書其大要言畏天命憫人窮敬祖宗慎言行道

學事凡數十百言山木正誼曰慈眠公以來為太

夫者衆矣其誰不自日善事君以忠然率皆寒

蟬未聞一人有獻替言也而貞昌獨上此書可謂

鳳鳴朝陽者矣此其所以為一國善士之首也歟

十七年七月初光人請於幕府曰薩列伊佐郡長

野村山中產金乞置金場至是許之乃使伊勢兵

部山田民部為金場法令數條以授留守家老島

津彈正等於是長野村始置金場以北鄉人加鳥

總奉行幕國中及四方淘金戶掘坑採鑛日得若

千斤十月琉球王尚豐平十八年二月光人發江

戶四月達鹿兒島是歲琉球王尚賢嗣位十九年

正月光人如江戶七月天草島原為耶蘇之亂故

戶口失耗土地荒蕪幕府使隣境諸侯移其民於

二邑於是移薩摩民於天草島原者六十戶慶安

四年四月大猷公殂光人與諸侯登城弔國喪也

八月家綱公仕征夷大將軍十月光人以世子登

城見於家綱公公命光久為大隅守仕左近衛少將世子為旌摩守賜松平氏及諱字更名綱人叙從四位下侍從承應二年七月後光明天皇崩後西天皇立明智二年光久使島津忠弘賀天皇即位初本藩未置史官使家老主公室譜謀事家人時始置文書奉行以義岡久喜為之人喜人延之子也寛永中幕布命天下諸侯獻其族譜家入與島津人通等謀因島津氏古系圖頗加刑攻以上正保中初命納戶奉行兼文書奉行平田純正編脩祖宗譜謀於是純正遍閱舊書旁搜野史輯集蒐羅積十餘年成一百十一冊自忠入至家久凡十八世起治承二年訖慶長七年九月十四年又自清和天皇至源賴朝為一冊宗人為一冊人保為一冊合一百十四冊名曰新編島津氏世祿正統系圖又脩公族譜謀然若干冊名曰新編島津氏支流系圖三年正月賜純正世祿百石賞編脩之功也更文書奉行焉記錄奉行職秩如故萬治元年四月虎壽光加元服名延入稱入三郎虎壽光綱久之子也十一月夫人伊勢氏卒于江戶三年十一月先是松平定竹神尾備前

守為光久請部內有金苗處皆鑿之許之是歲事木野郡芥苿野始置金場寛文二年春招菊池東勾以為儒職三年賜北鄉忠長島津氏初入定為北鄉久直嗣忠長復為久定嗣皆光久之子也十二月清兵糾副理官張學為正使行人司行人王琰為副使齋捧詔印封尚質為琉球國中山王是歲幕府命祭從元四年閏五月上郡村高辻帳於幕府先是光久如國分問民疾苦咸言每歲春夏之交大津川溢浸田疇壞邑居惠美大焉大津川源出雷山東過國分入上井川光久以為軍導川水南至大野原乃命土功之率於島津久通人通命岸良兼全為河渠司大山廣綱為副鑿導築堤道大津川徑大野原用二四年而畢水道遷徙南至住吉村入海無復前日之患更名新川八年琉球王尚質卒九年琉球王尚貞嗣位島津人通於高山鄉新留野崎二邑穿溝引川水以溉田起工于辛丑政元之歲十一年而畢開若干頃裁狀二十餘石延寶元年十一月世子薩摩守綱久平於江戶芝郎年四十二謚泰清歸葬福昌寺二男長為綱貴次為人年入年摺兵庫為島津人薰嗣綱

人受經於絕江和尚自註曰布魯漢寺住持有道學敎

於東鄉董利學弓於東鄉董張學和歌於諷訪兼

利綱入有德行卒之日國人皆惜之云十二月光

久叙從四位上仕左近衛權中將二年正月光久

遣使阿多忠成之京師拜叙仕恩八年五月嚴有

公徂七月綱吉公烏征夷大將軍天和二年四月

初置虎籠金場六月清翰林院檢討汪輝爲正使

內閣中書舍人林麟焮爲副使齋捧詔印封尚貞

爲琉球國中山王貞享四年光久告老傳封於嫡

孫綱貴元祿七年十一月二十九日光久薨平年七

十九葬於福昌寺光久生十九男長綱人次人定

次忠長次人岑次人達次人侶次正長次忠智次

人亮次人明次人雷次外記次人記次人祐次基

明次重矩次人房次人雄次人校次人定稱次郎左

衛門尚爲北鄉氏嗣忠長稱外記尚爲北鄉人定

嗣初賜島津氏人岑搏入六尚爲島津人近嗣人

達稱備前尚爲佐多氏嗣人倡稱壹岐尚爲島津

忠清嗣正長稱尚雲尚爲錄田氏嗣忠智稱筑後

尚爲島津忠長嗣人亮稱安房尚爲喜入氏嗣人

明稱大藏是爲島津與勝祖人當稱將監尚爲島

津人與嗣外記早死入記稱賴母是爲島津相馬

祖人祐稱鐵部尚爲桂氏嗣基明稱式部尚爲門

多氏嗣復本姓島山氏重矩稱主馬尚爲入來院

氏嗣人房稱求馬是爲島津求馬祖人雄稱市大

夫尚爲島津人倍嗣久故稱左門胃母姓稅所氏

光入學劍於東鄉董方學弓於東鄉董尚頗好學

嘗作鉢古一章其略曰夫一人之耳不能遍聽一

人之目不得廣視是以爲君者或聞謗譽於途或

採曠言於市肆曰木從繩則直后從諫則聖是故

人主以納放諫爲明人臣以進忠言爲任廣德之

戒接船終就其安未嘗之折歟意成主德音平

公問叔向曰國之患孰爲大對曰大臣重祿不諫

小臣畏罪不言下情不上通此患之大者也靜而

畏之誠哉斯言也汝等廣詢衆庶普告國中博知

予意主者施行又喜爲詩以高元奉爲容元奉從

公如江戶作紀行詩六十一首曰舟與手錄

島津綱貴

島津綱貴初名延人後改綱貴島津光久之孫也幼字虎壽光稱入三郎仕修理大夫薩摩守登叙從四位下侍從少將至從四位上中將母松平氏

隱岐守定賴之女貞享四年光人告老綱貴襲封
年三十八八月登城見幕府請襲封恩元祿元年
八月綱貴還自江戶十月琉球王尚貞遣使賀綱
貴襲封二年三月綱貴如江戶十二月綱貴以入
三郎忠竹登城幕府加入三郎元服賜松平氏及
諱字更名吉貴稱修理大夫敘從四位下仕侍從
三年六月霧島山燃爾灰數日十一月獻太平御
覽一千卷文苑英華一千卷冊府元龜一千卷于
昌平國學五年六月琉球王尚貞嫡孫佐敷王子
尚益來朝七年九月賞加世田鄉大浦村農夫次
郎兵衛志攀右衛門兄弟之友愛孝順賜錢二十
貫永萬丁役十一月光人薨九年四月府城火初
家久之營府城也歸化人林甫明望其氣曰數十
年之後將有火然後永永萬年林明人也萬曆
中客琉球義弘辟之給以世祿百三十餘石上月
爲火故請築石垣作堠樓門橋及室屋圖其制以
上光中連署許之十二年九月綱貴將以女龜姬
妻近衛家人請於幕府且曰世與近衛氏有舊十
二月許之是歲令國中使種植及茶十四年三月
新茶地成五月補貴發江戶六月如京師請近衛

氏見關白基熙右大臣家庶大納言家人為縛姻
故也七月還鹿兒島十五年八月達使上薩隅日
琉球地圖於評定所移佐木吉村有農夫兄弟遠
名自其父來力田守業納稅無闊十六年春賜兄
弟米各三十俵令有司送致之勸力田也源賴朝
之封忠久於薩隅日也賜脣官造國脣世用宣明
脣法貞享中天朝攻脣法曰貞享脣光人達仁禮
吉右衛門如京師從土御門三位泰福受貞享脣
法又如江戶受推步法於澁川春海至是綱貴達
本田與一右衛門之江戶復從春海受脣法於是
許薩摩世用固脣授以左券寶永元年九月綱貴
薨於芝邸年五十五歸葬於鹿兒島福昌寺證大
玄島津氏先世以來皆火葬會幕府禁火
華故稱貴土葬自是以後世從土葬長子吉
貴襲封年三十綱貴娶二階堂宣行女生吉貴及
菊次郎納江田國重之女生人倚忠直人方清總
納二階堂行裕女生鍋保光人福人倚稱周防是
爲花園領主島津美濃祖忠直稱玄蕃尚烏高津
玄蕃人憲嗣人方稱圓喜出烏高津人洪嗣清總
稱仙十郎出烏高津人東稱權七出烏高津
人當嗣人福稱仁十郎出烏高津主水人轉嗣福

貴學射平由宗門又學大島流鎗術得印可以授
白尾國嘉國嘉能天流鎗術至是復學大島流

島津吉貴

島津寺貴初名忠竹後改吉貴島津綱貴之長子
也幼字菊三郎稱尊郎任修理大夫薩摩守上總
外臺從四位下從四位上侍從少將至正四位
下中將寶永元年九月綱貴薨吉貴襲封年三十
十二月仕左近衛權少將一年七月吉貴歸鹿兒
島十月龜姫卒二年四月始領教令其略曰謹守
幕府法令嚴禁天主邪教家教倫理人勤道藝第
衣食具武器事官長從號令禁朋黨止聞爭省錄
役勸農民守疆場禁外交自非多病惡弱者不許
告老若有病狂喪心者宜加防閑凡十六條曰是
每朔餘書四年七月府城成十二月賜孝子池田
莊右衛門錢三十貫文宅一區莊右衛門鹿兒島
市人也六年正月常憲公薨五月家宣公任征夷
大將軍是歲賜孝子喜左衛門錢三十貫文喜左
衛門者鹿兒島郡小山村人也初光久自於幕
府請建東照公廟許之未果是月建東照公台德
公大猷公嚴有公常憲公四世廟及別當寺於城

南大手口光久之命也是歲琉球王尚貞卒尚益
嗣先是琉球大風經月不止拔樹木傷木稼繼之
以鐵鎧死者且二十人其後王城火七年二月賜
琉球王銀二百貫目恤災患也十一月叙從四位
上仕左近衛權中將是歲以國用不裕故世祿增
租石出未一斗五合又減家老俸祿二千石為十
石用人二百石為百五十石以下準之正德二年
十月文照公薨太子家繼公立時年四歲十二月
琉球王尚益卒尚敬嗣三年四月家繼公仕征夷
大將軍四年四月世子又三郎從吉貴朝幕府幕
府加又三郎元服賜松平氏及諱字更名繼豐稱
大隅守叙從四位下仕侍從享保元年四月有章
公薨紀伊中納言入繼大統是為吉宗公是月因
分鄉新渠成初郡奉行汾陽盛常行國分鄉以為
地形廣衍宜開新田乃先請引安樂川為渠言於
家老家老以為難弗許盛常以諭同僚士師經貞
經貞然之因謂種子島人基人基住視其地乃許
之使盛常經貞董其役起工於正德辛卯十二月
至是六年新渠成首起安樂川西南過八幡廟下
東徑內山庄村見次村又南至真孝村入海渠長

二里十八町許廣若干步其間溉田若干頃號爲
宮內原新田歲收六千餘石割二百石以爲宮內
八幡社領越明年命建祠于水上額曰青龍權現
使兒王宗因書其事於石其地係日當山鄉西光
寺村壘石爲底長三百餘步水自其上注渠有建
瓶之勢蓋當時鑿石決水始於此云其有山田君
豹題詩青龍祠曰青龍祠廟倚崔嵬如在威靈儼
壯哉雲擁千尋懸石壁江鳴十里走風雷勒銘不
朽通渠略興利方知濟世才豈覽慨然懷故事含
毫日暮重徘徊山本正誼曰汾陽盛嘗上師經貞
鑿渠溉田其事雖與李冰西門豹自公等比可也
而臣正誼又錄君豹詩於此以詠歌之庶乎可以
傳於天下後世矣古者諸侯貢詩觀其詩斯可以
知其國政矣斯可以知其俗尚矣漢書津江志越
中大夫白公穿渠引涇水首起谷山尾入櫟陽澆
田四千五百餘頃因名曰白渠民得其饑歌之曰
田於何所池陽谷口鄭國在前自渠起後舉市爲
雲夾渠爲兩涇水一石其泥數斗且澆且壅長我
永袞衣食京師憶萬之口君豹詩猶此歌也他日
使觀風使者有來於君豹之詩則其將以此作爲

首君豹泉鏡院之子也字文蔚號月洲八月吉辰
公仕征夷大將軍十二月霖島山發火兩灰四日

山下田畴皆爲所埋牛馬多死二年霖島山復發
火連日不熄諸縣郡田園被災者二萬六千三百
坪有餘云四年十月翰林院檢討海寶爲正使編
修徐葆光爲副使齋捧詔印封尚敬爲琉球國中

山王六年六月吉貴告老傳封於世子繼豐延享
四年十月十日吉貴薨年七十三謚寧國吉貴生
八男長繼豐次忠立郎次貴傳次忠純次久亮次
貴澄次忠鄉次忠通貴傳稱備前出爲島津久直
嗣忠紀稱周防是爲重富領主島津芳狹祖人亮
稱圖書出爲島津國晉人倫嗣貴澄稱美作出爲
島津貴傳養子忠鄉稱因幡是爲今和泉領主島
津因幡祖忠通稱因幡出爲島津忠鄉嗣

島津繼豐

島津繼豐初名忠休後改繼豐島津吉貴之長子
也母名趙氏幼字鉤三郎攝入三郎仕大隅守歷
叙從四位下侍從少將至從四位上中將卒保六年
六月吉貴告老繼豐襲封于二十七年四月
繼豐登城見於吉宗公是月吉貴還鹿兒島入大

磯館遣使謝恩祝髮橋入道大磯館島津元人之所建籠山爲先臨海爲池其地在府城北有舊跡曰鳥越頗爲迅速至是自祇園社左鑿石開道過海而行北放于館九十八町館在扇額題曰仙巖喜鶴亭光人嘗遊於亭邊有雙鶴盤旋翔舞遂降庭下優遊飲啄移時乃去因以名亭曰喜鶴亭所謂志善者也謂大磯鳥仙巖者蓋比於龍虎山之仙巖云六月繼豐還鹿兒島十月琉球人獻蜻臺寶錄先是臺灣有朱一貴之亂至於崇禎癸酉而定寧詳此書云八年正月繼豐如江戶十二月還鹿兒島初吉貴納江田氏女生人傳人傳首公官衣服禮秩如適吉貴遂以江田氏爲次妃因爲敎訓數條誠人傳日凡爲一國之君爲一郡之主行政令臨士民在於文武之道爰自得佛公以來至於貫明公松齡公慈振公世濟其美文德武功彬彬乎可觀矣今汝吾第二子也修理大夫之次弟也其於一國亦不卑矣今茲過十有六年矣他日爲輔相若守護者非汝而誰宜學文武之道以處瞻仰之位而志者萬事之大本也大本不立萬事不成玩物喪志聖人格言須是日夜率勵痛以實

游佚樂爲戒此外凡數十言偏反愛說敬長之道聽誅前悔之德丁寧告戒不一而足懲恐詳詳不言若自口出雖訓世子宜莫過於是者焉由是道路流言有世子勤摘之儀既而吉貴薨繼豐立待人傳以公法稍加裁損十二年六月十二日于宗信生十六年八月薨于木野郡農夫葬左衛門及第吉左衛門之孝賜麻衣各拾立依十七年天下大饑他國道殣相望惟薩摩日三列少死者賴蕃薯以救飢云元文二年二月立弟壯之助以紹島津左近將監忠長之後賜田祿一萬石及鼓川半地初島津忠久之次子忠綱烏越前守護代號越前島津氏忠綱子忠行達播磨州下押保地頭職傳十三世至於忠長忠長天文甲午死於播州朝日山之戰無後而家譜謀藏於薩摩庫中焉於是使壯之助紹其後五月賜鹿兒島市人新兵衛寮未拾土俵賞其孝也四年初吉貴命記錄奉行川上親丈町田俊雄相良長洪木城輝昌等旁搜暨代傳記依舊呼體用和諧猶朱武家事起草於己酉歷十一年而歲始清和天皇貞觀元年盡正親町院天正十四年名日秋華武家編年記寛保三年

二月賞小氏太左衛門孝賜廩米十五俵延享元年十二月立第二次郎紹和泉直人之後初直人死於川邊松尾城之役和泉氏絕於是立三次郎紹其後封于今和泉二年七月吉宗公讓位於家童公任土方家公征夷大將軍三年十一月繼豐告老傳封於世子宗信寶曆十年十月繼豐薨年六十葬福昌寺謚宥邦繼皇生四男長宗信次重年次久峰次定勝久峰稱木工出爲島津人豪嗣入未入定勝之子廢稱大和守爲入來院氏嗣

島津宗信

島津宗信幼名益之助島津繼豐之長子也母波谷氏赤谷氏之媛也飲食必有節動作必禮禮亭保十三年六月生宗信於江戶芝邸夫人德川氏無子繼豐以宗信爲世子宗信年甫十歲以伊集院俊矩爲侍候矩有學術盡心輔導其授學專在務實宗信等從夫人德川氏始謁將軍有德公進退有儀應對不失節有德公深歎賞之因加諸膝撫其背曰此兒容貌非常氣量絕世後必昌其家手取短刀以賜之宗信辭太夫人從旁勸勉之有德公更問其所欲宗信便顧指庭上一巨石曰某變此石

願賜之有德公益歎解其寡欲且所請不凡然以其石不能轉移仍在其處人呼爲島津石延享二年七月繼豐老宗信年二十襲封慨然有安民之志先世以來國用多端稅欵頗重宗信喟然嘆曰夫所以百姓之困者由租稅之重所以重租稅者由人君縱欲敗度苟利欲誼度則財用自足矣於是令國中正稅之外取於民者一切燭之令下國人悅服寬延二年七月十日宗信以病薨年二十二葬于福昌寺謚曰慈德弟重年立宗信爲人仁厚視民如傷翼封之初每夕召群臣從容欽洽以通上下之志嘗謂侍臣曰自古人君有賢相則雖庸愚國家未嘗不治也輔相之所係乃若是汝等常患之苟有所見勿憚於言以匡吾之不逮家老某卒宗信召諸大臣各使舉其所知諸臣翕率之際不即對乃拜謝曰願退識之時錄田政昌在病告他日召問之政昌即舉一人宗信問其爲人對曰是人舌職雖繁判裁決如流事無愆滯臣以是知其可用也宗信曰汝獨有與同列異者聞命即舉其人足以見平日之用心雖然吾所問者聽識也汝所謂者才能也夫專以才能取之則是吏等

之選矣至家老則可用識大體通事變者改昌悅服而退

島津重午

島津重年初名久門島津宗信之弟也幼字善次郎稱兵庫住薩摩守叙從四位下少將初島津繼豐使重午嗣島津久季之後寃延二年七月宗信薨重年襲封寶曆五年六月重年薨於江戶年二十十七謚國德歸葬鹿兒島福昌寺重年娶島津貢侍之女生重豪

島津重豪

島津重豪初名久方久攻志洪後改重豪島津重年之子也幼字善次郎稱兵庫改又三郎晚攻上總久號榮翁住薩摩守歷叙從四位下左近衛少將從四位上中將至從三位寶曆四年六月立為世子六月重年薨重豪襲封八月使島津久柄謝襲封之恩以重豪尚幼故也十年十月繼豐薨十一年四月幕府使重豪就國五月至伏見郊訪諸司代及近衛殿六月還鹿兒島是月家重公殂九月家治公仕征夷大將軍十二年五月重豪如江戶十一月德川刑部卿宗尹之女歸於我十三年

十月鑿玉川王子豐見城王子於大磯館明和元年如江戶十一月仕中將叙四位上六月還鹿兒島安永二十二月以山本正誼為記錄方兒王實

門為使番行記錄奉行事如故正誼字子和通稱傳裁號秋水受業於山田君豹博通經史最精于春秋左氏傳人呼稱左傳傳裁所著有島津國史秋水文集兒王實門字喬松通稱早之丞號南堂有學識與正誼齊名八月與府學名造士館營聖堂始獻釋菜十月創建醫學院是歲嘗揖宿郡農夫佐左衛門之孝賜廩米六石八月府城火八年福昌寺龍門橋成命正誼撰碑文十月櫻島發火民多死十一月創建明時館大堂之名於城南命正誼撰之記天明二年二月置鎧奉行弓奉行鐵砲奉行小納戶頭四月家齊公叙從二位仕大納言六年九月俊明公殂七年正月重豪告老傳封於世子齊宣是歲家齊公任征夷大將軍天保二年正月重豪叙從三位四年二月三日薨於江戶年八十九歸葬鹿兒島福昌寺謚大信世子齊宣襲封重豪生十三男長齊宣次昌高次忠厚次龜土即次感之助次久經次善次郎次為次郎次衆之

助次遂之進次豹次郎次齊溥次人命昌高攝富
之進尚爲皇前中津領主與平大膳大夫昌男嗣
忠厚稱雄土郎尚爲島津忠溫嗣人睦出爲越前
尤國領主有馬譽絕嗣有病歸家而沒齊溥稱桃
次郎尚爲筑前福岡領主松平齊清嗣人命博虎
之助尚爲奥州八郎領主南部信真嗣七男皆大
重豪幼而好學以山田君豹兒玉實門爲侍讀

島津齊宣

島津齊宣初名忠堯後改齊宜島津重豪之子也
母堤氏幼字虎壽尤稱又三郎仕豐後守薩摩守
歷叙從四位下侍從左近衛少將從四位上中將
至正四位上晚稱修理太夫號溪山安永七年正
月重豪告老傳封於齊宜寬政元年閏六月還鹿
兒島二年八月中旬尚穆使王子入貢賀齊宜
之襲封也九月如江戶文化六年齊宜告老傳封
於世子齊興天保四年二月重豪薨十二年十月
十日齊宜薨於江戶年六十九謚大慈齊宜生十
四男長齊興次剛之進次忠公次職之助次武立
郎次泰之進次久彰次謙次郎次範之進次清二
郎次定毅次久珍次風之至次信八郎忠公攝若

狹尚爲重富領主島津忠貢嗣人彰攝佐之助尚
爲今柳泉領主島津久賢嗣定教初名人博尚爲
伊豫松山城主松平定通嗣人珍攝彈正出爲植
子島領主種于尚久道嗣十男皆大

島津齊興

島津齊興初名忠溫後改齊興島津齊宜之長子
也幼字憲之助又改虎壽尤稱又三郎仕大隅守
歷叙從四位下侍從左近衛少將從四位上左近
衛中將至正四位上宰相文化六年齊宜告老世
子齊興襲封七年八月外國人冠寶尚在番吉村
九助與島民發銳禦之殺入外國人遁去不詳何
日或曰失八年九月賜吉村九助年俸五十俵賞禦外慰
之功也天保二年朝鮮王尚育遣使入貢江戶謝
承襲之恩也十二年十月齊宜薨安政六年九月
齊興薨於玉里郎年六十九葬福昌寺謚金剛定
院長子齊彬襲封齊興生七男長齊彬次齊敏次
諸之助次久光次珍之助次雄七郎齊敏初名惟
溫尚爲備前國山領主松平齊政嗣人光初名忠
教稱大隅守始爲島津忠公嗣後輔佐其子忠義
執國政維新之初有勳功鑑叙從四位下從四位

上仕左近衛權少將左近衛中將至從三位左大臣二男皆大

島津齊彬

島津齊彬初名忠方幼字邦光得入三郎島津齊興之子也母松平治道女文化七年三月生於江戶芝鄰叙從四位上左近衛少將及中將歷仕兵庫頭修理太夫薩摩守嘉永四年二月齊興告老傳封世子齊彬齊彬天資聰明端宇宏遠好學下士及嗣位隆學校勸農桑敎常平倉而用心天下之事慨然有匡濟之志常憂邦人不涉域外事情歷訪善洋學者詳航海造船鑄砲用兵諸書將攻革藩政充實武備而後及天下六年夏亞米利加令衆國軍艦四隻入相州浦賀海軍督將修理奉國書請鄰交通商下哨船測量海口發大砲張聲威鎮壓戶田氏榮遂父國書當是時我邦承平日久不習兵事閣老阿部勢州會宗藩及諸曹議之齊彬乃請起水戶老公任邊海之務於是列藩獻策論拒絕如出一口而齊彬獨以造巨艦鑄大砲講航海之術為急務一言不及拒絕其在國聘荷蘭人長崎親出郊迎屬之築六砲臺使諸士就學

建築術後午擊走吳船實由有此備也是特勝房州從荷蘭人赴薩齊彬一見為布衣交齊彬等做行於京師謁近衛關白以皇上深憤外夷凌辱私從齊彬進謁便歎皇上慨國事大息齊彬悚然曰陛下焦勞至此臣雖不肖從事於此領旨而由安政元年請造軍艦於幕府七月起工於大隅牛根鄉閏二月而成長十五間幅四間有餘左右各置砲門十名曰昇天龍是為我邦造洋製軍艦之嚆矢二年三月航海至江戶大規平次駕此船乃為詩曰四海一擣我一擣驚觀新造擬西洋只應直筆傳千載日本寧船是益觴立年七月二十日齊彬病篤遺命第八人光曰余夙欲興隆王室輝國成於海外志未滅而歿汝能輔佐忠義繼余志勿墜是業久光拭淚對曰久光雖不肖不敢夙夜服膺教命以繼公志誥了而臥八月五日行殯葬之禮謚曰順聖其後朝廷贈齊彬中納言從三位人先建祠於鹿兒島鶴嶺之下號日照國神社明治十五年詔為別格官幣社齊彬娶一擣氏部卿齊敦文生第三郎皆早卒後舉立男皆大養島津人光之子忠義為嗣忠義之幼也人光代執

國政人光忠義皆盡力於王室以翼成明治維新
之偉業云

善家久老光久立爲世子貞昌勸世子使就學每
曰先君世尊聖學自日新公島津忠良至先公莫
世不以儒學治國公願莫忘光久喜其忠直恩遇
特厚寬永十八年四月卒年七十二

諱訪兼利

諱訪兼利初名兼濟通稱奎右衛門薩藩人幼而
好學受業於僧如竹從岡村宗好學和歌就鈴木
正三究禪理島津光久舉兼利爲世子綱久傳累
遷爲家老兼合山地頭綱久篤孝好學慈仁愛民
兼利輔導之功居多云貞享四年六月卒年七十

四

伊集院俊矩

伊集院俊矩通稱仁左衛門薩藩人其先出自島
津忠時爲人剛毅直方寡言笑其學以躬行實踐
爲主幼而孤事母以孝稱家貧母素紡績俊矩常
執薪水母闊俊矩之嗜學不能得書鬻所織之布
以購四書與之其後受業於山口治易學愈進享
保三年擢爲郡奉行有名尋轉亂明奉行其折獄
一以誠接之故因徒感動不敢匿情獄皆立辨七
年卒役長崎八年遷大坂藩邸留守是年島津讓
俸五百邑使參政事貞昌^昌之在江戶也與林羅山

豈在江戶欲召俊矩爲母子宗信傳俊矩辭讓再

三不允乃白曰凡尊世子之事使奉行臣意則謹

受命可之於是詣江戶輔導世子甚得師傳之體

左右咸疾其嚴正世子益敬之俊矩年六十有七

告假歸國是時島津吉貴既老居大磯別館乃召

俊矩曰吾孫漸長爾輔導良勞宜授之經俾能自

講說俊矩對曰人君之學宜脩身治國爲主講說

非所宜事吉貴稱善寃保二年歿于江戶年七十

三世子宗信既襲封歸薩摩勦精圖治歲月之間

德化浹洽所以至國空虛利措不用者雖曰因

天資絕異抑亦俊矩輔導之力也宗信每論決國

政未嘗不及俊矩之事文久元年島津忠義以俊

矩遺髮冢在南林寺者改葬於新墳命其臣今藤

惟宏撰碑文立碑其墓上賜其裔孫某黃金二十

兩兩以郵之

竹内助市

竹内助市名益祐受儒學於僧如竹爲島津綱久侍讀爲人抗直有氣節綱久嘗學書示助市助市曰如此則樵童牧夫尚且能之國君之書耳有一段精采其依事啓沃率是類也綱久愛其抗直寵

遇頤渥元祿八年乙亥八月卒年七十四

儒家

郡山貞雄

郡山貞雄字原與通稱嘉右衛門薩藩人其先出自郡山重信重信通稱彌五郎暨應嘉貞之間仕

島津氏領郡山曾祖諱重昌祖諱重長父諱重庸貞雄幼而撫悟弱冠游江戶受業於室鳩巢爲人

嚴毅其教育子弟正色厲言不少假貸其學務實踐不好詞賦家貧爲吏數年有能吏之聲寶曆十三年癸未五月卒年七十

山田君約

山田君約字文蔚號月洲通稱喜三右衛門受業於兒玉圓南郡山貞雄後游江戶從於河口靜齋伊東潛齋而學仕薩藩爲史官兼島津重蒙侍讀

明和五年戊子九月卒年五十四

山本正謹

山本正謹字子和通稱傳藏號秋水從山田君豹受程朱學博通經史兼精于春秋左氏傳人呼稱左傳傳藏安永二年島津重豪新興學乃以正謹爲教授參侍講世子齊宜多所匡教恩遇日渥爲

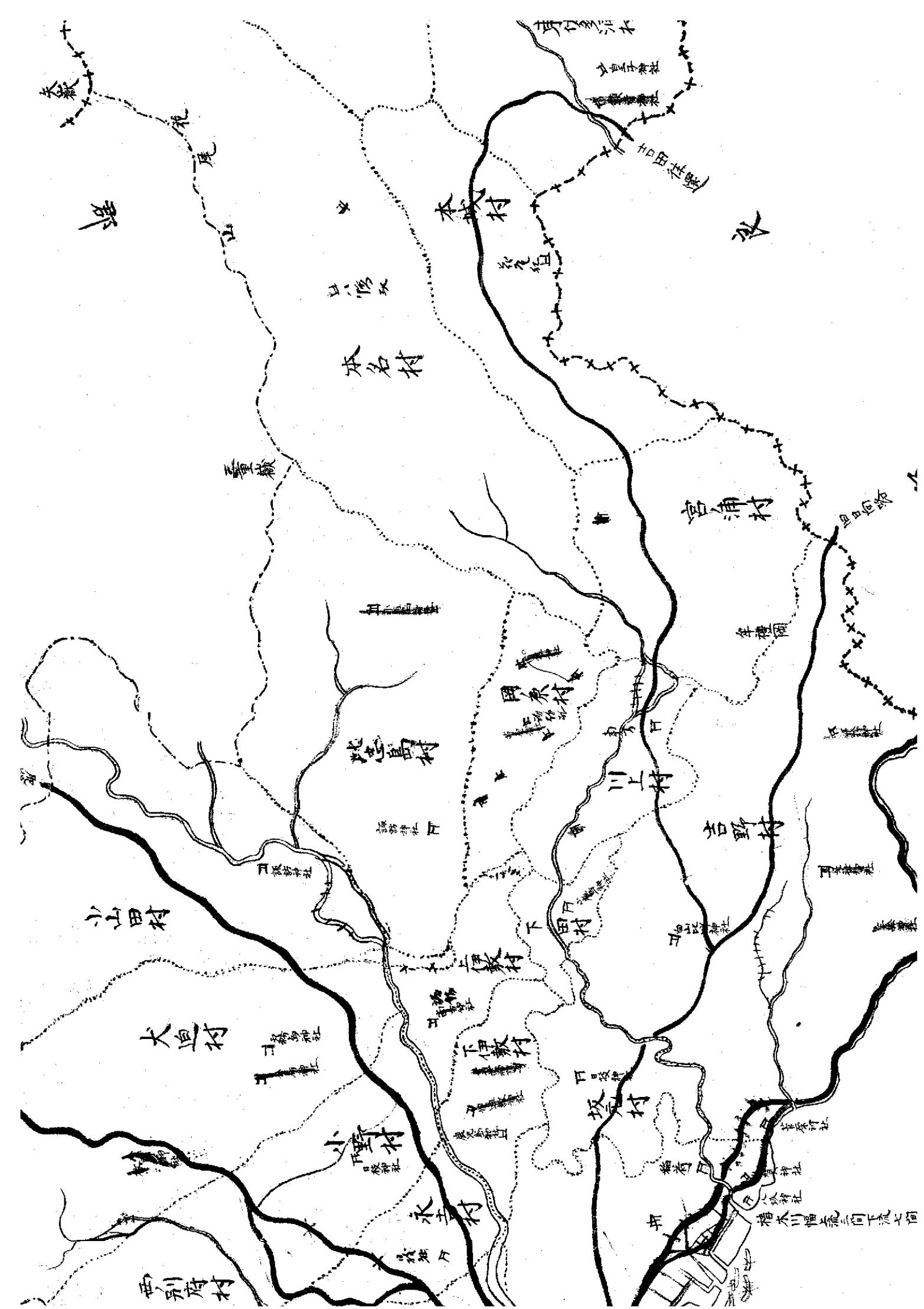
用人格兼領湯尾地頭文化五年戊辰十月平年
七十五石塚士堅宮下希賢累田清直皆^也其門所
著有島津國史秋水文集

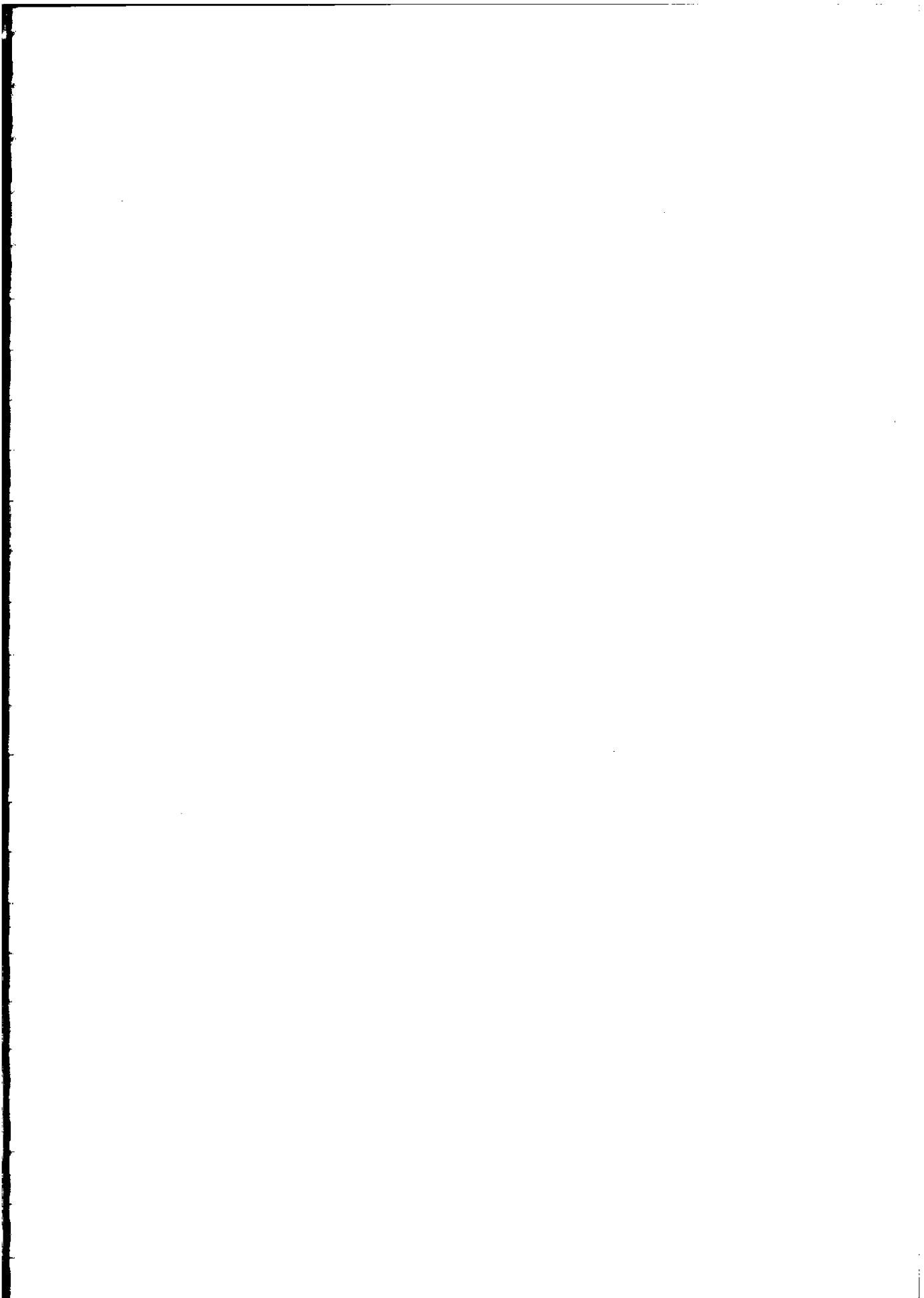
孝子

池田莊右衛門鹿兒島上町人早喪父獨與母居
家甚貧竭力奉養母老且病手足不仁起居出入
則抱持之食輒哺之如慈母保嬰兒國人號爲孝
行莊右衛門寶永四年十一月國守島津吉貴嘉
之賜莊右衛門錢三十貫文宅一區宅邊有橋國
人呼其橋爲孝行橋

喜左衛門昔鹿兒島郡小山田村農夫也事父母
竭其力父死不敢踐其席使母坐之奉養益敬嘗
娶妻以不順於母故去之遂不復娶嘗與村民飲
歡甚忽憶其母獨居無聊即起而出路沽酒歸與
母對飲盡歡寶永六年五月國守島津吉貴賜喜
左衛門錢三十貫文褒其孝

南林寺管下有麌民曰太左衛門以鬻劍爲生業
養父安必有魚肉父嗜酒平生貯酒求輒達之時
招父之執爲酒伴不問其貧窶保三年四月國守
島津繼豐賜太左衛門麻糬米拾五俵賞其孝也





官有地	戶數	(頭注1)
總計金七百八拾圓貳拾四錢七厘 武拾壹圓	本籍貳百八拾壹戶	社地三反貳步 武拾陸軍省用地五反三畝 地七反七步 柒草生地貳反貳畝 壹步無格 社毛戶
總計貳百八拾三戶	男七百九拾四口	士族三百三口 平民五百七口
口	總計壹千六百四口	士族貳百七拾壹口 平民五百貳拾三口 女八百拾六頭
牲牛貳頭馬百三拾四頭	牲畜寄留拾四口	男六口女八口
牲馬三拾壹頭	牲馬一百三拾六頭	牲馬一百三拾六頭
福昌寺山	福昌寺山	福昌寺山
精木川	精木川	精木川
太鼓橋	太鼓橋	太鼓橋
山間林アリ都テ三拾九町三反四畝餘松樹多	山間林アリ都テ三拾九町三反四畝餘松樹多	山間林アリ都テ三拾九町三反四畝餘松樹多

下田村

本村ノ古時坂元村ト西村タリ明治二年木村

ヲ坂元村ニ合ス明治十四年一月復分テ西村
トナス

疆域

北ハ山路ヲ以テ川上村ニ界シ南ハ坂元村ト
村路ヲ界トシ西ハ上伊敷村ト山谷ヲ以テ界
シ西北ハ用水路岡ノ原村ニ隣リ東ハ吉野村
ト精木川ヲ界トス

幅員

東西九貳拾三町八拾貳間南北九貳拾町四拾

間

管轄沿革倉以後島津氏ノ管スル所タリ正平十二年

七月島津氏入谷山郡山田郷ノ領主山田忠經

ニ本村及ヒ上伊敷村ノ三分ノニヲ加封ス山田
氏成書

ニ移レ應永ノ頃島津人豊復本村ノ六町ヲ割地理志
慶長ノ

キ吉田清正ニ與ヘ其忠節ヲ賞地主加封ス山田
氏成書

頃ヨリ鹿兒島近在ト稱シ島津氏ノ直隸メリ

王政革新以後鹿兒島縣ニ屬ス

鹿兒島縣屬ヨリ北九壹里半

元標八村ノ中央字系原ニ在リ

東重富驛九三里

西北岡ノ原村元標工九壹里

東吉野村元標工九三拾町

北川上村元標工九拾八町

南坂元村元標工九拾九町

西上伊敷村元標工九拾八町

地勢精木川村ノ中央ノ南流シ四顧皆丘陵圍繞平

地其半ニ居ル運輸便ナラズト雖バ薪炭乞カ
ラズ

田ハ其色薄黒其質美稻梁三宜シ園ハ其色赤
黒相交其質美ナラズ甘諧ニ通ス

田或拾六町壹畠八拾貳町九又丈
或拾六丈畠八拾貳町九又丈宅地九町二丈

九丈林或拾貳町七丈
或拾貳丈步山

步山林或拾貳丈步

總計百四拾壹町壹又貳拾八步

社地九貳拾荒蕪地七畠草生地二畠

總計貳又貳步

溝ノ上東西九貳町中追東西九貳町半桑原

東西九三町半南北九丈半桑原

地租金六百四拾八營業稅金地方稅金百貳

五拾三錢壹厘

總計金七百七拾四圓貳拾錢三厘

地勢

官有地

地主

地主

地主

地主

地主

地主

地主

地主

地主

拾三口

士族三百武口
平民立百五拾壹口

總計千七百三拾八口

本村工寄留口

牛拾九頭

牡牛拾三頭

總計貳拾壹頭

牝牛六頭

馬貳頭

牡馬品口

川

甲突川幹流水深花尾山ヨリ出テ日置郡原地
下伊敷村小野村永吉村西田村大迫村上伊敷村
市街ノ西ヲ過キ本村ト下荒田村ノ轍テ鹿児島
シテ海ニ入ル云々村ニ孫ルモ長才凡貳町廣才凡五拾間

道路

出崎

村道^至西鹿兒島^{ヨリ}海濱
長久拾町幅壹間半
五町平出ノ所名^{アリ}洲崎ト云フ九

神社

塩竈神社^{九月廿日祭}村社ノ南ノ方ニアリ社北東西拾

物産
民業

米石六斗^{九月廿日}塩貳千四百石^{九月廿日}魚千石立拾
農ラ業トスル者五拾四戸工ラ業トスル者六
戸商ラ業トスル者三拾貳戸漁獵ラ業トスル
者五拾七戸人刀車夫拾五人

疆域

幅員
管轄界

東西凡壹里拾六町南北凡六町

鎌倉以後鳴津氏ノ管スル所タリ建久園田帳
ニ大隅國正八幡宮^{承原郡宮内村ニアリ}御領
鹿兒島郡荒田莊トアレハ建久ノ頃ハ今鹿兒
島神宮ノ神領ニ屬セント見工天文六年十二
月鳴津貢久其家臣福義董親ニ本村ノ内八拾
町ヲ與フ^{天文以下本田}慶長ノ頃ヨリ鹿兒島
近在ト稱シ鳴津氏ノ直隸タリ王政革新以後

荒

田村

本村ハ古時上荒田下荒田ト稱シ今ノ下荒田

町ト一村タリ明治十二年十一月鹿兒島ノ區

域ヲ定メ荒田村ヲ割テ下荒田ヲ下荒田町ト

為シ鹿兒島ニ編入シ上荒田ヲ荒田村ト為ス
東ハ海ニ瀕シ北ハ鹿兒島市街ニ接シ西ハ田
上村武村ト丘陵及ヒ田間ノ堤ヲ以テ界トシ
南ハ中村ト用水路ヲ以テ界トス

里程

鹿兒島縣^{ヨリ}南允貳拾八町
南谷^{元^中大^中享^中和^中在^中}允貳里
西田上村元標工允三拾町

地勢

南 中村元標へ丸八町

西南丘陵ヲ襟帶シ東ハ海ニ瀕シ土地平坦ニ

シテ運輸便利

其色黒ク其質中精梁ニ宜シ

田畠六拾九町六畝三拾四町武宅地七武拾九反

切摸畑五町武反山林武町武反八步

歩鹽田武拾四町武反八步

總計

壹百四拾八町八反壹武拾三步

練兵場敷地八町八反八武拾三步原野武拾拾

沼池

壹武拾三步原野武拾拾

字地

内屋敷

八町九反武拾拾八步

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

八町九反武拾拾八步

地租五百金一千七百武拾三圓

本籍三百三拾武戸平民戸百拾七戸寄留戸

戸数

貢租

官有地

地味杭地

人口

男七百四拾戸口士族四百五拾戸口女七百拾

八口平氏武百七拾四口口

總計壹千四百五拾九口他出寄留六拾四口男

村工寄留九口

牡馬四拾戸頭

牛六頭牡牛五頭

人力車拾三輛

總計四拾八頭

牛上川幹流

田上川幹流

山川路

森林

川車

堤塘

道路

學校

物產

戶長役場

士族

總計三百三拾四戸

男平氏武四百五拾戸口女九拾

八口平氏武百九拾四口口

總計壹千四百五拾九口他出寄留六拾四口男

村工寄留九口

牡馬四拾戸頭

牛六頭牡牛五頭

人力車拾三輛

總計四拾八頭

牛上川幹流

田上川幹流

山川路

森林

川車

堤塘

道路

學校

物產

戶長役場

米八百石

斗粟四八

斗石

甘藷八九拾

千

立麥四拾三

戸数

貢租

官有地

地味

杭地

字地

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

戸数

貢租

官有地

地味

杭地

字地

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

戸数

貢租

官有地

地味

杭地

字地

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

戸数

貢租

官有地

地味

杭地

字地

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

戸数

貢租

官有地

地味

杭地

字地

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

練兵場

沼池

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

内屋敷

總計

八町九反武拾拾八步

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

武戸

平民戸

百拾

七戸

戸

寄留戸

武戸

本籍

三百

三拾

川

道路
神社

學校
古跡

物產

民業

甲突川幹流木村ノ東鹿兒島上田町ノ境上荒田町ノ光ノ流レ本村及ヒ
間先ノ流レ海ニ入ル本村ノ港地字一貫地ノ
拾九間先ノ流レ海ニ入ル本村ノ港地字一貫地ノ
本村ニ至リ入第田村ニ此キ
甲突川ノ下流ニ合ス
伊集院別往還道一等ニ属ス伊集院驛及ヒ
界ノ境ヨリ村ノ中央ヲ過吉甫ニ向七田上村ノ
界ニ至ル長サ九尤町貳拾壹間幅貳間
建部神社間南北九七間大名持命日本武尊ノ
參ル例參九月十九日

公立小學校木村ノ西北ニ在リ生徒男百六十人女十七人給入人
野元原戰場木村ノ西北武丘ノ上ニ在リ正平
顯蓬隔日二州ノ義兵ノ衆ノ軍ノ分ノ广ニト
為シ一ハ野元原ニ陣シ一ハ原羅ニ陣ハ島津
氏入谷所ニ伏六ノ設ケ櫓ノ森木村ノ東南ニ
連戦數日互ニ勝敗在リ櫓ノ森木村ノ肝舟氏ノ
軍島津氏ノ軍ト戰シ
守首塚ナリト云ノ壽國寺廢寺址木村ノ西
事例十二年僧玄然開基碑宗貞

米七百擔石四石
穀米百石拾壹萬石
粟四石拾甘譜壹萬六石以上
閩村男女皆農業トス牛馬賣買ノ業トスル
者五戸商ノ業トスル者拾貳戸

1
甲突川

1<br

東下田村元標工九拾八町

廣士社壹戶社

西甲寒川ノ帶ビ東北岡陵ノ貢ノ土地平坦ニ
シテ運輸便利

地味地勢

其色赤黑相交，其質止火中稱藥之宜外兼重

八煙草二適不
九冷六丁貳九八
十十八十七恰貳四

總計四百六拾貳町七丈五畝貳拾九步

官有地

字七

宇都 木村 / 南町下伊敷村ニ接ス
東西九町南北九町
一 中央ニ在リ 東西九
ノ 南北之二均シ 物園木村 / 北ヨリ西ニ
有リ東西九六町南

貢
相

卷之三

地租金貳千四百九圓
貳拾六錢二厘
全二圓地方稅金貳百八拾元
上拾錢地方稅金貳百八拾元
總計金貳千七百五圓上拾四錢三厘

道
路

車牛馬人

牛車六輛 人力車壹輛

總論

人力車壹輛

總計七軒
甲寒川幹流本村 / 七北志島村 / 畿ヨリ本村
ト小野村 / 一界ヲ南流シテ下伊敷村ニ
ハレ長九丈現七町一拾間廣サ九貳拾五間深

入九臺大土寸其流幾シ共上流ノ石垣ト云
石ヲ壘ミ木ノ深ノシ西南ノ山下ニ溝渠ノ繫
チ東南小野永吉西田武荒田ノ諸村ニ道シ以
テ灌漑ニ便ニ入紙之ノ木井田川大流木深潤
新田溝ト稱ス空ヨリ出テ木村ノ西字永牛田ヲ經テ西ニ
流レ甲矣川ニ入ル長九半里廣才九二間深才
九五花野川大流同ノ原村舊花野村ノ谷ヨリ
才十西流シテ甲矣川ニ入ル長十九二
町深才十寸
郡山街道縣道工等ニ舊入木村ノ南下伊敷村
志島村ノ界ニ至ル長壹里七町二拾二間廣才

郡山街道（縣道）二等二萬八百米、本村ノ南下伊勢村
志島村ノ界ニ至ル長壹里七町二拾二間廣才
九貳間支道アリ北ニ折レ下伊敷村ニ通ス村
境延長九丈町廣才九丈八

神社

諏訪神社 村社村ノ光ニ在リ社地四畝武拾三
奉陰晉二月二十日
創建年月詳ナノ不
本村ノ中大ニ在リ東西拾

戸長役場

間南北六間面積六拾坪

日

学校

墳墓

公立小学校 村ノ光百四拾土人丈三人
僧桂巻墓 村ノ中大氏合ニ伐ニ在リ生徒百四拾八人
桂巻墓 村ノ中大氏合ニ伐ニ在リ生徒百四拾八人

ハ

疆域

東ハ坂本村ト丘陵ヲ界トシ西ハ甲矣川ノ中
央ヲ以テ小野永吉二村ニ邊シ北ハ上伊敷村

ト畔道ヲ界トシ南ハ鹿兒島市街新城院ニ接

通町

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

又

神社

九拾壹町堤上
アリ作道十ノ一
鹿兒嶋神社縣社本村東
間南北九八間反別武畠武拾步
彦大久松見尊堂上並合
ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

卷之三

戶長役場

名勝

卷之三

伴兼行館址(本村)東勁谷寺山ノ上ニアリ東
ト萬小陞極猶存ス古城由未記ニ古時伴兼行
太宰大監ヲ又ナ蓋率ノ様ヲ兼仕シ始テ本村
ニ居ル應永頃伊敷四郎四郎ケ坂戰場嘉曆
忠純墨ラ此地ニ築クノ居ル故ニ四郎ケ坂
名アリ應永廿年十一月島津久豊叛臣伊集院
頼久ノ兵ヲ數ル
王里村ノ中央ニアリ北愛宕山ヲ屢ヒ西南ハ
平田ニニテ山麓ニ島津久光ノ邸アリ
米產千六百八拾石走斗六升外栗土石
石裸麥四百六拾石首諸十九百石
戸

小野村

疆域

北ハ上伊敷村大迫村ト畔道及ヒ用水路ヲ界
トシ東ハ甲突川ノ中央ヲ以テ界トシ下伊敷
村ニ對シ南ハ永吉村ト岡上ノ經西南ハ岡上
村ト九列街道ヲ界トシ西ハ西ノ別府村ト田
上川ヲ界トス

管
轍

里程

以後嶋津氏ノ統轄スル所タリ慶長ノ頃
鹿児島近在ト稱シ島津氏ノ直管タリ王
利以後本縣ノ所管ト為ル

南
嘉山驛正凡四里拾壹里

東
伊勢村元栗二十八町

荊南承吉村元漂江乞毫里

西
西ノ別府村元標工凡憲

卷之三

北上伊敷村元標工凡拾五町

戸長役場
 學校
 物產
 民業
 男女皆農ラ業トス畜ラ業トスル者貳戸

月評ナラ不審北三間南九坪永吉村ラ差又
公立小學校生徒男九格人
米六石百四拾石貳百武拾五斗
粟拾石六斗
麥石六斗
甘藷貳拾壹萬毫千

民業

男女皆農ラ業トス畜ラ業トスル者貳戸

里程

鹿児島縣廳ヨリ西貳拾壹町三拾六間

西元標村元標一九壹里

西田上村元標一九壹里

西西北西田村元標一九壹里

東北下伊敷村元標一九拾三町

地勢

西北岡陵ヲ負ニ東甲突川ヲ帶フ東南八地勢

平坦西田武荒田ノ諸村ニ接ス運輸便利

地味

其色赤黒ニシテ沙ヲ交エ赤木クシ真土少シ

貌地

田六拾三町四丈畝或拾八町堀切換畝拾貳町

山林九町五反畝拾七町原野拾八町九町

墓地拾七町畝拾五町

總計百五拾三町七反五畝拾三步

疆域

古時原良村ト兩村タリ明治四年原良村ヲ本村ニ合ス

地味

東北八甲突川ノ中央ヲ以テ下伊敷村ニ界シ

地貌

東南八西田村ト岡及ヒ村路ヲ界トシ西ハ九

地勢

列街道ヲ以テ田上村ニ界シ西北ハ小野村ト

幅員

岡上ノ徑ラ界トス

管轄沿革

金錢倉執政ノ時守護焉津忠久ニ属ス南北朝ノ時正平十八年焉津貞久本村ヲ其第六子氏忠

= 與フ島津家語足利氏執政ノ時應永十九島
 津久豊本村ノ十二町ラ割キ高木二郎三郎ニ
 與フ島津國史 = 摂ニ 豊臣氏執政ノ時文様島津義久
 本村ヲ喜入久道ニ與ハ其葬地ト爲ス既ニシ
 テ久道死ス於是島津氏本村ヲ收メ其直管
 爲ス王政維新以後島津氏封土ヲ奉還シ明治
 四年七月本縣ニ属ス

七町廣ナ武間
海濱ニ沿ル
志ノ界ニ至ル長丸町廣ナ九
間三尺木道ヲ藍ル凡武町
日枝神社ヲ祭ル例地志支武畠拾武歩大山昨命
年月并
神社

七町廣ナ武間海濱ニ沿ル谷山別街道ヨリ南方那元村界
志間三尺木道ヲ走ル九武町廣ナ武間ニ至ル長丸十町
日枝神社村社社地走及武糸拾武歩大山昨命
ノ祭ル例祭陰曆十一月廿三日創建
十年月詳テ久

學校生徒男七拾人
立小學校村ノ西ニアリ
戶長役場村ノ西ニアリ東西九五間南北九拾間
反別四畝拾五步郡元村ヲ蓋ス

古跡

物產

收以
入上
頤宮
年
正

男女皆農ヲ業トス商ヲ業トスル者七戸
民業

出崎	鶴ヶ崎町長治本村ノ東ニアリ海中ニ出ル丁九戸
神社	元神社村社村東西无戸地形起長地威足七畝拾
學校	公立小學校男五拾八人在り生徒六拾人
戶長役場	立派村ノ日月一ノ創建午月詳十ラノ不仕事醫十人
古跡	青屋松原木司平村ノ東海濱ニ在リ觀應中谷山郡
物產	米穀百石九拾石大麥六石小麥八石粟五拾石大豆上石五百石蕎麥毫甘藷一萬六千鹽石
民業	男女皆農業トス商業トスル米九拾戸

字宿村

古時谷山郡山田郷ニ屬久明治四年三月廢止

烏郡二属入

疆域

東ハ海峽ニ瀕シ西ハ田上村ト岡及ヒ畔道ヲ
隈トシ南ハ船山郡上福元村ト岡上ノ逕ヲ以
テ相隣リ北ハ岡及ヒ瀬戸路ヲ以テ郡元村ニ

幅員

幅員 東西貳拾三町四拾間南北拾三町五拾四間
管轄沿革（義執政）時守護島津忠久三萬石北條氏執

政ノ時、島津忠時其長子忠經ニ山田綱ラ與ヘ之ヲ領セシム。島津國丈子孫世龍表ト山田ヨ此

建治二年九月十三日忠經子忠真

其第三子直久ニ本村ラ與ソ應永六年二月卒
肆元久本村ラ以テ福昌寺領ト焉シ暨世鳥津

氏)直管久ル所久リ王政維新後端津忠義

封土ヲ奉還シ明治四年七月本縣ニ猶ア
夷兒町系惠ヨリ南ニ至ル竪里哉合五方

里程

北 南
郡元村元標一九貳拾貳町
谿山郡上福元村元標一貳拾四町四拾

人

户
政

卷之二

官有地

地勢

卷四

東ハ海ニ瀕シ西北ハ岡陵田環シ脇田川村
中央ヲ流ル運輸便利

田八共色白ク沙ラ交エシテ田地八共色黒ニ
其質中繕梁甘諸等ニ宜ク水利便ナリ

總計貳百四拾三町五反八畝拾六步

草生地
拾九步墳墓地
步

北
消
永
仮
西本
正山村
木町
村前
北二
西三
二町
牛掛
茅原
弓削
東
木
村

西三町南北一丁 梅原追、

地租金一千四百七拾七牛馬賣買稅一船稅

錢 **人** **力** **車** **稅** **金** **八** **地** **方** **稅** **金** **百** **五** **四** **厘** **三**

本籍四百五拾五户平民四百三拾户社壳户

終言曰：「口千六拾七口，男千貳拾口。」士族九百五拾口

牛馬

七
百 拾 八
拾 口
九 千
口 民

壯馬貳百八拾頭牝馬貳

川舟

總計三百拾七頭

學校

道
路

提塘

山川路一、谷山街道ト構ス
アリ谷山街道、東字資田ヨリ西ニ折レテ曰
上村ニ通ス、長義始毫町一始七間、作往還道元
幅毫間、一等ニ属ス、村ノ東谷山街道、南字南新田ヨリ
西ニ折レテ上福元村諸村ヲ經テ伊作驛ニ通
五間、端武間、ス長毫町一始、
天御中主神社、村杜村ノ西ニアリ、杜地東西
南北、毫拾間、義始毫町、東西別三段五

蜀
城

民業 男女農ヲ業トス農業
獵ヲ業トスル者六戸

古物產

幅員

幅員 東西九毫里拾貳町南北九毫里
管轄沿革錄倉執政ノ時守護島津氏ニ屬又平七耳五
月二十二日島津貞久木村ノ半ヲ割キ伊地知

里程

季豊ニ與ヘ之ヲ領セシム伊地知氏_書_{據ル}天正中
喜入季久本村ヲ領ス是ノ時ニ當テ季久ハ喜
入四十町及ヒ櫻萬ノ赤木村鹿児島ノ伊敷村
牛山郷ノ花北村等ヲ併領ス後季久本村及ヒ
花北赤木伊敷ノ三村六十町ヲ島津義久ニ獻
シ鹿籠闇地四十町ト号ント請フ義久之ヲ許
シ季久ヲ鹿籠ニ封シ本村以下ノ三村ヲ收メ
本村ヲ以テ其直隸ト爲ス地理纂考據ル五政革新
以後島津忠義封土ヲ奉還シ明治四年七月本

人口

總計五百貳拾五戶

男毫千八拾口 壓族百六拾五口

女毫千百九拾口

女毫千百九拾

三口平氏毫千七拾五口

女口六口男口六口

戶長役場

共立小學校

茶白ケ城壇

傳說

東北河陵ノ上アリ土人ノ

將兵少國長ノ件セ

八人女拾九人

牛馬

牡牛八頭

馬貳百五拾頭

社馬百四頭

北馬百四拾八頭

山

總計貳百六拾頭

本村ハ丘陵多ク或ハ村ノ中央ヲ橫絶シ或ハ

谿山郡ニ界シ或ハ小野永吉兩村ニ界ス其林

木ハ矮小ニシテ或ハ草ヲ生スルモノアリ高

キハ拾丈ニ過ギス

川

田上川幹流

東北ラ東ニメリ出テ西ノ別府村ヲ過キ本村ノ

脇田川幹流

中村郡元村ヲ經テ海ニ入ル

サル

九六間其流

九三流源少

九八八八八八

神社

八幡神社

創建各

年例

詳發

功社

ナ十

皇村別ハ

ラ一月

慶

ズ月

祭

吉滿神社

別命社

依地

四

ア社

命社

祭

社

社

地北天歩

道路

西山間停

支道

五ヶ

アケ

別

村

五リリ

別

字

府

五

ア

別

村

五

ア

別

村

五

ア

里程

幅員

鹿児島縣廳ヨリ西南九貳里

元標

大正五年

元標

大正五年

元標

大正五年

元標

大正五年

元標

管轄沿革

小野村ニ全シ

東西九貳里

貳拾八町南北九貳拾六町

南

元標

大正五年

元標

大正五年

元標

大正五年

元標

物產

米

三百六拾

石

稻米

一拾

石

裸麥

二石

小麥

六拾

石

栗

九拾

石

蕎麥

九拾

石

甘藷

四千

石

煙草

三百

高粱

九十九

石

高粱

九十九

石

高粱

九十九

石

高粱

九十九

茶

白

茶

城壇

傳說

二南朝

ノ將

兵

少

國

長

ノ件セ

古跡

西別府村

西北八犬追村

小野村ト上川ヲ対トシ西北

八谷村ト畔道ヲ以テ隣リ南八谷

山郡五ヶ別

府村ト田圃及ヒ

山林ヲ界トシ東

南八田上村ニ斗曲

ス

南八田上村ニ斗曲

ス

民業

園村皆農ヲ業トス商ヲ業トスル者

字也

地勢 地味 地貌

西 南
毫里拾九町四拾間
日置郡石谷村元標工九毫里拾町
谷山郡五ヶ別府村元標工九毫里毫町

道路原野

川山牛編

人
口

戶數

男四百七拾貳口	士族一百貳拾三口	女五百四
平氏三百四拾五口	平民三百四拾九口	
平氏三百四拾五口	他出寄留拾貳口	男五口女
平氏三百四拾五口	本村一寄留七口	男四口
平氏三百四拾五口		
馬百三拾九頭	馬百六頭	
馬百三拾二頭	馬三拾二頭	
牛八頭	牛八頭	
牛五頭	北牛三頭	
總計百四拾七頭		

總計金七百拾八圓貳拾壹錢五厘四毛
本籍貳百拾三戶平民族五拾五戶民百五拾八戶寄宿貳戶上
社壳戶村社

神社

戶長役場
古跡

名勝 物產 民業

疆域

幅員

管轄沿革鑑倉執政ノ時滿家院ニ隸シ守護島津忠久ニ
属ス寛元ノ頃滿家榮尊之レ力院司タリ建長
ノ頃榮尊ノ子比志島祐範其茅二子滿家義祐
ラシテ本村ヲ領セシム比志島氏城大永ノ頃

里
程

嶋津勝久本村ヲ川田義元川田義秀ノ二人ニ
與ヘ之ヲ領セシム地理志 永祿三年六月實久
本村ヲ入來院重朝ニ與ヘ其忠勤ヲ賞入未定
慶長以後八卡田村三金シ

北
都山驛二九里半

東北上任鄉村元標二九壹里
西北小山田村元標二九壹里

西南小野村元標工八毫里
西上列育寸元標工九號

西
南
西
北
別
府
村
元
標
工
九
號

標一九壳里半

郡山街道ト九剣街道ノ間ニ横絶シ東八甲斐

川ヲ帶フ全村岡陵起伏西より東に向テ陵墓

ス運輸便ナラズ

其色黒夕ノ木
其質中下陸松蓄聚ニ適久
田百九町七反
火田或百五拾武町或
反七武或百八武宅也或拾五

正義格八步劍反七試武格八步劍北叶四反九試格刀與劍百四拾四刀一不定田六試格山

貌地味

道
路

二四

牛馬

瀑布

久木田瀑布(追川村) 東字久木田ノアリ、源九八間大
霧嶋神社瓊杵命、草薙不令命、御木花咲耶姫命、依頼市麿、御山川、月十九日創建年月詳ナラズ

学校

(通注5) 公立小學校三
西二丁リ止、徒百五拾人、男四、女五人

物産

米
斗一千五百石、合一千五百石、斗一千九百石、合一千九百石
粟
斗七百石、合七百石、斗八百石、合八百石
蕎麥
斗五百石、合五百石、斗三石、合三石
油菜

民業

男女皆農業トス商業トスル者四戸

疆域

東八甲突川ヲ以テ比志島村ニ界シ西ハ伊集院
院脇往還ヲ以テ日置郡竹山村ニ界シ南ハ岡
陵ヲ以テ犬追村ニ界シ北ハ日置郡川田東俣
兩村ト岡爻ヒ畔道ヲ界トシ同郡郡山村ト岡
陵ヲ勝テ、相隣ル

幅員

東西九里七町南北九三拾貳町
管轄沿革古時本村比志島村及ヒ日置郡郡山村東俣村

西俣村川田村ヲ滿家院ト稱ス後本村及北志
島村ヲ鹿児島郡ニ隸ス正中ノ比小山田景範

里程

之ヲ領ス景範ハ比志島時範ノ孫ナリ時範
祖父祐範滿家院郡司タリ比志島村ニ居ル因
テ比志島ヲ氏トス時範盛佐義隆ヲ生ム時範
ハ滿家院ヲ領シ盛佐ハ川田ニ居リ義隆ハ邊
牟木ニ居リ各其地名ヲ以テ氏トス時範忠範
ヲ生ム忠範ニ子アリ長ラ義範ト曰ニ次ハ即
チ景範ナリ忠範景範ラシテ小山田ヲ領セ
シメ因テ以テ氏トス應永中小山田範清小山
田城ニ居ル小山田氏ハ何レノ時ニ滅ヒシヤ
戴籍詳ナラズ應永ノ比吉田佐清之ヲ兼領ス
位(清) 清八吉田ノ郡司吉田清正十四世ノ孫ナリ
位(清) 清八吉田ノ郡司吉田清正十四世ノ孫ナリ
千伍清共後鹿児島近在ト稱シ歷世島津氏ノ
直管タリシガ王政革新以後鹿児島縣ニ隸ス
鹿児島縣廳ヨリ西ニ距ル久貳里拾町
西北都山驛ハ九里
東西南北
日置郡川田村元標ハ九拾五町
同郡中川村元標ハ九里半
犬追村元標ハ九里
比志島村元標ハ九里

地勢

六月川北ヨリ屈曲シ千歳ニ流シ西源八堵丘
陵ニシテ平地八十八ニ過キバ新舊當三
ノ一不更

地味

山地ハ其色赤々其質中麥陸稻蕎麥油菜甘藷等ニ亘シ水涯ノ地ハ其色薄黒ニシテ砂ヲ交

貌地

田百百武拾七九九試武拾二老町三反
火田百九九武拾七九九試武拾三老町四反
山林七老町地拾七老町地拾八九九試武
宅老町地拾七老町地拾八九九試武拾二老町三反

官有地

字
地

頭注 6

三

平
馬

戶數
貢租

貞祖

三

ス叢竹ヲ生メル者アリ雜樹ヲ生スル者アリ
青草ヲ被ル者アリ巖壁ニヘル者アリ皆高
樹無シ

森林

山林官有ニ属スルモノ凡十二町共林木ハ檜
柏櫻柿等ナリ大木少シ民有ニ属スルモノ百
毫町林木ハ松及雜木アリ大木少シ
湯田冷泉本村ノ東ニアリ泉質鐵氣ヲ含ム煙
都山街道縣道ノ三等ニ屬ス本村ノ南大近村ノ
川一傍ノ大迫往還里道一等ニ屬ス本村
街道上分一品日置郡竹山村二道又上原往還
幅八丈二尺長サ九屯里
里道一等ニ屬ス本村ノ西字固四又二里
道今山北郡山郷東保村ノ道又幅五
間山海

冷泉道

甲斐川幹流
テ郡山川ヲ合せ東流シ大辺村ノ北口より下伊
豆或ハ坂石ニ歴テ海へ入シ木村ノ西端ハ簡
便也。又川之支流有川川、入村川、長良川、中
山川、太鼓橋、五瀬川、町川、大河川、叶川、幅
川、大字鍋川、トヨ川、トツ川、下永吉等也。

原野

戶長役場

卷之三

漢市

村中有名ノ原野無シ草生地ト稱ルモノ尤
拾丸町萬林ヲ採ル

物産

米	石一千五百石
蕎麥	石二斗六合
大豆	石三斗五升
油菜子	石九升
甘藷	石八升四合

民業

男女皆農業トス

比志嶋村

古時皆房村ト一村タリ天保ノ末本村ニ併ス

西北ハ三重嶽ヲ以テ比志嶋村本名村ト界ヲ

接シ東南ハ岡ノ原村ト丘上ノ徑ヲ界トシ南

ハ上伊敷村ト岡陵ヲ界トシ西ハ甲突川ヲ以

テ小山田村ニ間道ヲ以テ川田村ニ隣ル

幅員 東西九壳里貳拾町南北凡壳里

管轄沿革(管轄)時滿家院ニ隸シ守護嶋津忠久ニ

属ス寛元ノ頃満家榮尊之レ力院司タリ比志
嶋西保城前田上原園ヲ併有ス榮尊ノ子祐範

地勢

里程

鹿児嶋縣廳西北九三里拾貳町

東南岡原村元標二九壳里

東北重富驛二九三里

西南上伊敷村元標二九壳里貳拾町

西北小山田村元標二九壳里貳拾町

日置郡川田村元標二九壳里

西北三重嶽ヲ界ヒ全村皆陵谷ニシテ比志島

川ノ兩涯稍平地アリ薪炭饒足スト雖モ運輸極メテ不便ナリ

其色赤黒相交ル赤木ノニ川渉ノ地ハ沙多シ
共簞惡シ川流淺少ナルヲ以テ時々旱ニ苦ム

比志嶋村ニ居リ因テ比志島ヲ氏トス其子孫累世嶋津氏ノ麾下ニ屬ス(此志高氏威)天正十五年十二月十八日島津義久榮尊十四世孫比志島義基ヲ日向ノ曾井ニ移ス其後島津氏ノ直管スル所タリ徳川氏大政ヲ奉還セシ後島津忠義封土ヲ奉還シ明治四年七月本縣ニ属ス

稅地	官有地	字地	貢租	戶數	人口
田試壠三町五 步	畠六步一町二 尺及刀換烟百 担九	稻七步	田試壠三町五 步	畠八步	人口
七畠原野百格六町 八步	七畠原野百格六町 八步	原野八步	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一歩宅地	一歩墓地	宅地	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
總計四百拾四町三 反壠試七步	總計四百拾四町三 反壠試七步	河原村中央	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
畠試壠三畠原野四 町三元社地四 步	畠試壠三畠原野四 町三元社地四 步	谷原村南北九 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	菖蒲谷村南北九 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	田西村南北九 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	北之均沙村南北九 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	塚谷村東西二 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	上須山村南北九 町南北九八町 西九九八町	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	地方稅金五拾 錢五疋營業稅金五 拾錢五疋	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	地租三金九 九百四十五錢五 疋	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	本籍貳百七拾四 戶平氏五拾戶	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	總計金壠千貳百三 圓九拾錢九厘	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	男壳千百七拾五 口平氏三百五拾八 口	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	六拾六口平氏三百 五拾八口	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	總計壠千六百四 拾壠口他山	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	牛三拾壠頭牛拾 頭馬貳百貳頭	稻七步	一百四十五口	一百四十五口
一百四十五口	一百四十五口	牛三拾壠頭牛拾 頭馬貳百貳頭	稻七步	一百四十五口	一百四十五口

物產

地ト島心共社ヲ存セ又寛元ノ頃ニリ此志崎
此系也ノ居城ナリ建武二年十月十八日矢上
高純比志崎築不ラ本城ニ攻ム寛之又文明九
年崎津忠昌ニ叛シ此志崎義重入圍ラ本城ニ
解キ志昌ニ配ムシテ志大石五百石平元
栗邑百五郎志昌ニ降ル

甘 諸
萬 千

粟 案百五
麥 大五
斗百八
石
蕎麥 案百五

闔村男女皆農ラ業ト又商ラ業トスル者三戸

卷之三

古時塚原村ト稱シ後嗣ノ原村ト改ム花野村ト

西村タリ後合シテ一村ト爲ス
年号ナラ支

鹽城

東ハ川上村ト吉田往還下田村ト用水路ヲ經
トシ西ハ丘上ノ徑ヲ以テ比志島村ニ隣リ南
ハ上伊敷村ト岡陵ヲ界トシ北ハ丸岡ヲ以テ

本名村二界又

中
國

管轄沿革小野村ニ全シ

貢
和

卷之二

卷之三

地味

地勢

里程

東廢兒街縣廳西北凡武里半
元標村中大字屋基東北一里半
重富驛二凡三里半

新中字屋號重富驛一里半

西 東
比志嶋村元標二九壳里
川上村元標二九壳里

二十九

南上伊敷村元標工丸毫里拾貳町
地勢南北ニ控キ花野川村ノ中央ヲ南流シ陵
谷起伏シ運輸便ナラズ

其色或ハ赤ク或ハ黒ク或ハ白シ大抵ニガモ
赤ボクコシラス等ニテ其質美ナラズ
田三拾六町九又畠武百八町宅地六町五又山
田七畝拾五歩畠九又七步宅地六畝八歩山

總計三百貳拾八町
丈七步
反五步
畝七步
步七步
社地
丈三步
反三步
老畝
荒蕪地
丈六步
反六步
畝老步
草生地
老反七步
畝老步
步七步

民業
麥石一拾四
大戴牛
蒿麥石一
上半甘諸
百六拾九
萬八千五
男女皆農
之業卜大

- 98 -

神社

南方神社

村社社北歲歲拾步本村 / 北二ノアリ
走南方乃美命ヲ祭ル御祭八月廿八

卷之三

吉野村

東北ハ大隅始羅郡平松村ニ界シ西北ハ猪本川
ヲ以テ下田坂元村ニ界シ西北ハ吉田社遠
ラ以テ川上村ニ隣リ北ハ牟禮岡ノ麓ヲ以テ
宮ノ浦村ニ接シ南ハ鹿兒島_{（荷馬場町）}水_{（水馬場町）}ニ接

道路

學校

廣長役場

民業

米	百	七	拾	五	石	五
斗	七	升	五	合		
四	石					
九	斗	小	麦	百	三	拾
甘	譜	麥	石	武	斗	六
六	九	拾	六	萬	五	千
百	八	拾				
七	七	拾				
糯	米	六	拾			
蕎	麥	七	石			
麥	石	武	斗			
裸	麥	六	拾	九		
穉	石	四	斗			
粟	百	武	拾	八		
毫	毫	斗	武	八		
大	麥	三	升			

東北 重富馬村二萬里三拾三疋七十五尺
西北 川上村元標工凡壹里
北 宮ノ浦村元標工凡壹里貳拾町
西 坂元村元標工凡三拾町下田村元標工

里
程

管轄沿革小野村二全

幅員 東西貳里貳拾四町五拾間三尺南北壹里貳拾
四町七間三尺

九三拾町

九三拾町

地味

其色赤黑相交ル雜穀及茶ニ適ス水利不便ニ
シテ時々卑ニ苦ム

其色赤黑相交ル雜穀及茶ニ適ス水利不便ニ
シテ時々卑ニ苦ム

税地	官有地	字地	貢租	戸數
田五拾三町七反畠五百三拾六町五步 五町壹反六步 五步	山林四百九町六反 三步	菅蒲谷木村北二アリ東八 三町壹反六步	花舍武九ノ北西九 方八九村可北北九 松南二五八町九 七社	町壹村南東北九 八町南南北北八 至武九ノ北北九 營業稅
總計壹百壹町九 歲拾三步	原野八反七畠 四拾三町	中川吉田 上村西南北北九 下田原	金七千七百 四錢	本籍壹千九百 八圓五拾三錢 八至
總計壹千三百六拾八町九反九 歲六步	原野八反七畠 四拾三町	水原 石城 軍海	地租 全金一千七百 四錢	元戶 社
總計壹千三百六拾八町九反九 歲六步	原野八反七畠 四拾三町	牛馬	地方	總計金三千九百 八圓五拾三錢 八至

人口

男壹千五百四拾五口
女

歲千八百歲拾四口
平民壹千九百歲拾四口

總計四千三百六拾九口
他出寄留歲拾四口

牛五頭
馬五百九拾六頭

壯牛四頭
母馬九頭

壯馬四頭
母馬七頭

士族八百八拾四口

農夫一千九百歲拾四口

兵士一千九百歲拾四口

婦人一千九百歲拾四口

童子一千九百歲拾四口

女

船	總計六百壹頭	總計三拾壹艘	蒸氣船百噸以上	年禮岡本村北二 頂上テ格本福生路 行路路茂丈村寺 高樹峰山入寺高 鞍里岩條山居 ト本多シニル連 六村東福寺山 ヲ高麗山大石 九光山大石 及武昌山 心人脈及武昌 丈通東北拾郡達 之碑鹿町ノサ 山光余詔山東神 二島高山脈南 接十三西海榮原 大野九接八瀬儿 野周富
漁船武艘	毫艘	毫艘	毫艘	

川

森林

原野

牧場

出崎

石本 每大 十雄共吉加少吉 右木 磯(シケ)川 嶺二共係島村精
 村崎嶺三官後野地今野 五西 平林 長田木草ニ属流ルニラ本
 タ海海本出本年二牛原ト大原 可北 丸二村流シス設セ松護川
 銀瀬中村大村ニ諸馬ニナ括本
 海ノニ海ルノ至テアリ開ニ村
 中市牛後瓦東テ此牧リシ整接
 ニ出ト營浦北地セ官ハシシ北
 豊アス中町ニ社タガ有享テ東年
 四リル央之方牛借明ニ保報ハ後
 大巖凡ニラル三リ治居属以較大國
 六ア大巖拾牛四ア又後ラハ麓
 開リ寄石頭ヲ年六十十挂始
 滯巖ハニア牧鹿地リニ羅郡連
 ラ石吳テリス見古下土郡重心北
 ナニト海島牧云人富郡八吉田
 斯ラ呼中島如十傳説ニ控
 者落斗談七義此
 嶺三

神社

道路

無ラ故久島年月不十管無十伊建祭許剣 蒲劍ノ月天劍ノ白間郡リ一ニ大ア山威瀬ラ道
 シ蒲知八津月十ニ不格一説年十十建谷舞西十強建例山廣ニ故等合令酒始
 先生客島威許ニ上道社月那月一ト年神社十二四空年祭上口咩
 正城ア津久十日人莫村十岐許月六月大月十日大月十日大月十日大月十日
 八ニリ慶ララ劍ノ八命ナ十七天無月リ劍神許一月大月十日大月十日大月十日
 年擊年久祀大史文神社神社神社神社神社神社神社神社神社
 吉ツ甫南ノル平松神社神社神社神社神社神社神社神社
 由爾テ第州松無劍丁寔耶劍步伊諾社步伊諾社
 三後十三條神社步格糸川年关反格糸川年关反格糸川年关反格糸川年
 川政九子十一ニ無尚村月地許ノ封城業ナニニ月在格神ノセ四十祭社大村剣二月正大
 郡戰二人二ノ社ラ北五及ラルア無因ノ祭ア詳室一ノア無行伊ニ
 谷功從ト十社祭ニニ三ノ阿リ格主東十ノ太寶院ノ
 五五社ノノ三束剣ノ定武管北村ラア月地スラ神社
 二養蒲リヨ三束剣ノ定武管北村ラア月地スラ神社
 移七生沈島及字祭社年祭社命ニ一社ラ神社
 二十範深津穴平十地月三神威東ル社立高心社無取西ラ五
 ル清剛威步松一五詳步社步ニ御地日歩舊村始步ニ祭

三ニテ席ク兵病ヲ武アノ元久シ就メ與元長之攻前ノ島ヲ館久歲ニ發秀ト吉ナ人言納臣十
乃安シラ草十ラ久義言義國ムケ其ルス政ニメニラ津興事病久導シ吉スノシモテ忠秀四
チスラシ臣山興是ノ久ラ久義既シ罪ト初等酒小玉作義シララニク華怒義恭ト之曰元吉年
既歲兵山義ラシニ首ニ極トトニタ無為秀ラ川リズ弘諸知以由トラル久平諸ニト大兵
ケ久ラ是久察旅於ケ興ク和諒シ細キシ吉シ飯城兵部道將ラテル時為乃ラ寺ン敵秀舉ヲ
水之時虎ニシ兒テ新ヘニララテ川ラ罪國テシララ將テラシ末トニスチシラ諸ス吉吉シ將
ニカテク吉乃高義リ威及謀同誅幽論ク義國メ拔還梅新部ム謁愈飛路山ヲ發フル大ラテテ
詔聞之山子チニ久素久テスフ者齊ス加ノ義醉クシ北御署文セ恨箭九時歲ス遠者兵要薩摩
大キラニ曰實宿歲レノ大ルスアラ秀ン故ラシ佐佐國ラシ様ズム肩尾ノ久ルテ無ラ擊摩後
家以遂放ク近ル久否罪ニラ秀リ遣吉トス討ノ數數義攻肥元家秀興タリニヤ之シ提セラ白
臣テハツ今レ陰ラララ想攻吉秀リ万歎ルシテノ城義山前年正吉ノ經鶴合將ラ天ケン狂に
戰竟シナ歳舟ニ都サ教ルテ教吉英チスラト之人ヲ弘歲名秀本選前秀田ケニ擊下我トス城
ニルメリ久ニ諸答レアセ之忍ニ北義德聞至ラ境階ニ久蓮吉田ニニ吉ニシ邦ン將疆隸ラ
ト。吉乃ク東人沈以且月ラ一夢ノ文州シレ殺某レ後疾屋大掃鶴及以如ム谷義タリ久守
欲得田千謀シノエ計ツ十優ニテ故ラ東ヤハス婦又レアヘニ部田ヲ為ク歲院又國侵寇大ル
スア諦町ナ福耳召ノ田日空非テ堂徵廉義刑麥入八テリ陣征期ニ以ノ歲久ニ許ニロ十
之儿生田英本日又國ク秀ススヨラシ之久チ吉ラ代充軍ス韓フ宿為故久許宿サ一較義地五
ヲトノ久色ニ帝歲ラ遠吉諭然ク泊國ラ之臨江シ域シニ六ノシスクニ人サセズ男テ久頭年
文為簡倍ニ加三久居ニ書者レ武メニ諭ニニ野テラ肥從月節テ歲賊險ラスン秀子一二新畫

學校

電線 鉄便 局長 徒場

教本 講字俊二本公立ノ忠寵山必ニス田忠寺メ歲ニ配守淡久ザラルレ足ンステ
千村 路帶設ア村始生立ノ忠寵山必ニス田忠寺メ歲ニ配守淡久ザラルレ足ンステ
坪ノ平本追極リノ人徒學校見伏猿ラ曰ス義勃フ義ウ證久戰ニ義ウ永白詠者意審ト皆曰
本市松村ニ村坪中男ノ秀ク此久メ歲心建シノ光常慮墮訣雲スア氣舜欲戰若
節穂村大アノ教夫二狩果ラ吉他人ニ歲久岳テテ死ス久ノスノノ曰リ自自ステ父
糸三ニ福リ西五年五ノシ證ニ日也告久ノ寺疏心ス常ラ質歲敦上ク達若承歲丸ノ
ラア達路鉄中人ハ如テス得吾公テ伊光ラシ岳ル久生ニ久ラト暗ニ表ス久ス命
翼リスノ歩形南女本シ歲ル共テ宜田集ス廢テ良ヤ薩ム不年付答蓑起皆ル之將校
大坪張左裁ニ里リ始南可羅耶

久該者株號八竊トト津一埋ク坂ラ摩ニ義イ歌十新手メカメ
千村 路帶設ア村始生立ノ忠寵山必ニス田忠寺メ歲ニ配守淡久ザラルレ足ンステ
坪ノ平本追極リノ人徒學校見伏猿ラ曰ス義勃フ義ウ證久戰ニ義ウ永白詠者意審ト皆曰
本市松村ニ村坪中男ノ秀ク此久メ歲心建シノ光常慮墮訣雲スア氣舜欲戰若
節穂村大アノ教夫二狩果ラ吉他人ニ歲久岳テテ死ス久ノスノノ曰リ自自ステ父
糸三ニ福リ西五年五ノシ證ニ日也告久ノ寺疏心斯常ラ質歲敦上ク達若承歲丸ノ
ラア達路鉄中人ハ如テス得吾公テ伊光ラシ岳ル久生ニ久ラト暗ニ表ス久ス命
翼リスノ歩形南女本シ歲ル共テ宜田集ス廢テ良ヤ薩ム不年付答蓑起皆ル之將校
大坪張左裁ニ里リ始南可羅耶

丁國亡クフ院ルシ心空義摩忠志ラシヘメテ脩能ニ士セ
リ善ス心異志其更岳大人日降降亨首ヨガ之代ハ語進
忠ト者ウ日抹罪ニ寺祥痛置天ケルヲ暗玉ラ散不テラテ
據謀必用亂ノニ社ト伯伴絆正養五旁蓑ノ新テ公曰之
後ラスエラ人非ラ曰ト達ラ十テ十吉ハ有ル起等クニス
島同北ベ節トス達フ曰數領五子六ニ歲家歲タラ身還
津ア人シ内為後テ明ナラシ年ト一送久ラ久々頃疾り而
民ス也忠ニノ人平治慶雖子日為女儿ノ人終原シ病自己
ニト忠操作ラ之松三長ケ孫列シア秀疏間ニ由我ニ哉
致諸據開ス惡ク神年四承相承共リ吉ナハ賄基頭罹セ
シヲ便而者ミ完社焉年ニ族古女後為リ、ミ次ラリシ

東	重富驛工凡三里
西	本名村元標工凡毫里拾六町
南	吉野村元標工凡毫里貳拾町川上村元
北	本城村元標工凡毫里貳拾毫町五拾四 間
地味	南八精木川ラ帶ヒ東ハ牟禮岡ラ負フ倉谷川
稅地	本村ノ中央ヲ南流シ精木川ニ入ル二川ノ涯 一蒂ノ平地アリ他ハ皆岡陵ニシテ其上ニ畠 地アリ
其色黒赤相交ル 其質美栗麥	南八精木川ラ帶ヒ東ハ牟禮岡ラ負フ倉谷川
蕎麥甘藷等ニ宜シ	本村ノ中央ヲ南流シ精木川ニ入ル二川ノ涯 一蒂ノ平地アリ他ハ皆岡陵ニシテ其上ニ畠 地アリ
宅地	南八精木川ラ帶ヒ東ハ牟禮岡ラ負フ倉谷川
不定	本村ノ中央ヲ南流シ精木川ニ入ル二川ノ涯 一蒂ノ平地アリ他ハ皆岡陵ニシテ其上ニ畠 地アリ

官有地	社地	宅地	山林
沼地	水田町壹拾壹步	三反四	武拾五町三
大原	水田町壹拾壹步	七步	武拾五町三
总计	水田町九畝拾貳步	七步	武拾五町三
字地	倉谷	宅地	山林
北里	水田町九畝拾壹步	三反四	武拾五町三
丸	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
東	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
西	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
大原	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
原	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
总计	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
貢租	倉谷	宅地	山林
地租	水田町九畝拾壹步	三反四	武拾五町三
地租	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
地租	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
总计	水田町九畝拾壹步	七步	武拾五町三
户數	本籍百七拾四户	宅地	山林
本籍	本籍百七拾四户	水田町九畝拾壹步	武拾五町三
总计	本籍百七拾七户	水田町九畝拾壹步	武拾五町三
本籍	本籍百七拾七户	水田町九畝拾壹步	武拾五町三
总计	本籍百七拾七户	水田町九畝拾壹步	武拾五町三

人
口

男四百貳拾三口平士族三百四十二口女西面四拾
七口士族一百拾口平民三百拾九口女西面四拾
七口士族三百三拾七口

牛馬山

總計貳百九拾八頭
牛禮岡吉野村及七
大福始羅郡平松村二
路川其東北ノ麓八
本村三名不當及上
田八吉野村二
許ナリ

原野

吉田堀原官有民有相交川村ノ東北ニアリ東
西九半里南北八半里武藏府町相模無シ唯東
生本村ノ北二アリ車橋同ノ北至唯
交川村木十九半里南北凡拾五町官有民有
少唯草ヲ生又
吉田往還里道一等ニ届ス本村ノ東南川上
毫里三拾町度廿凡貳間支道アリ村ノ界ニ至ル長
八幡神社ノ前ヨリ西ニ折レ本名村ニ通大
公立小學校本村ノ中央ニアリ
八幡神社無社本村ノ中央ニアリ社地四反八
畝步引祭十一月五日二月五日

道路

吉田堀原官有民有相交ル村ノ東北ニアリ東
草生スハ平野本村ノ北ニアリ辛種園ノ故ニハ
相交ル樹木ナシ唯草ヲ生スハ瓦貳間支道アリ村ノ中央ニ通ス
モハ八幡神社ノ前ヨリ西ニ折レ本各村ニ通ス
モハ毫里三拾町度サ凡貳間支道アリ村ノ中央ニ
モハ公立小學校本村ノ中央ニアリ徒勞四拾六人
モハ八幡神社無拾社本村ノ中央ニアリ社地四反八
モハ武志祭十一月五日二月五日

戶長役場 物產

卷之三

本名村

西八日置郡原地村ト花尾山ノ頂ラ界トシ摩郡入來郷長野村ト山野ラ以テ界シ北ハ西佐多浦村ト山野本城村ト畔道ラ以テ界トシ東八宮ノ浦村ト岡陵南ハ比志島村ト三重嶽ノ項岡ノ原村ト丸岡ラ界トス

幅員

東西凡壹里南北凡壹里貳拾

管轄沿華宮，浦村二司之

里 程
鹿兒嶋縣廳 三里北 凢三里拾五町
元標村ノ中央字龍ノ下ニ在リ
東 西
重富驛工凡貳里拾貳町
日置郡原地村元標工凡壹里
西 薩摩郡入來鄉長野村元標工凡貳里貳

北 南 東 北 宮 本 比 志 峰 佐 多 浦 村 元 標 工 凢 壱 里
浦 村 元 標 工 凡 壱 里 標 工 兮 壱 里
元 標 工 兮 壱 里

地勢

地味

西花尾山ヲ貞ヒ土地高爽本名川源ヲ深壑ニ
發シ東流シテ本城村ニ入ル川涯稍平地アリ
田ハ其色黒ク沙ヲ交エ其質惡シ畑ハ其色黒
ク其質中ミボ甘諸ニ宣シ

稅地
田百武拾六町四畝百九拾九町五
反八畝拾三步畠百九拾九町五
反八畝拾三步畠百九拾九町五
切換畠七町九拾九反八畝七步

田	百貳拾六町四畠百九拾九町五步八畝拾三步畑反六畝三步	切
宅地	貳拾壹町七拾町九步	山林
試拾貳步	五步	五畝五步
試拾貳步	九反九畝拾七步	總計五百六拾壹町九反九畝拾七步

官有地 山林三拾七町六反八畝步 原野三町六反七畝步
總計四拾壹町三反五畝拾壹步

町六原野三町六反七畝拾壹步

總計四拾壹町三反五畝拾壹步

字地

官有批

貢祖

地租金歲千五百五營業稅金八地方稅金四百三十一同

總計金貳千九百貳拾六圓九拾貳錢六厘

戶數
本籍三百貳拾五戶士族八十一戶民貳百四拾五戶寄留京
上正五

戶族社三戶
木木草
無格社貳座

人口 男七百貳拾七口 士族貳百拾八口 平民五百九口 女六百八口

貳 口士族貳百四口
平 民四百七拾八口
總計壹千四百九口
男本村二寄留廿四口
女十四口

牛馬
牛五拾五頭 牛三拾五頭
牝牛貳拾頭 馬四百五拾三頭
牡

總計五百八頭
四百歲拾九頭
一百歲拾四頭
一歲拾九頭馬

三

本城川支流一本
ノ一ハ村ノトノ本北八村
ニ本ニ三本ニ
ノハ村ノ八本
ノハ村ノ西本名
ノ西本名
ノ横川
トノ瀬ト
ノ人畔
ノ官フ
シドニ林水
ノ瀬平太川ヨ瀬
松原根岸山

山 森林

二属木難木ニシテ莫
大ナル元ノ園丸武又

道
路

原野

神社

學校

公立小學校

本村ト中央ニアリ
生徒男六拾七人

戸長役場

東佐多浦村ニアリ
木村ヲ義又

古跡

飯山古戰場

文明十七年吉田領主吉田孝清
津氏ニ叛ス島津忠昌之ヲ伐テ飯山

物產

米

高千拾石八斗五升
八斗四升甘藷八千石

粟

八石

裸麥

三拾石五斗

小麥

石六斗

民業

闇村男女皆農ヲ業トス農隙薪ヲ採ル

疆域

本城村

吉田郷ノ中央ニ位シ東南ハ大隅始羅郡

童宿
都

平松村ト岡及ヒ谿流ヲ以テ界ヲ接シ西ハ本
名村ト畔道ヲ以テ相隣リ北ハ岡陵ヲ以テ西
佐多浦村ニ接シ東ハ東佐多浦村ト村道南ハ

宮ノ浦村ト岡陵ヲ界トス

幅員

東西凡毫里南北凡貳拾町

管轄沿革

宮ノ浦村ノ浦村ニ同シ

里程

鹿兒島縣廳三里北ニ距ル凡四里

元標工北亨於松在リ

東南大隅始羅郡平松村工凡毫里貳拾町

本名村元標工凡拾八町

宮ノ浦村元標工凡毫里貳拾毫町五拾

四間

西佐多浦村元標工凡三拾町貳拾間

東佐多浦村元標工凡貳拾四町拾毫間

西崇嶺ヲ負ヒ東ハ谿ヲ隔テ、牟禮岡ニ對ス
本城川村ノ東南ヲ流レ川涯一帯ノ平地アリ
水利便ニ薪炭乞カラズ

地勢

地味

畑地ハ其色赤黒相交ル赤ホクコ田地ハ其色
黒木クコニテ最下等ニ属ス

税地

官有地

總計貳百四拾三町壹反三畝貳拾貳步

字地

山林 七町四畝
原野 拾貳町八反五步
社地 八反四畝
總計 貳拾町七反七步

貞祖

地租金八百四拾圓
四拾五錢四厘
總計金九百拾五圓拾八錢六厘

戶數
本籍七拾九
總計八拾戶

六社毫戶

道
路

原野

卷之三

牛
屋

人
口

男百八拾五口 士庶四拾五口 女百七拾四口 婦孺一百一十五口

牛貳拾貳頭
馬百頭
牛六頭
馬三頭
牛拾六頭
馬三頭

久邊山
村ノ西ニアリ高サ久
ラ生於六文

本城川支流一二本名川ト云フ源ラ本名村人
山中ニ至ニ本村ヲ東流シ裏佐多浦村
經テ思川ニ合シ大福始羅郡平松村ヨリ海
入ル長千本村ニ係ル乞ノ丸壹里廣サ六間
深サ或又其流或ハ幾或ハ急十リ

神社

學校長役古跡名勝

物產

花尾神社
村社 村ノ東ニアリ夏則三夏四歲
祭十一日五日祭神及上割
建年月
辛未

疆域

西佐多浦村

北ハ岡陵ヲ以テ大隅始羅郡諱生久末村ニ界シ東ハ用水路ヲ以テ東佐多浦村ニ隣リ南ハ本城村ト岡陵ヲ界トシ西ハ本名村ト山野ヲ界トス

國
史

上ノ城	壠本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ何人人居城セシヤ詳十ラズ
涼松	木本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
入来	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
林外	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
芳店	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
落山	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
三	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
四百拾	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
五斗	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
石三	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
五指	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
五斗	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
甘諸	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
上吉	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
七千四百斤	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
○	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
以	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
大麥	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
八斗	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
石五	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
小麥	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
七石	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
九斗	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
石九	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
男方皆農	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
ラ業トス	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
商ラ業トス	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也
商ラ業トスル者五戸	本村ノ中央ニアリ因上平地ア リ年産千石也

里
程

東	鹿兒嶋縣廳
南	元標工八村／東享宮下二五里
西	大隅拾羅郡浦生鄉久末村元標工一五里
本名村元標工一五里	東佐多浦村元標工一五里
	本城村元標工一九三拾町一五里

地勢

全村岡陵起伏思川其間ニ流レ運輸便ナラズ
ト雖ニ水利便ニシテ薪炭足ル

地志

其色淺黑色ニシテ沙ラ交工其質中等米麥甘

上體等ニ宜シ

稅地

田百拾八町畠四拾六町大反
武反立旁畠五畝貳拾八步
宅地立畝貳拾八步
步切換畠反六畝立旁山林
三拾三町三山林四拾貳町五反
原野武貳貳拾七步
野六拾壹町三反
原野三畝貳拾三步

官有地

社地五反五畝山林拾町九奉九
拾三步畝拾貳步原野及七畝拾
步沙揚場六步町四

字地

貢租

本籍百六拾七户平氏族六拾八户
民九拾九户寄留壳户平氏社

五户
無拾
社
四
在

人
口

男三百五拾七口 女一百一十四口
女三百五拾七口 壴一百一十四口
平 民 貳 百 三 口

牛
通

牛五拾六頭
北牛五拾頭
北牛六頭
馬貳百八頭
牡馬三拾頭
馬頭北萬頭

總計貳百六拾四頭

高峰本村ノ西ニ築工雜木ヲ生
高十尺三捨丈周回氏捨入

三

高峰 高木氏三拾文周回凡拾八町
恩川 源流水脈本名村ノ山中ヨリ出テ東流シ
テ本村ニ至リ漢流ヲ合セ又東流シテ東
條多浦川ヲ合セ大隅始羅郡平松村
村三丁海二丁入ル
間本村
村ニ係ルモノ集瓦毫里
深サ凡高天五尺
格志町海二丁凡高天五尺

卷之三

十町林 官有三層又村ノ西二丁半東西凡八町
南北凡三町周回凡戴給町雜木ニ生
開松樹アリ
皆小木丁少

三

大生 小松尾官有民有相交此木村ノ西ノアリ東面
瓦拾戸町市北瓦五町樹木無シ唯草木

道路

蒲生徃還

蒲生 徒還
界道一等二層又本村ノ南本城村ノ
川北大隅輪羅郡久末村ノ界ニ

東佐多浦村

本村ハ古時佐多村ト稱シ大隅始羅郡ニ屬

令ノ西佐多浦村及ヒ始羅郡織田村ト一村名
リ天正十五年初テ鹿兒島郡ニ属シ慶長中佐
多村ヲ割キ始テ本村及ヒ西佐多浦村ト為ス
大隅始羅郡平松村ト東北ハ原野南本城川
ヲ以テ界シ西北西佐多浦村ト用水路ヲ界ト
シ西南ハ西佐多浦本城西村ト村道ヲ以テ隣

學校

神社

金峰神社

金峰神社 村ノ中央ニアリ 様社地毫
六畝六步例祭十一月十八日小國神

大王神社
社無村

卷之三

物產

米 九百四拾
粟 八拾七
小麥 八石三
裸麥 拾六石

氏
業

閑村男女皆農ラ業トス

三

中ニ在テ地頃卓ク幅員最小ナリ

西佐多浦村元樫工瓦貳拾四町
連山繚繞思川本城川村ノ前後ニ流ル吉

地味

其色澁黑其質中等二層又雜穀及茶二適不

牛馬

税地

田六步氣吸八步氣吸五步氣吸三步功摸氣吸九步

官有地

總計百六拾四町四反拾壹步

社地 大夏五町九反
山林 五町九反
武拾六步八畝步 原野 五町四反
八畝步 及九步

總計拾武町三反四畝五步

支原野五十九步

字地

秋段 本村ノ南ニ接又東西凡三町南北凡四町 村小山村本

文
祖

户
卷之二

本籍百六拾貳戶士族石八廣平民五拾四戶社貳戶安村社
居戶

四

男三百五拾口 士庶家百四拾八口 女三百七拾
平民百武口

總計七百貳拾三

10

男三百五拾口 士庶家百四拾八口 女三百七拾

道路

1

牛五拾九頭

馬百九拾貳頭

總計貳百五拾壘
松尾城山公村九里
西
鋪

二アリ高十瓦
大柄町山上城塙アリ戸跡ノ餘
屋敷郡平松村ノ境ニ
九文岡曰瓦戸格町今
本村ノ東平松村ノ
二アリ高十瓦

思川、本村ニテ源流本村ニテハ前川ト呼フ、水源本各村
村ノラ説テ、源ニ至テ本城川ヲ合セ、東南流シテ本村ヲ過ケ、平松
拾武間深サ凡毛足五寸、其流設シ。本城川後川ト云フ源ニテハ
佐多浦村往還ニ居ス。本城川後川ト云フ源ニテハ、平松村ノ
本各村ノ山中ニ發シ、本城川後川ト云フ源ニテハ、平松村ノ
リ平松村ノ東流シテ温川ニ入ル。本城村ノ入り口ノ處
ノ零ヨリ平松村ノ東流ニ至ル。長凡武拾町間深サ凡毛足五寸、
拾町間深サ凡毛足五寸、其流設シ。

戸長役場

本村ノ中夾字義ノ段ニアリ又別毫又武拾六
本村及本名本城宮ノ浦西佐多村五村ヲ兼

郵便局

本

村

ニ

ア

ノ

南

リ

候

字

義

ノ

段

ニア

リ

又

別

毫

又

武

拾

六

本

村

及

本

名

本

城

宮

ノ

浦

西

佐

多

村

五

村

ヲ

兼

古跡

物産

當其以兵日リ元清主為山ノ冬吉吉

斗米半斗後テ數忠吉三等良不位孫二田西城塙

五百六十之本吉継元田原吉室天清位仕吉吉

城塙一城之功之山ニ說町

千石四百四ラ田四等城塙加文自請テ清功

親鄭永城ヲ秋城治十又八八ス津アニ山ニ松

行令立尾夏ノ孫兵成山ラ木本城之地六ララ田

七トニ頭年羊發発シ有ン主已隆正吉城

六五フル為大敵宮斯月三月知島成隆正吉

シ城ニ島津久景社長久乃千子七蒲東城城

吉久興慶寺前乃攻山城新蒲生郡代ラ四津久ア

田城臣阿多居ニ戰八月達志範城ト攻せ元中

シ築ラ久敵八月達志範城ト攻せ元中

山ヲ

石拾小麥八石裸來石拾四

民業

戸關

村

男

女

皆

農

ラ

業

トス

商

ラ

業

トス

ル

者

拾

武

民

業

トス

ル

者

拾

武

明治十五年九月吉編成

鹿兒島縣令渡邊千秋
鹿兒島縣六莘屬丸山子登

